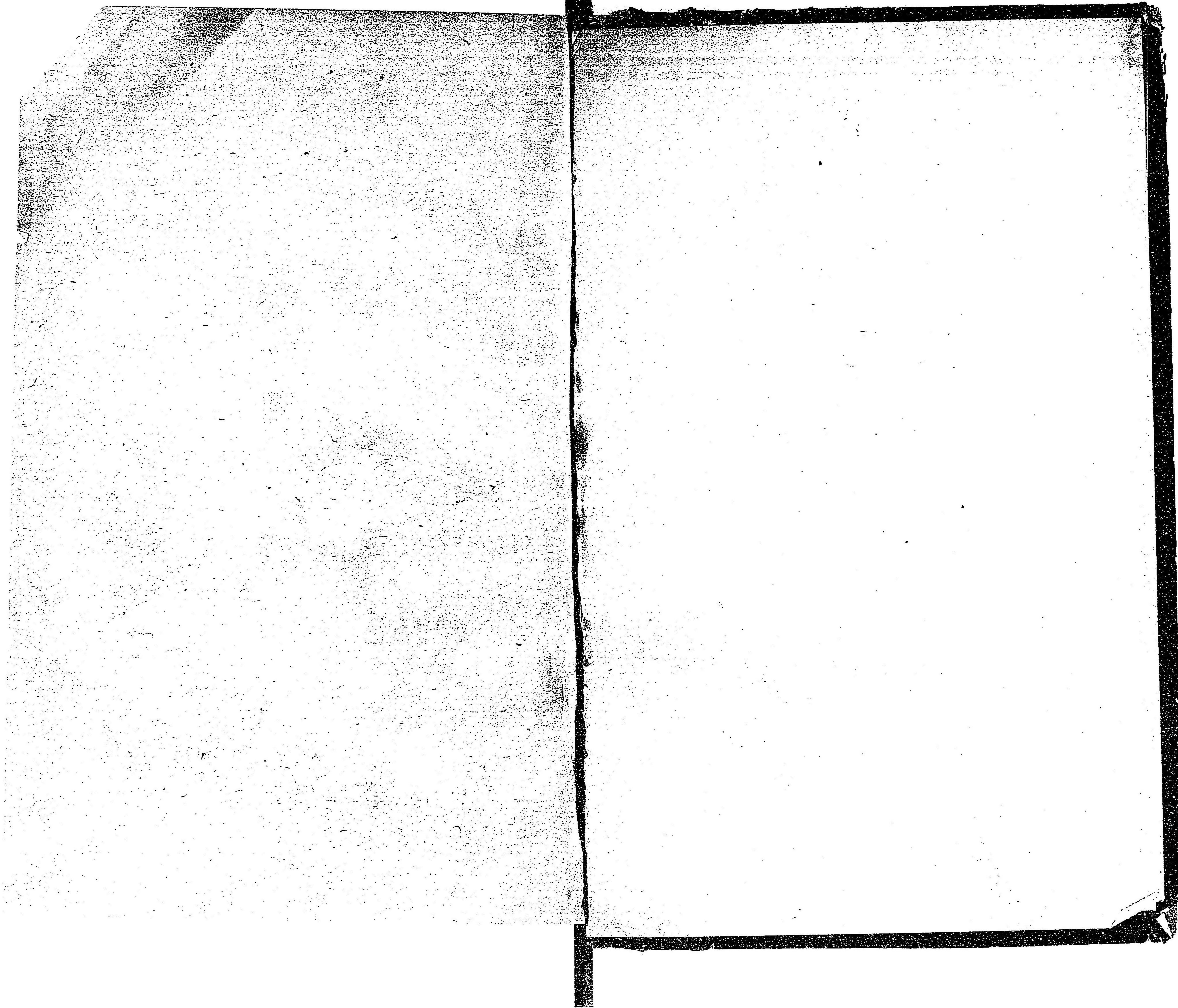


71

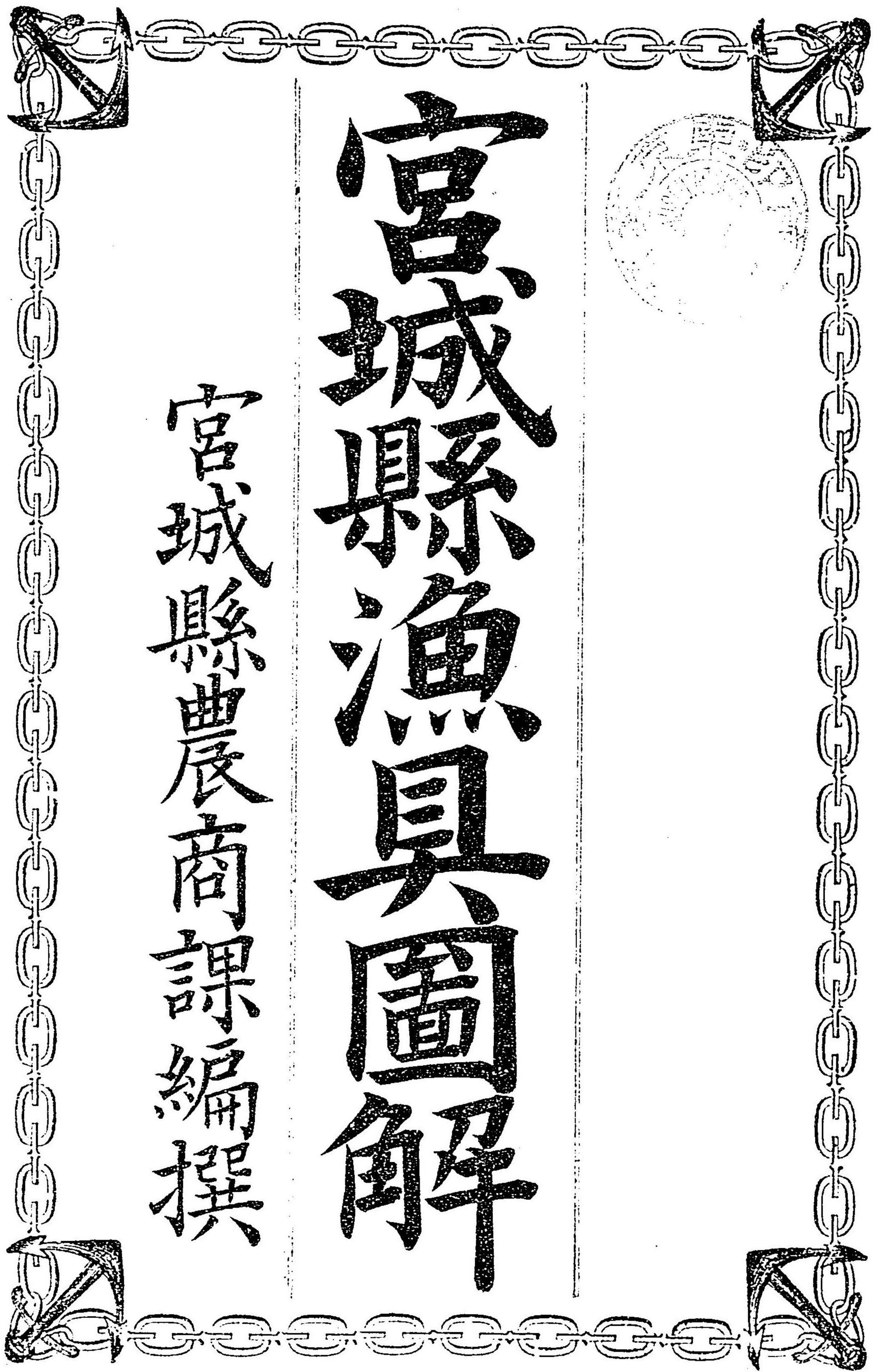
981

國文彙編
卷之三
同
年



宮城縣漁具圖解

宮城縣農商課編撰



蘇子



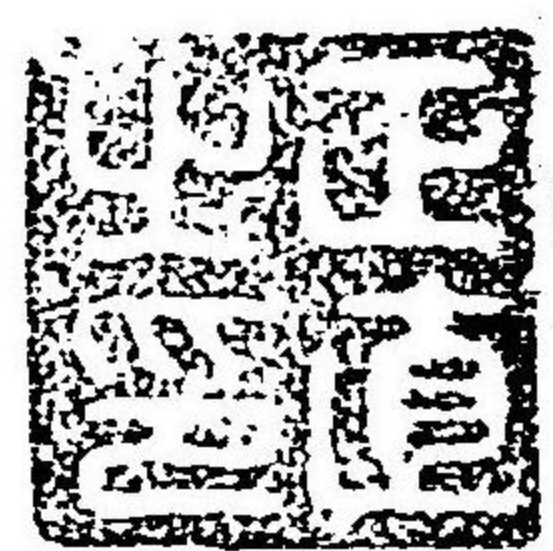
番

羽

行

明治二十一年

從四位 松平正直



一 投網	……(第十三號)	……	十三	丁
一 海老網	……(第十四號)	……	十四	丁
一 四手網	……(第十五號)	……	同	丁
一 狹網	……(第十六號)	……	十五	丁
一 海鵠魚繩	……(第十七號)	……	同	丁
一 蟹繩	……(第十八號)	……	十六	丁
一 鴉繩	……(第十九號)	……	同	丁
一 鯉鈎具	……(第二十號)	……	十七	丁
一 鰻鈎具	……(第二十一號)	……	十八	丁
一 鰍鈎具	……(第二十二號)	……	十九	丁
一 回掛	……(第二十三號)	……	二十	丁
一 鱧鈎具	……(第二十四號)	……	同	丁
一 鈔	……(第二十五號)	……	廿一	丁
一 章魚捕具	……(第二十六號)	……	同	丁

一 海鼠捕具	……(第二十七號)	……	廿二	丁
一 鮑捕具	……(第二十八號)	……	廿三	丁
一 石蜘蛛捕具	……(第二十九號)	……	廿四	丁
一 蠣採具	……(第三十號)	……	同	丁
一 貝採具	……(第三十一號)	……	同	丁
一 昆布捕具	……(第三十二號)	……	廿五	丁
一 鰻筒	……(第三十三號)	……	同	丁
一 鰻搔	……(第三十四號)	……	廿六	丁
一 海苔箕	……(第三十五號)	……	同	丁
一 篠漬	……(第三十六號)	……	廿八	丁

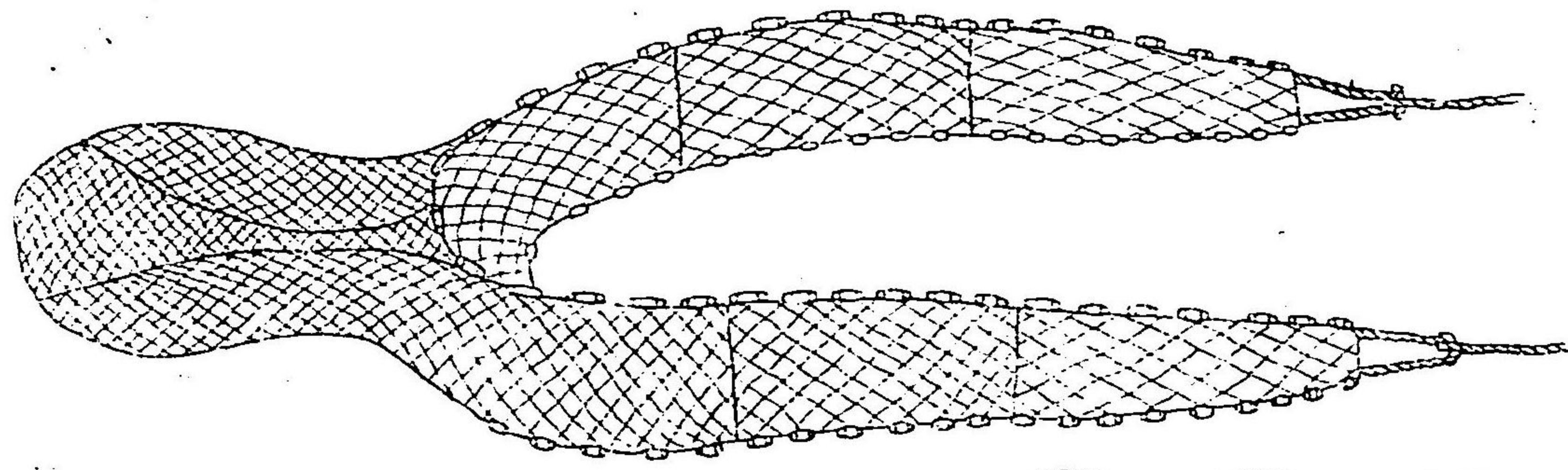
附水產物略圖 …… (從廿九丁至四十)

解說目次

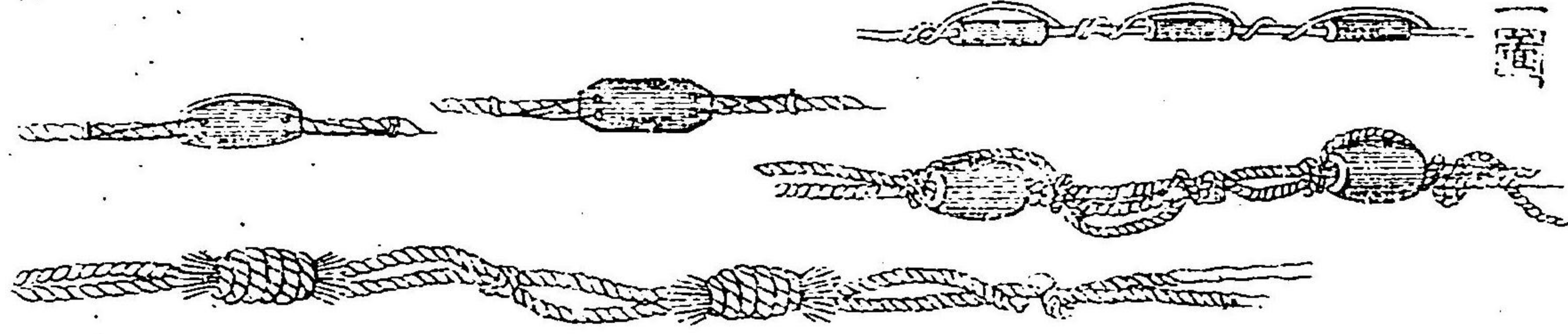
一 浮操網	一名沖操網(第壹號)	……	初	丁	
一 大網	鮪網(第貳號)	……	三	丁	
一 地引網	鱸網(第參號)	……	六	丁	
一 鮭引網	……	(第肆號)	……	七	丁
一 網線網	鯨及鰯網(第伍號)	……	九	丁	
一 鱸追網	……	(第陸號)	……	十	丁
一 指網	鯪指網鱈指網(第柒號)	……	同	丁	
一 流網	……	(第捌號)	……	十二	丁
一 卷網	鮪卷網(第玖號)	……	十三	丁	
一 居操網	鮭網(第十號)	……	十五	丁	
一 張網	……	(第十一號)	……	同	丁
一 冰網	……	(第十二號)	……	十六	丁
一 投網	……	(第十三號)	……	同	丁

一 突籠	……	……	十七	丁	
一 海老網	……	(第十四號)	……	同	丁
一 四手網	方言持網(第十五號)	……	十八	丁	
一 狹網	……	(第十六號)	……	同	丁
一 海鵝魚繩	……	(第十七號)	……	同	丁
一 附小繩	……	……	十九	丁	
一 蟹繩	……	(第十八號)	……	二十	丁
一 鴉繩	……	(第十九號)	……	同	丁
一 鯉釣具	……	(第廿號)	……	廿一	丁
一 鰻釣具	……	(第廿一號)	……	同	丁
一 鰕釣具	……	(第廿二號)	……	廿二	丁
一 回掛鮎釣	……	(第廿三號)	……	廿三	丁
一 燈釣具	……	(第廿四號)	……	同	丁
一 針	磯車魚捕獲器(第廿五號)	……	廿四	丁	

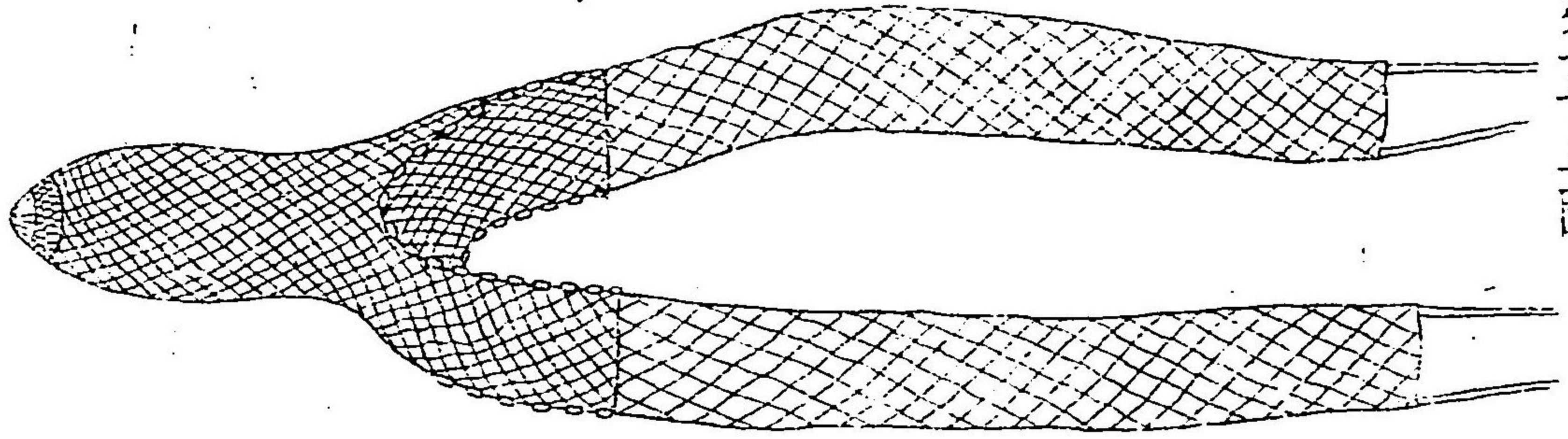
第一号一圖



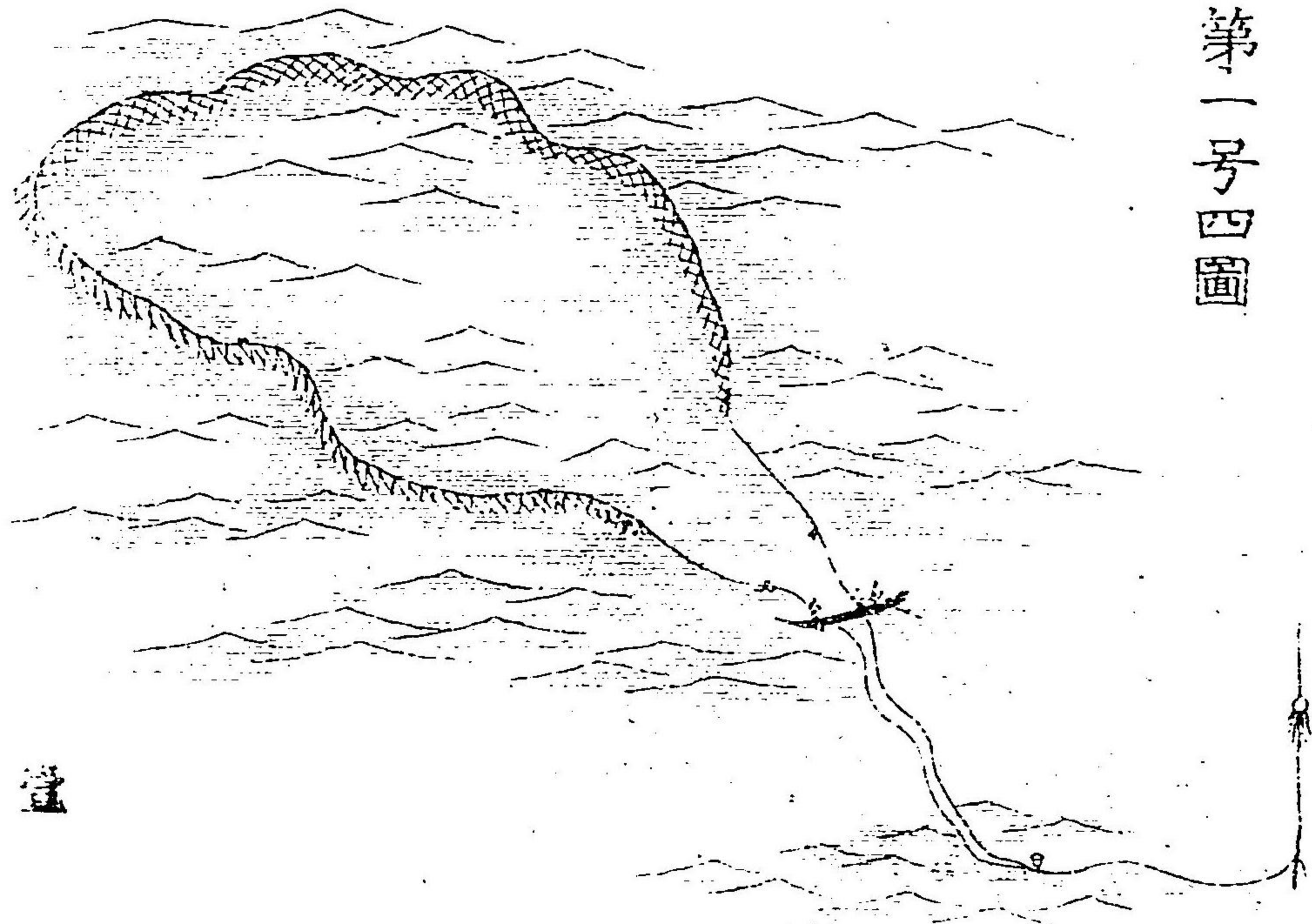
第一号二圖



第一号三圖



第一号四圖

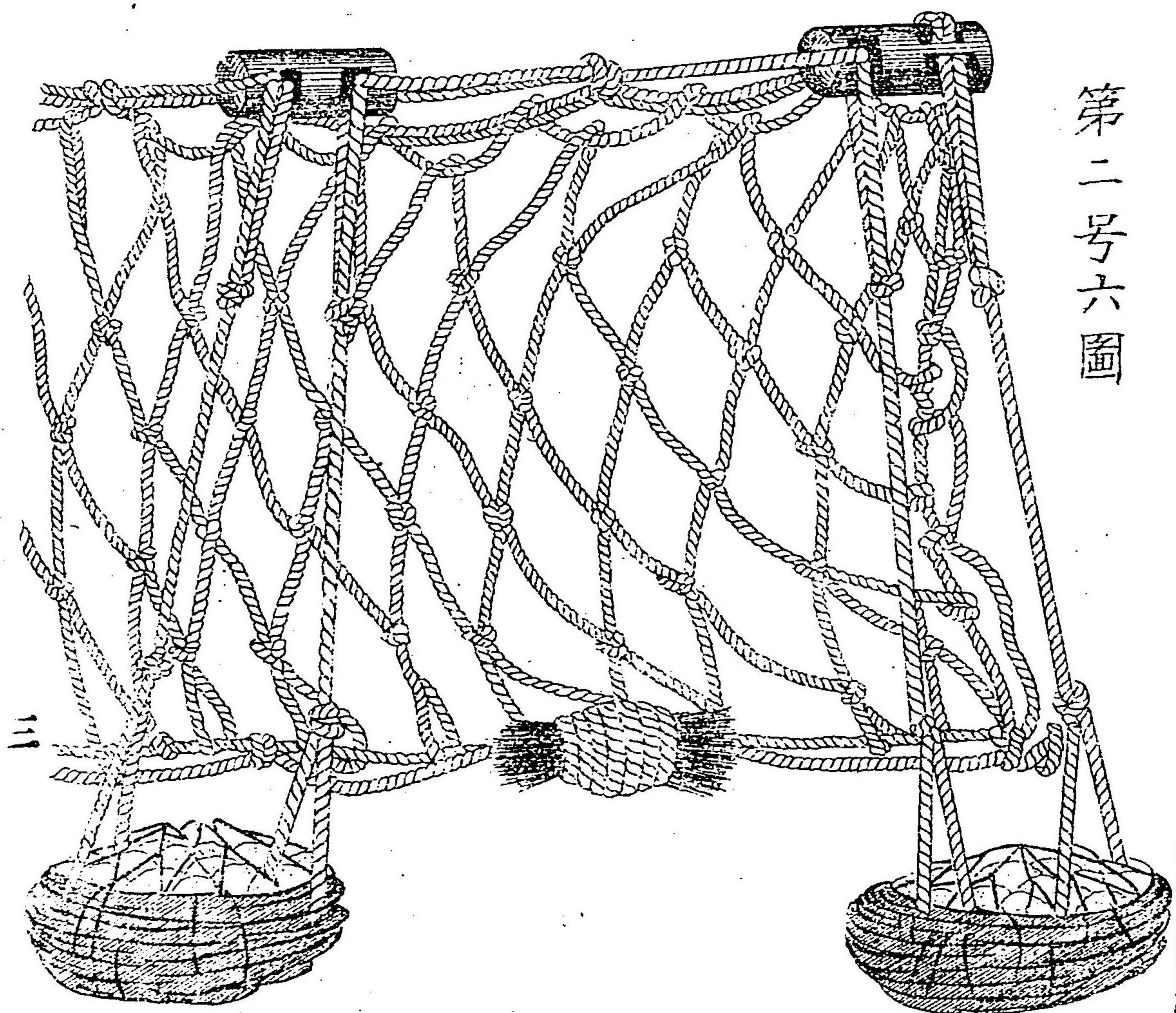
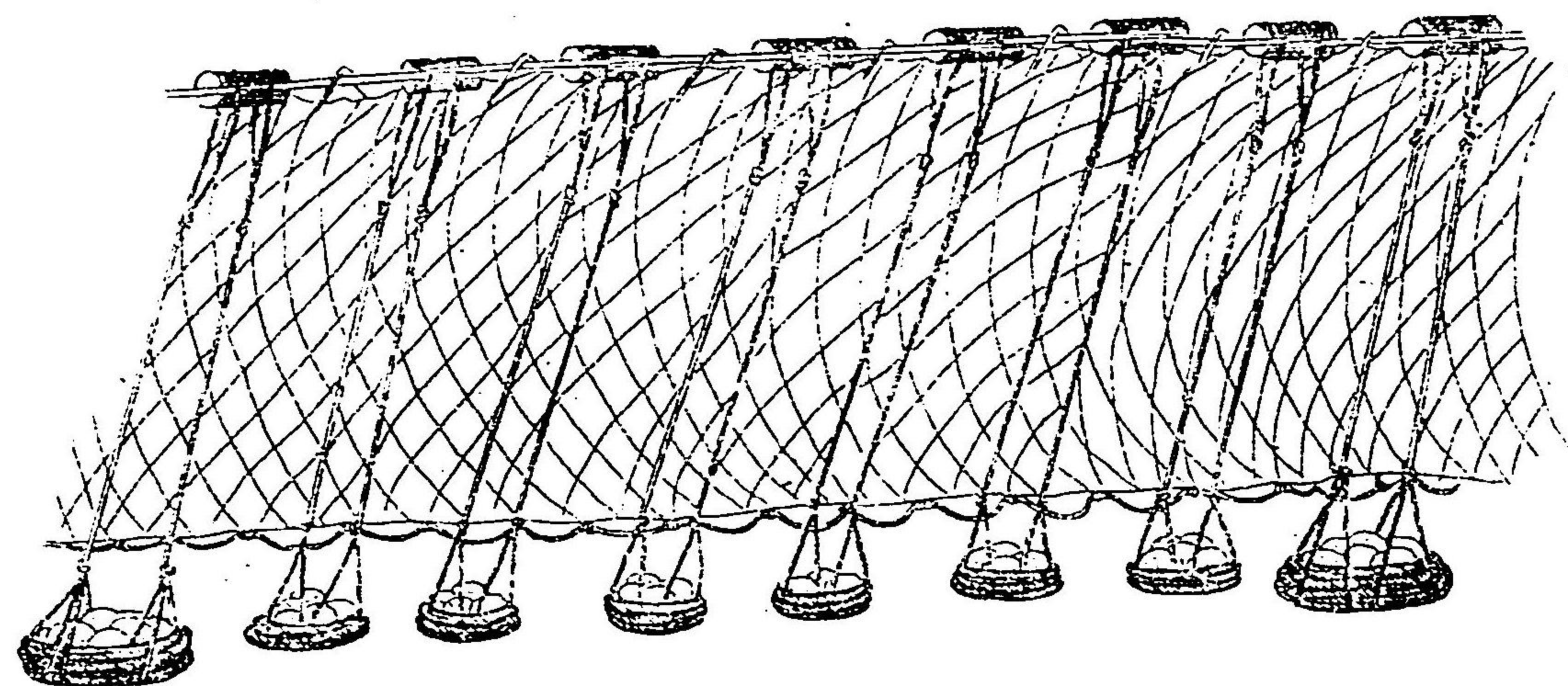


置

宮城縣漁具圖解目次終

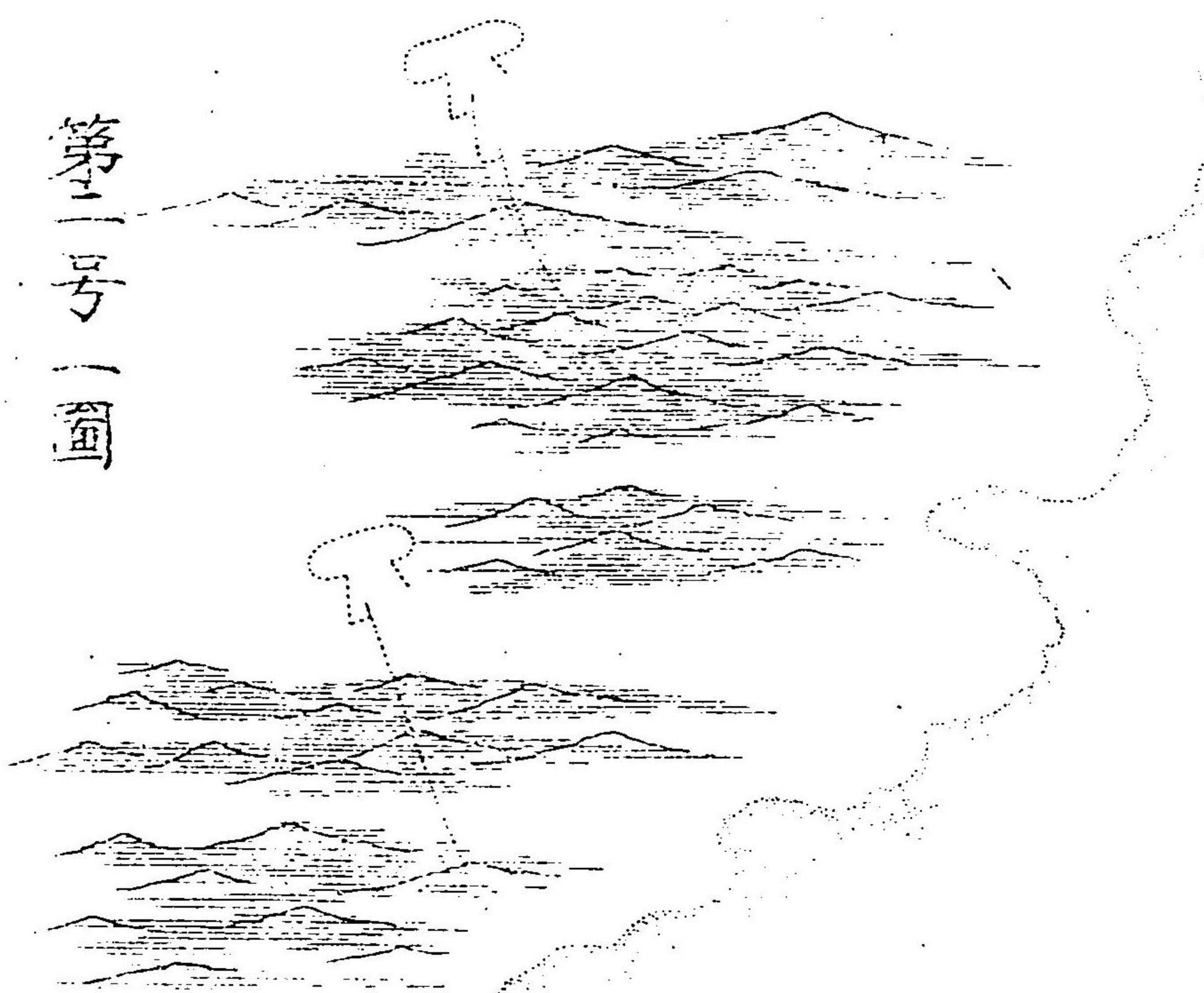
一 籜	...	同	丁
一 章魚捕具	方言いしやり (第廿六號)	同	丁
一 海鼠捕具	方言小引 (第廿七號)	廿五	丁
一 鮑捕具	方言なさし (第廿八號)	廿七	丁
一 石蜘蛛捕具	方言やのき (第廿九號)	廿八	丁
一 蠣採具	方言蠣狹 (第卅號)	同	丁
一 牡蠣養殖法	...	廿八	丁
一 具採具	蜆又は蛸と採集するもの (第卅一號)	廿九	丁
一 昆布捕具	附細布及び若加布採具 (第卅二號)	同	丁
一 鰻筒	...	三十	丁
一 鱚搔	...	卅一	丁
一 海苔箕	...	卅二	丁
一 篠	漬一名笹浸し (第卅六號)	同	丁

圖五号二第

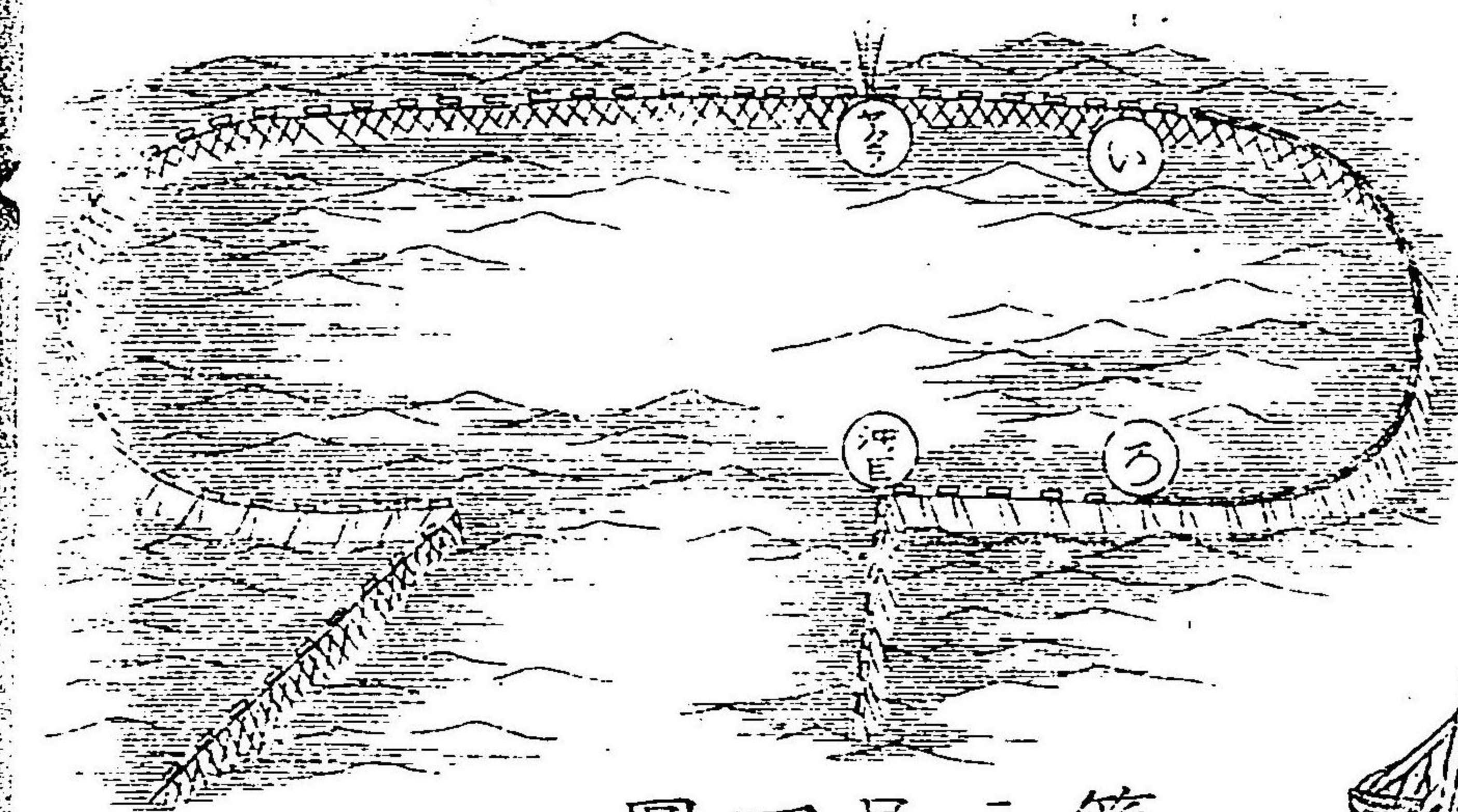


第二号六圖

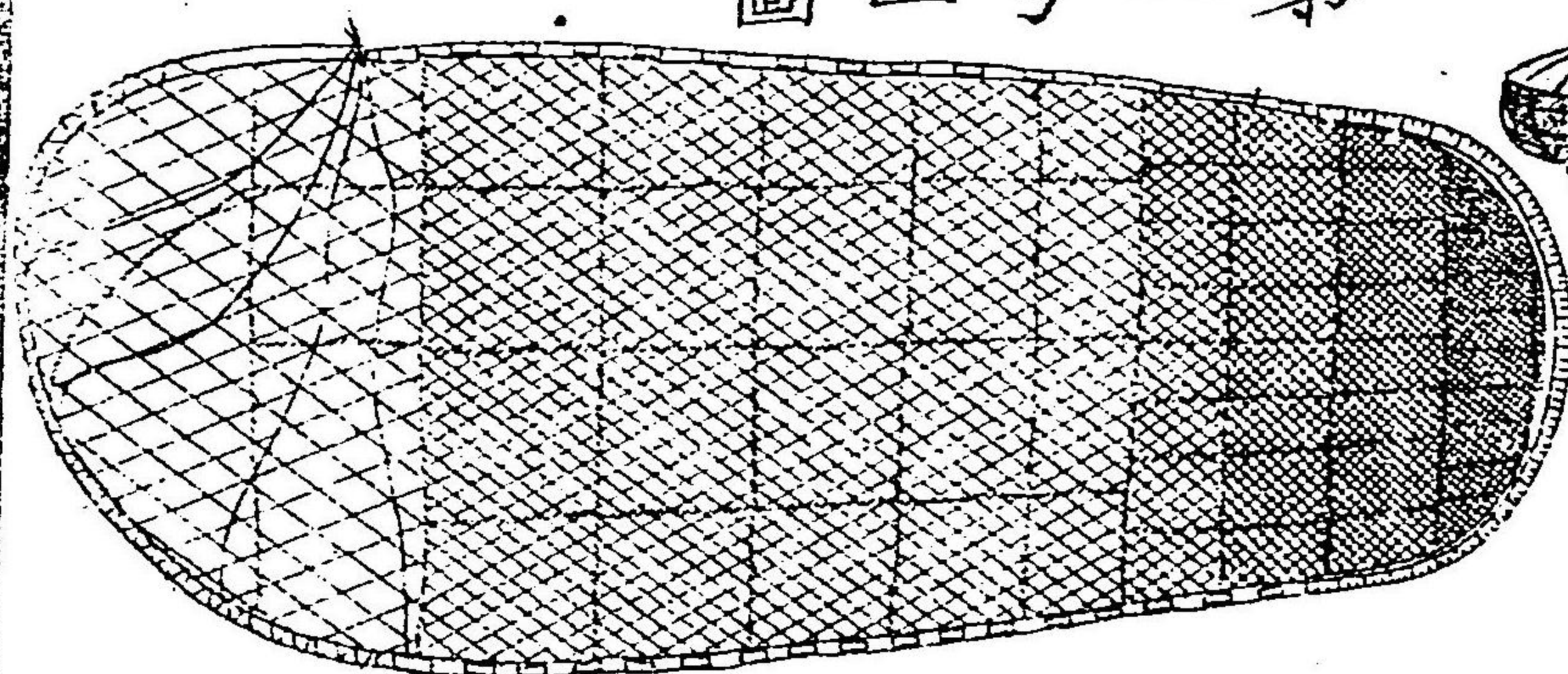
第一号一圖



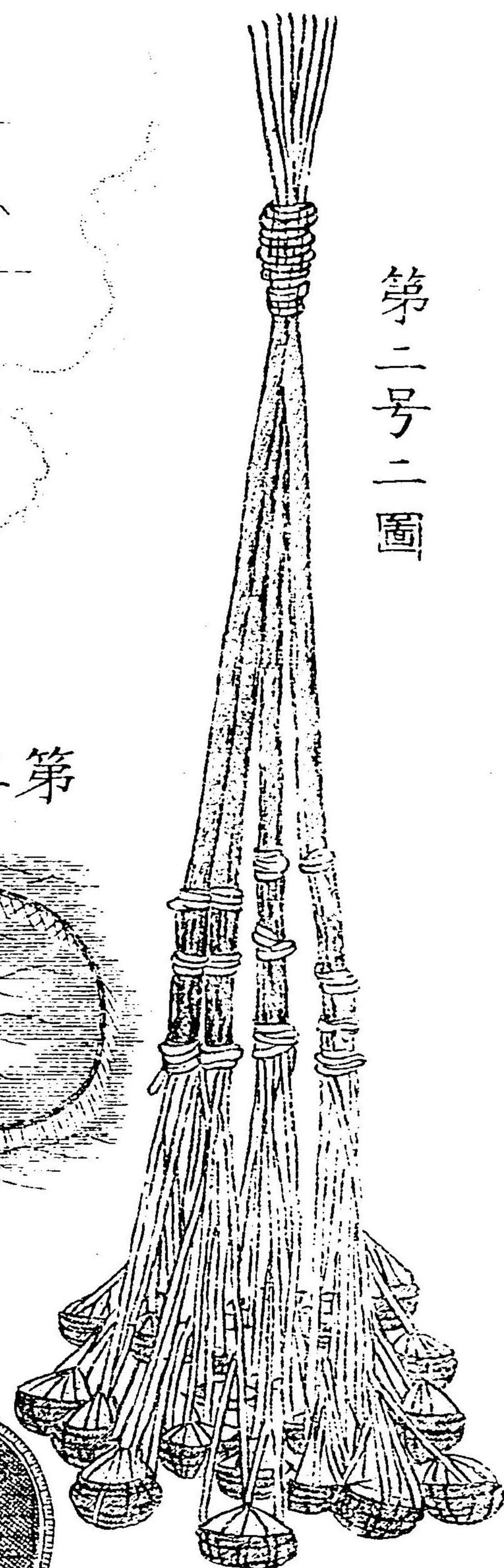
圖三号二第



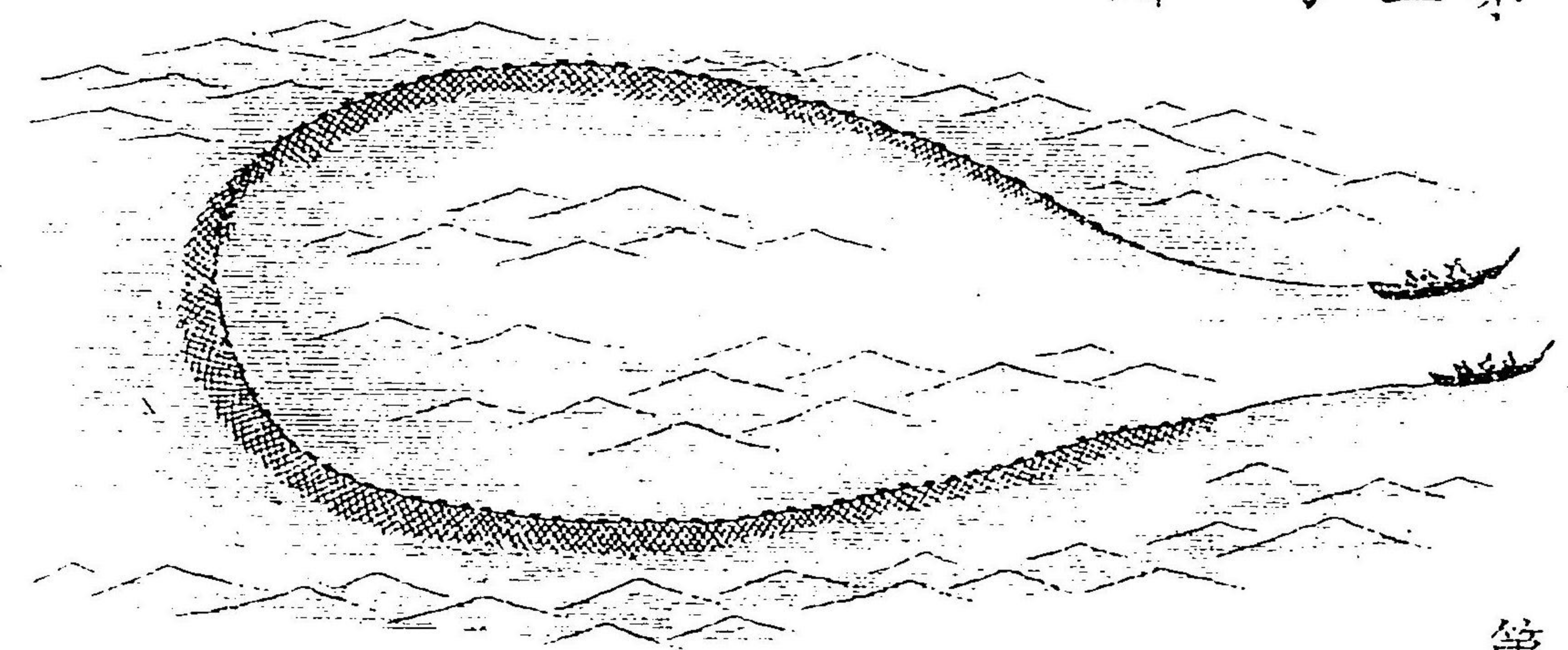
圖四号二第



第二号二圖



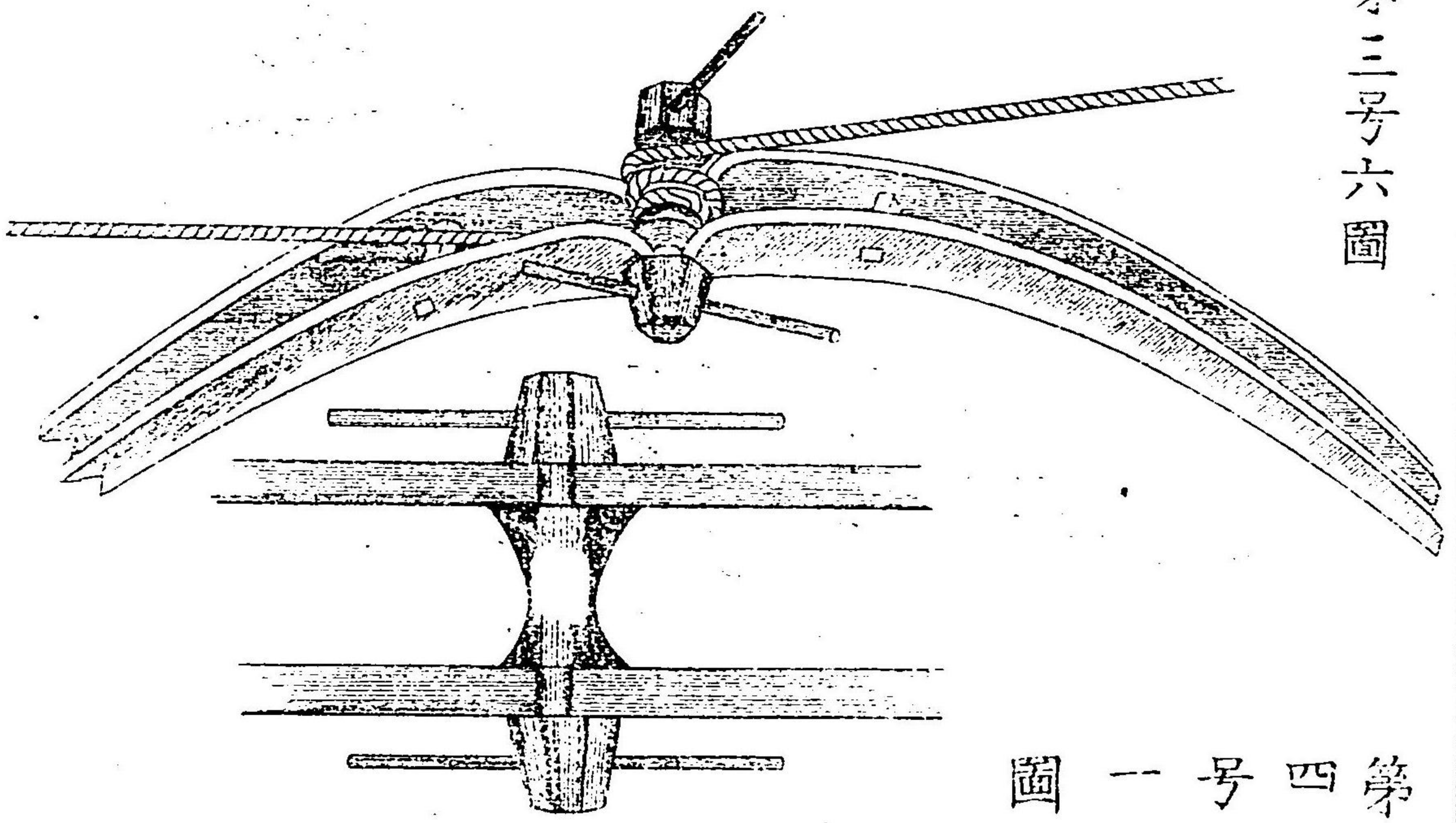
第三号四图



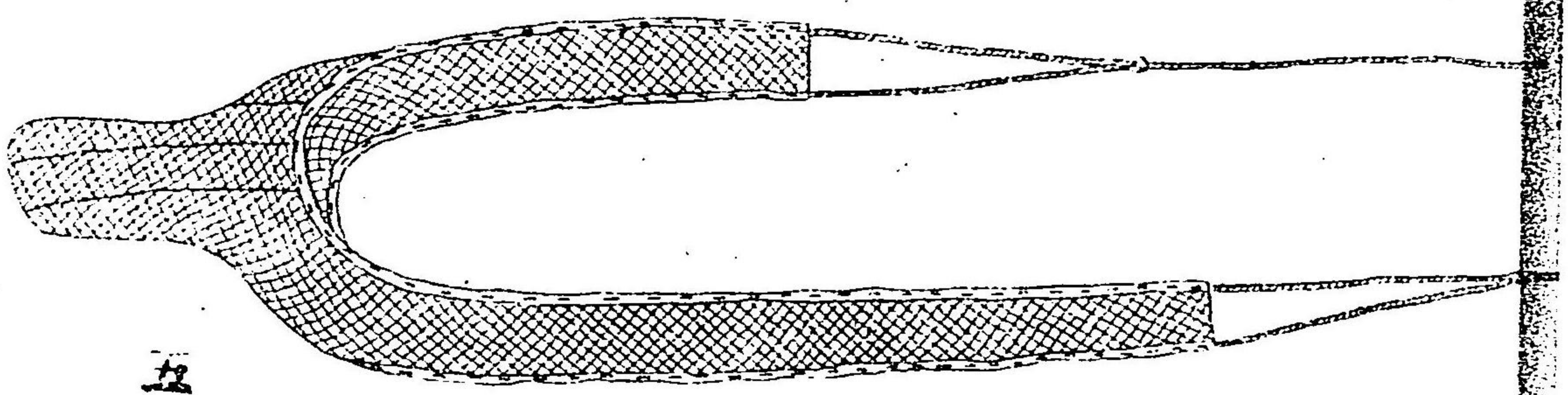
第三号五图



第三号六图

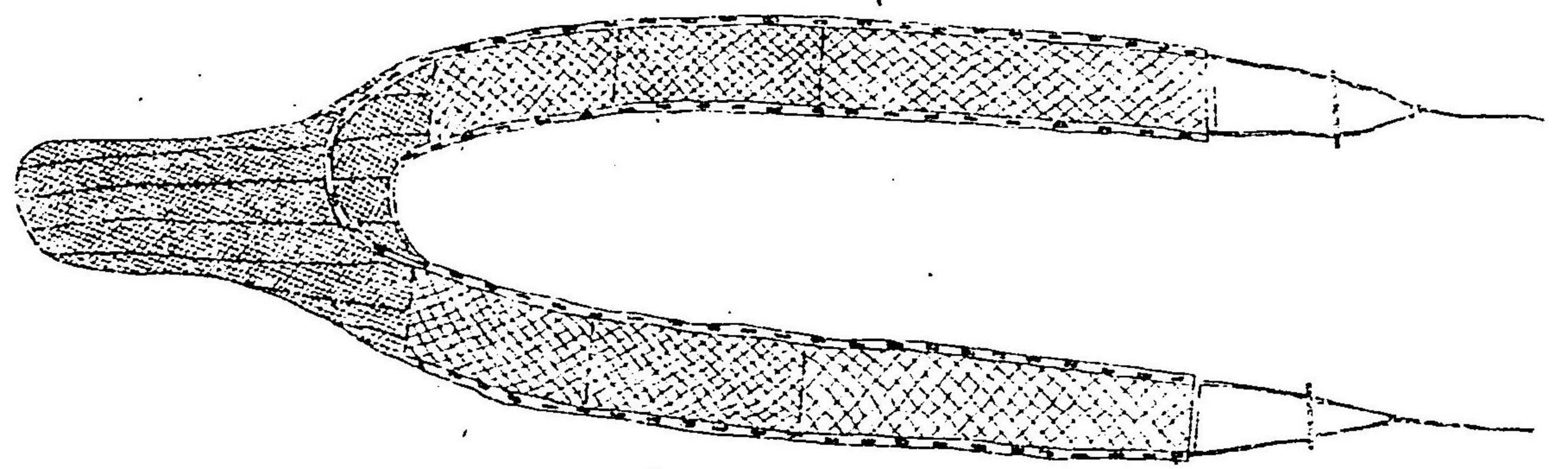


第四号一图

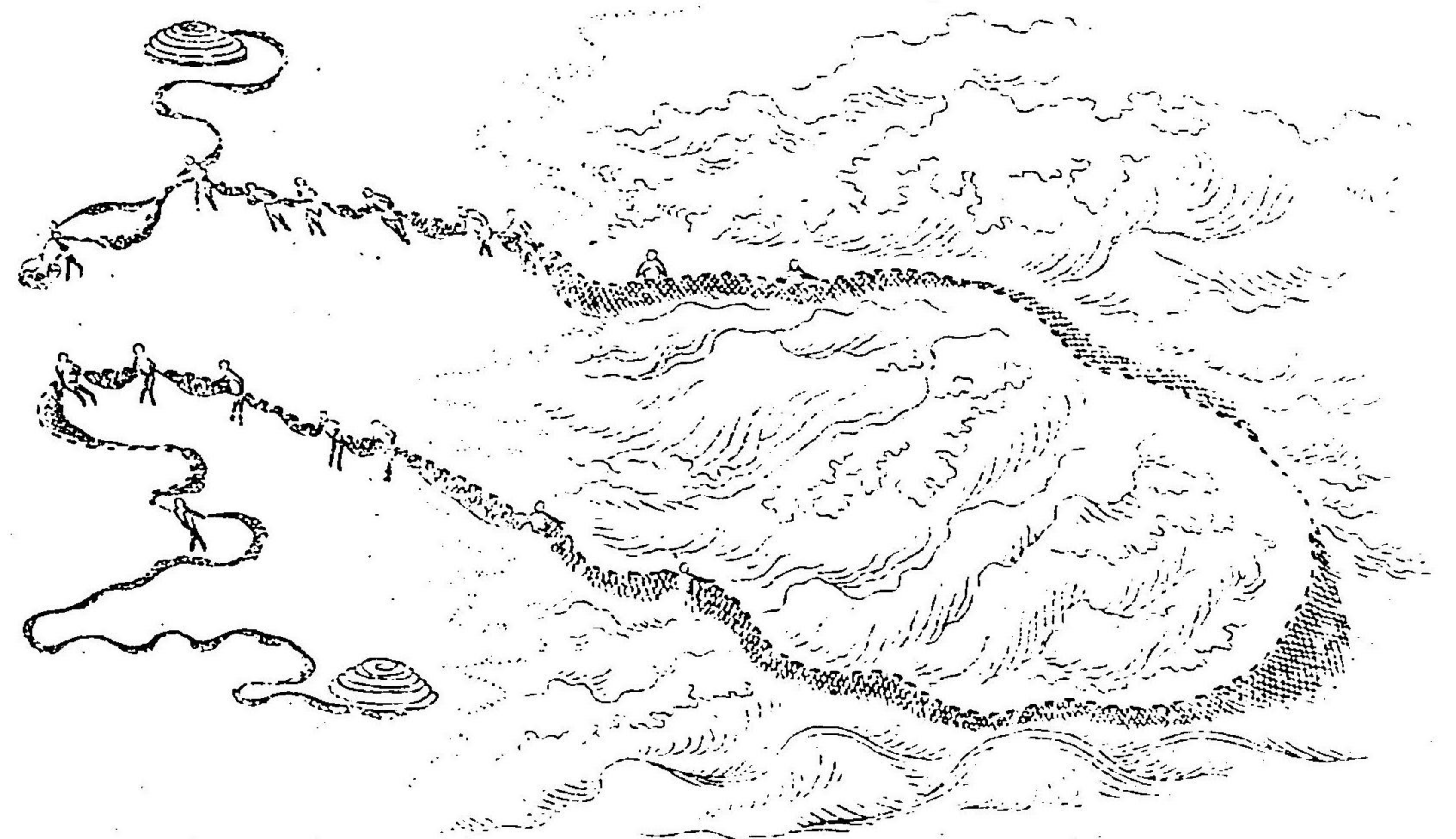


五

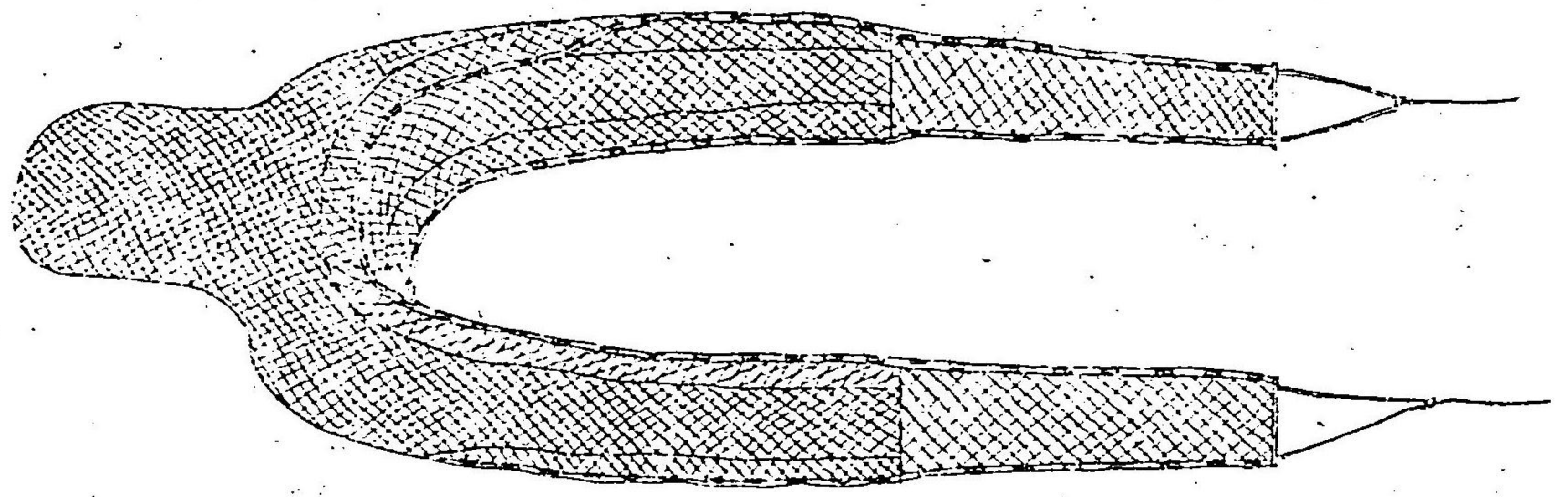
第三号一图



第三号二图



第三号三图

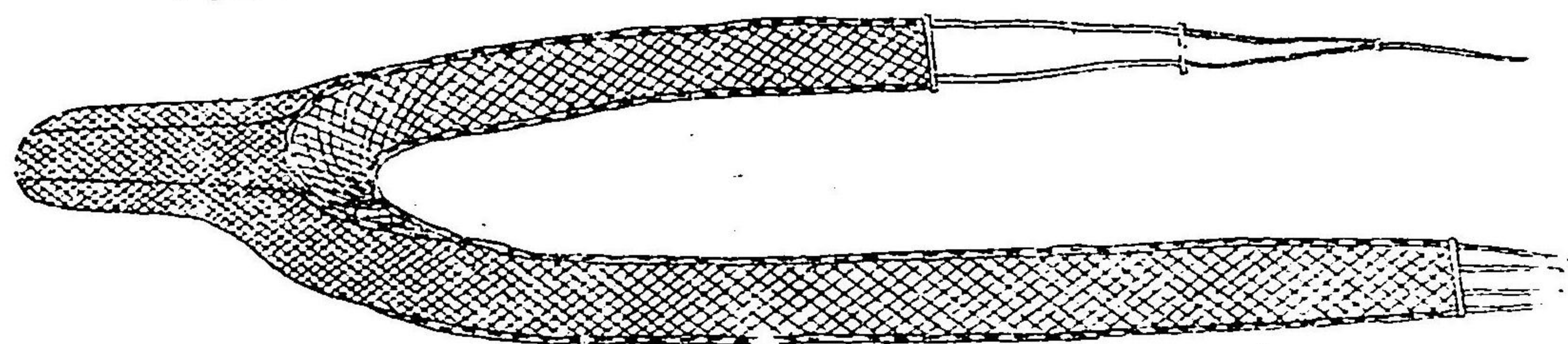


四

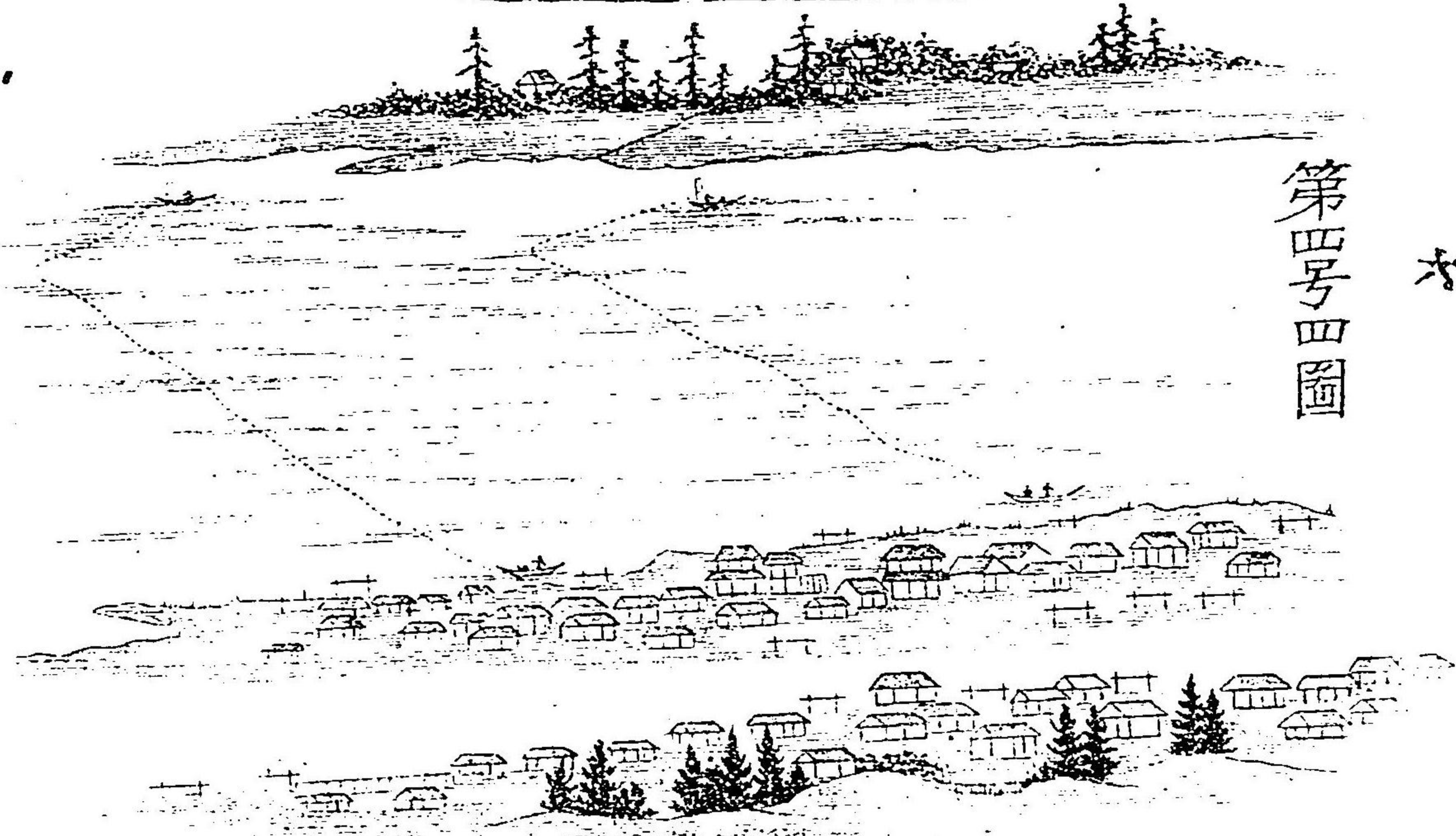
第四号二圖



第四号三圖

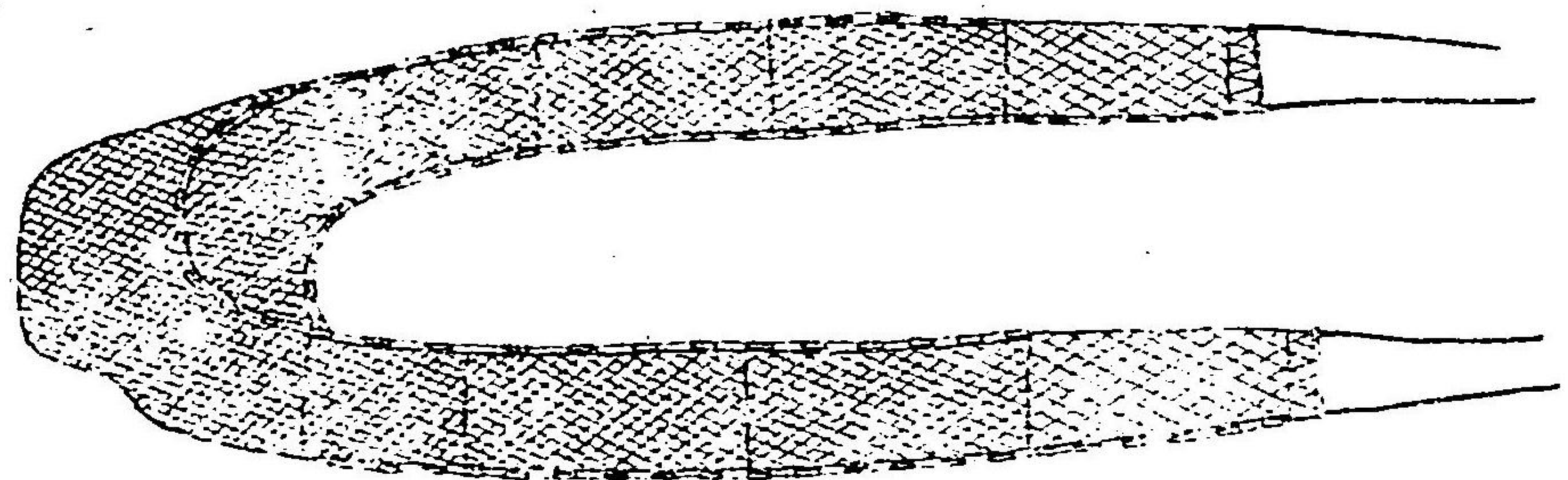


第四号四圖

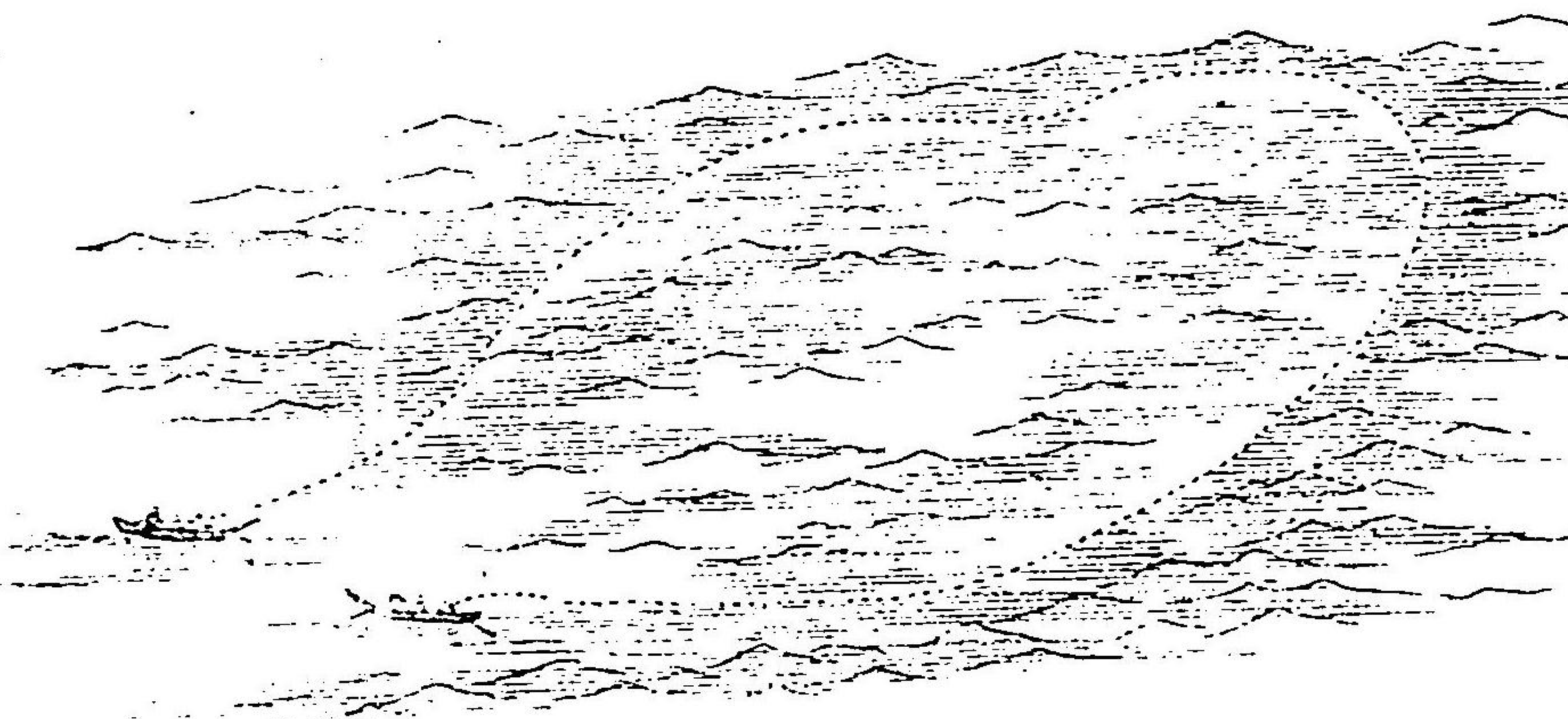


六

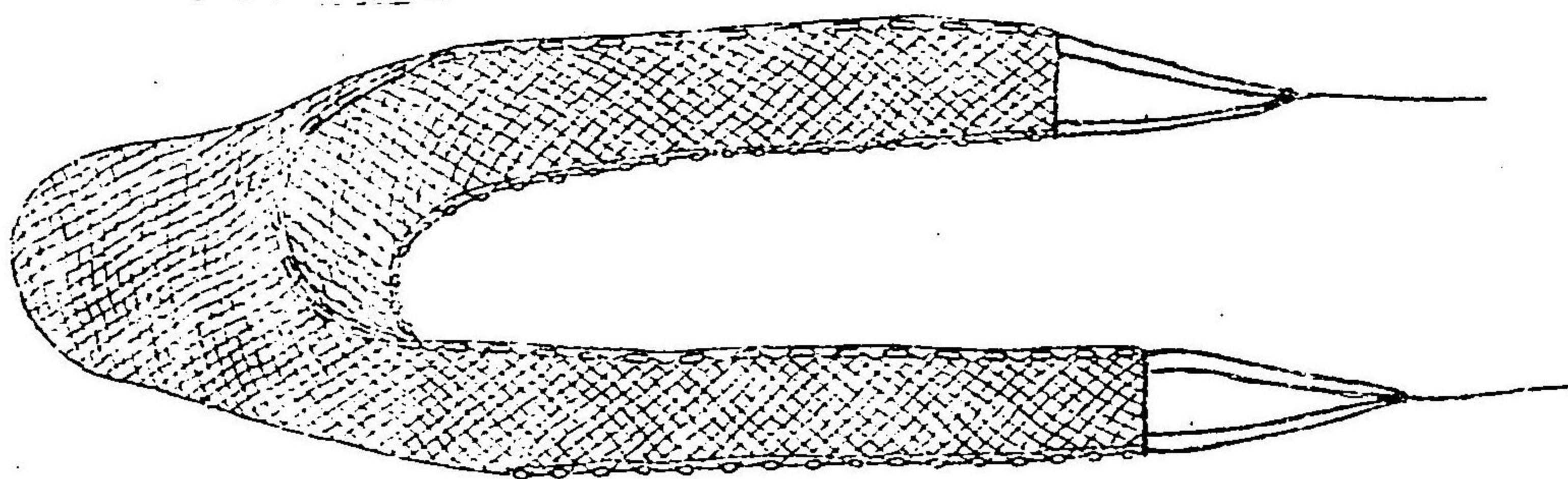
第五号一圖



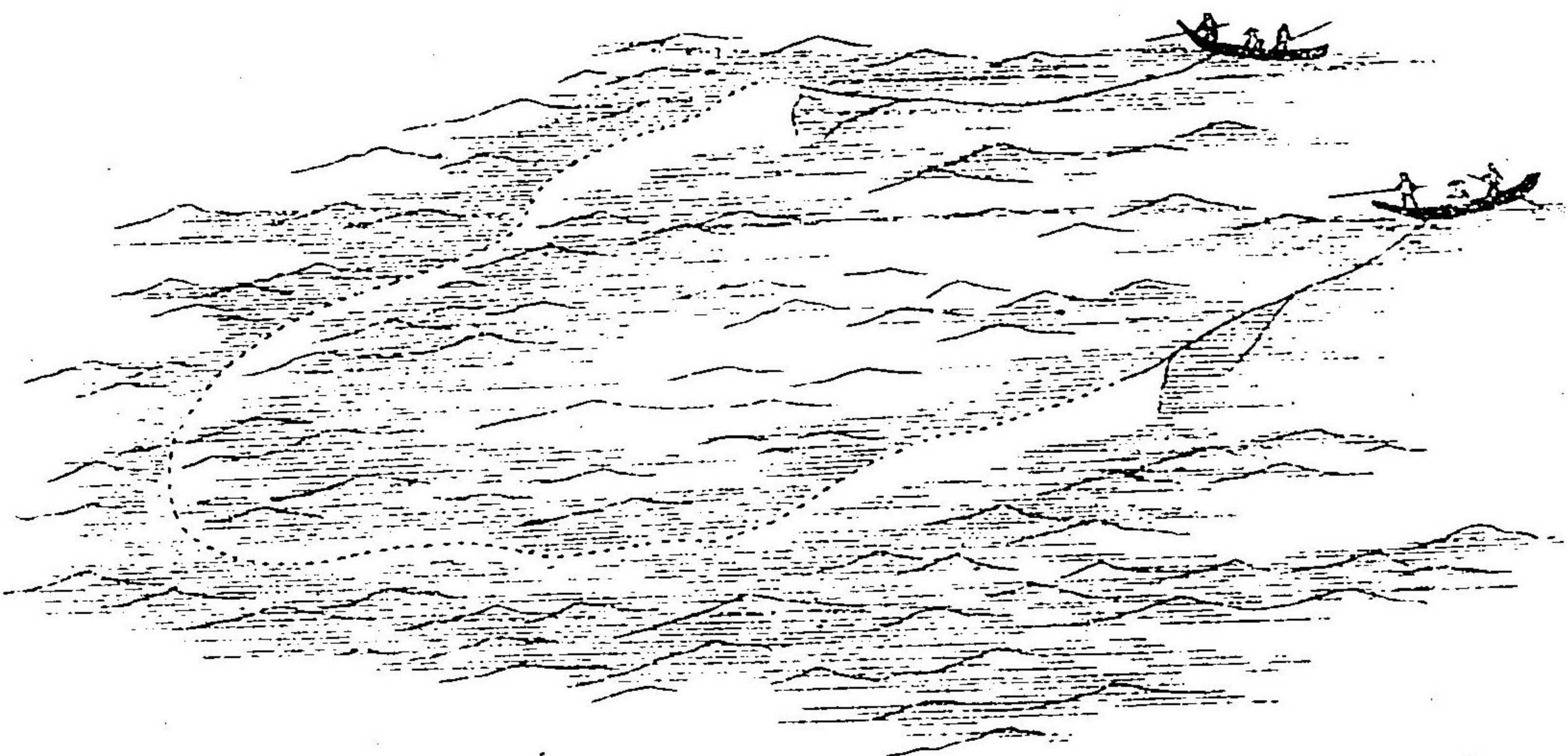
第五号二圖



第六号一圖

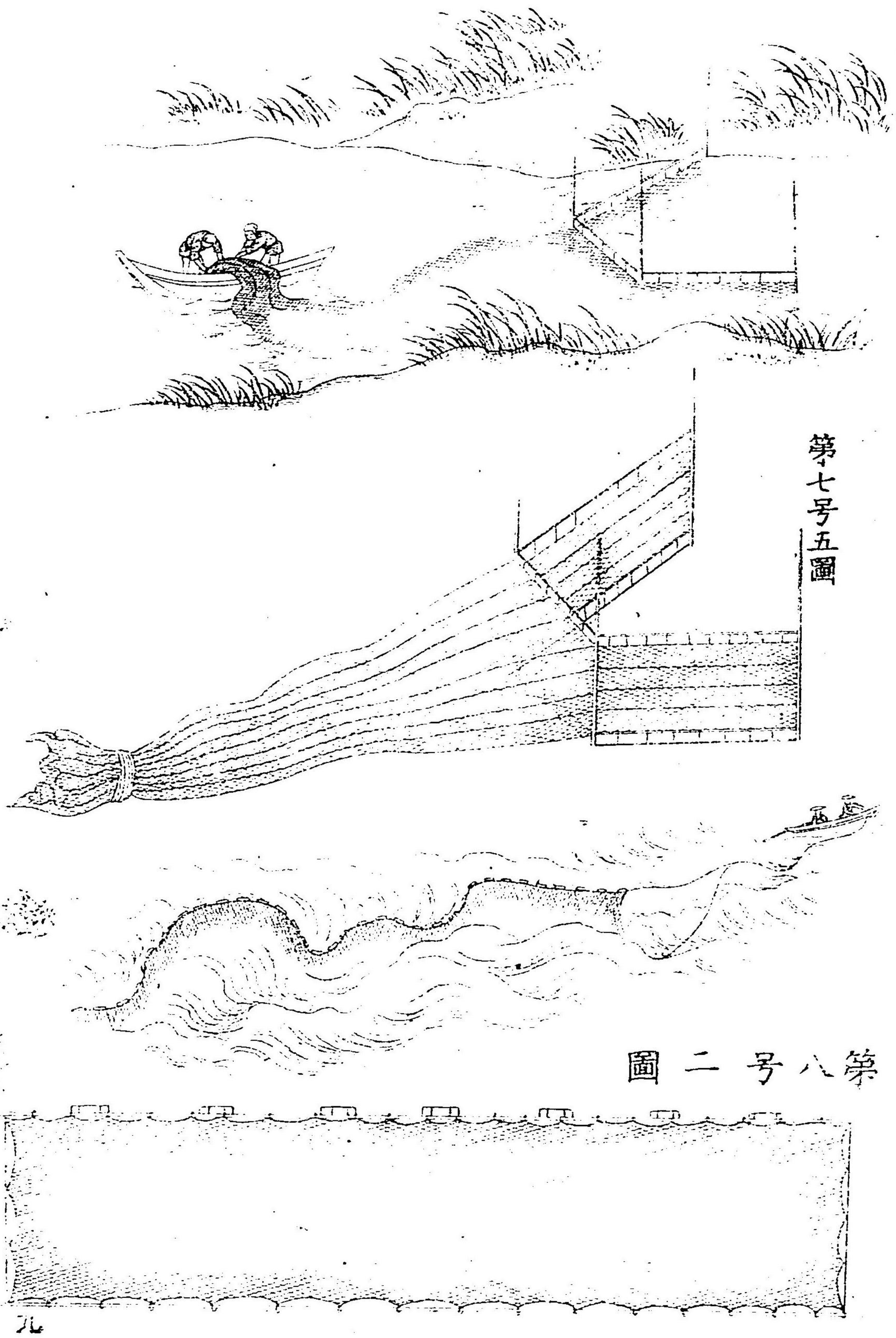


第六号二圖

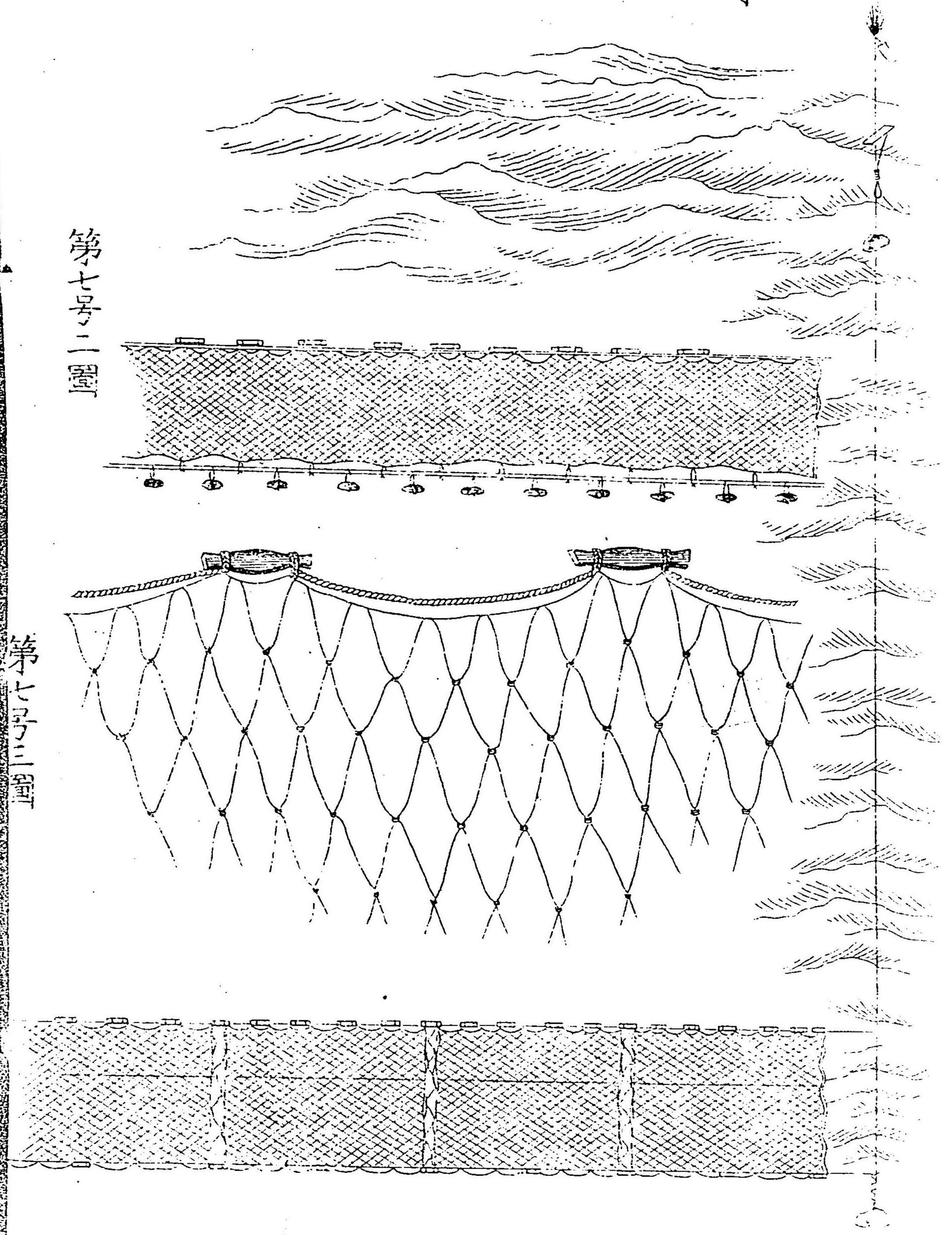


七

第七号四圖

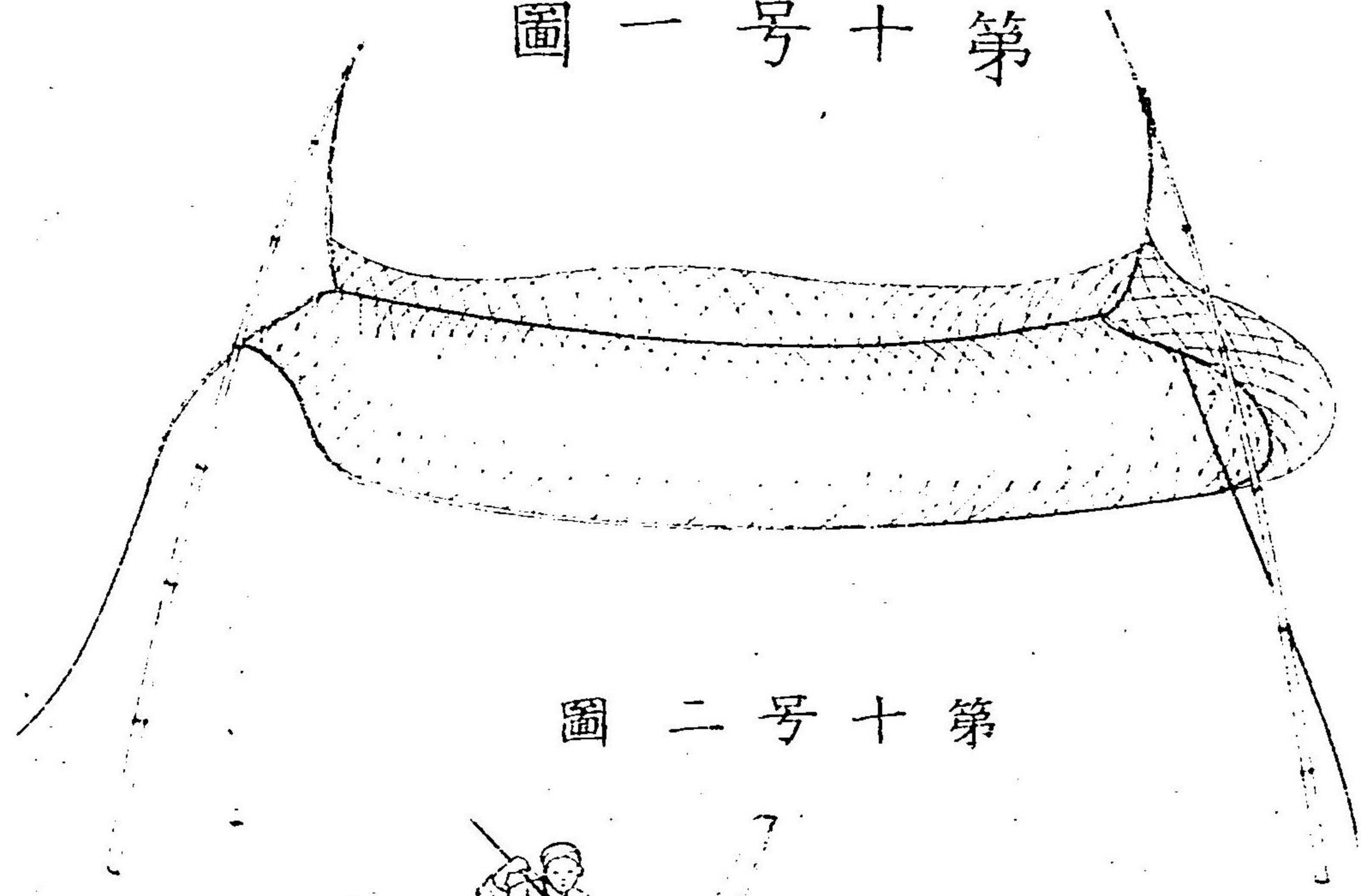


第七号一圖

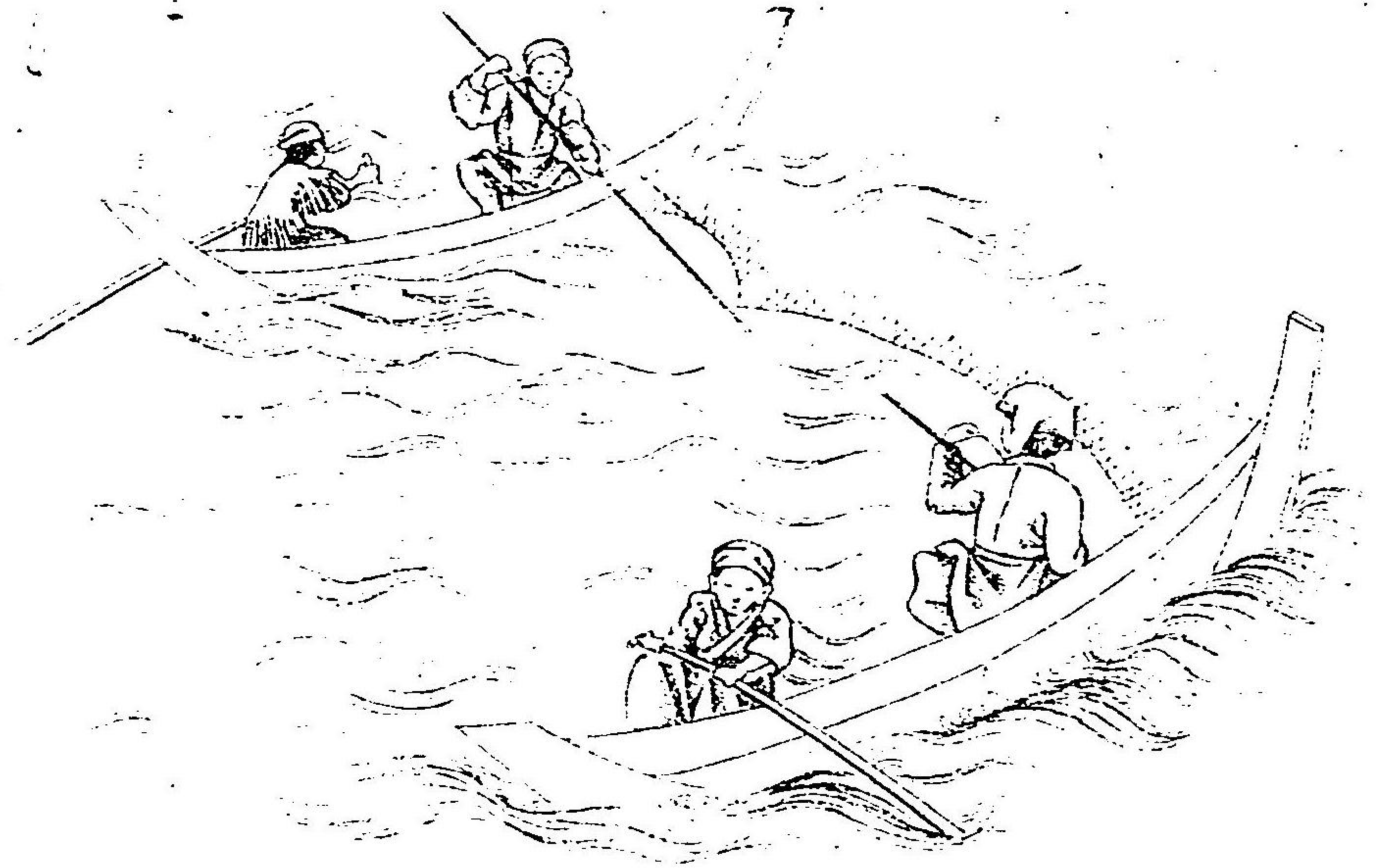


第八号一圖

第十号一圖

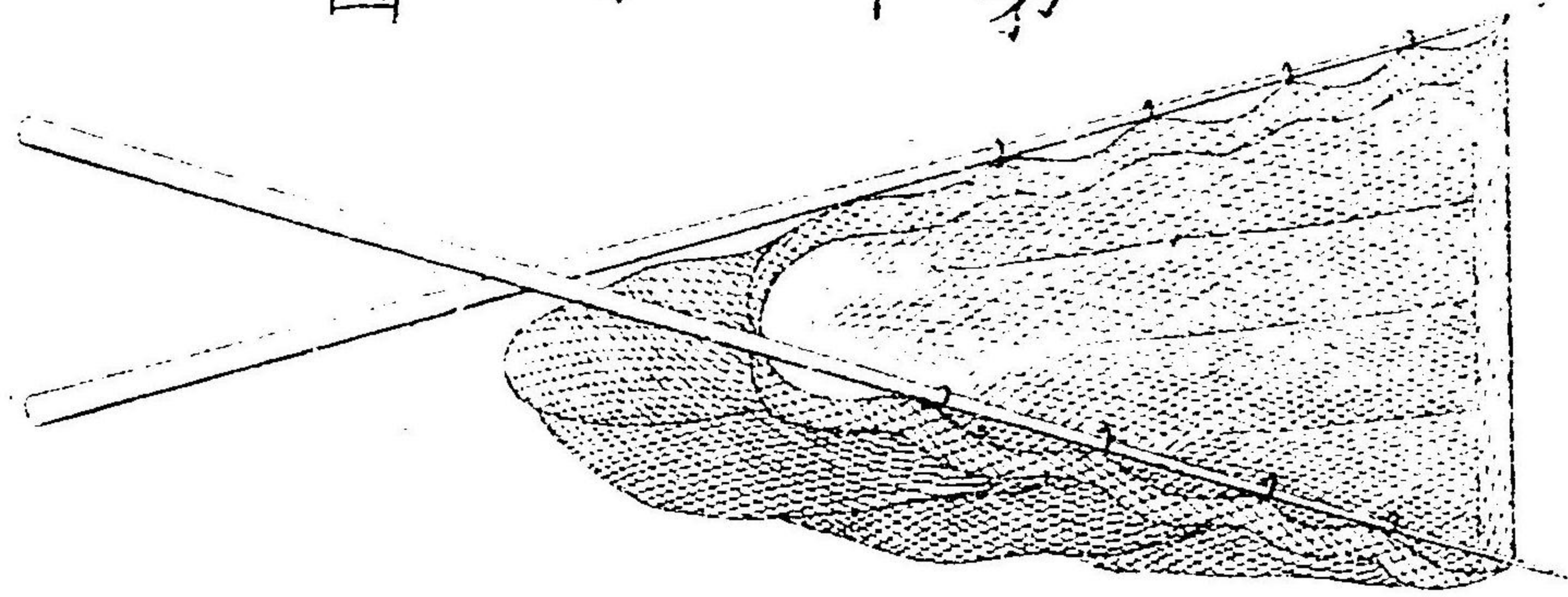


第十号二圖

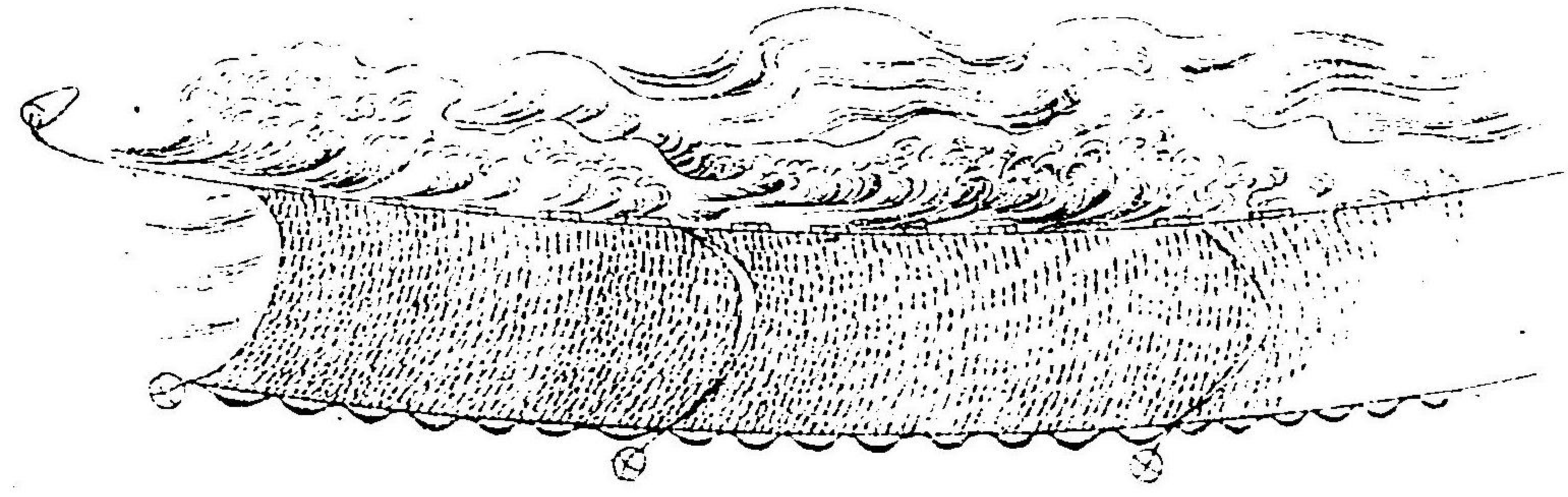


第十号一圖

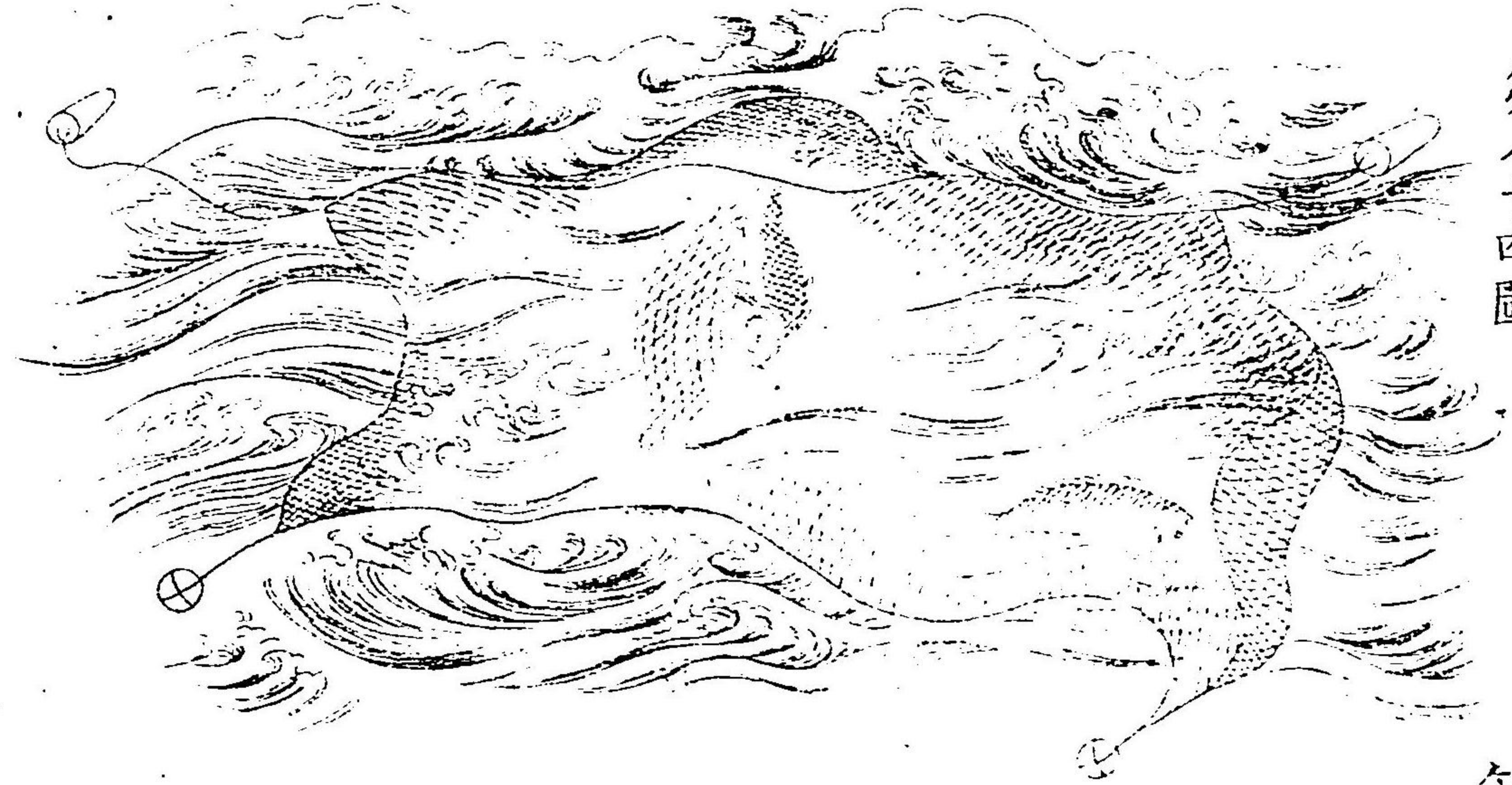
十宣



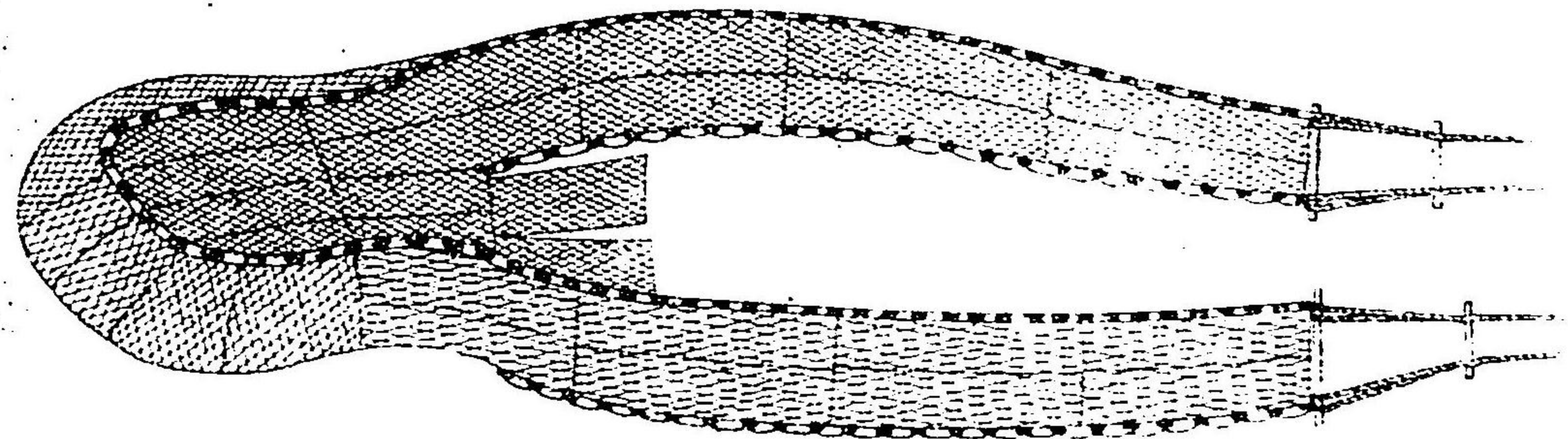
第八号三圖



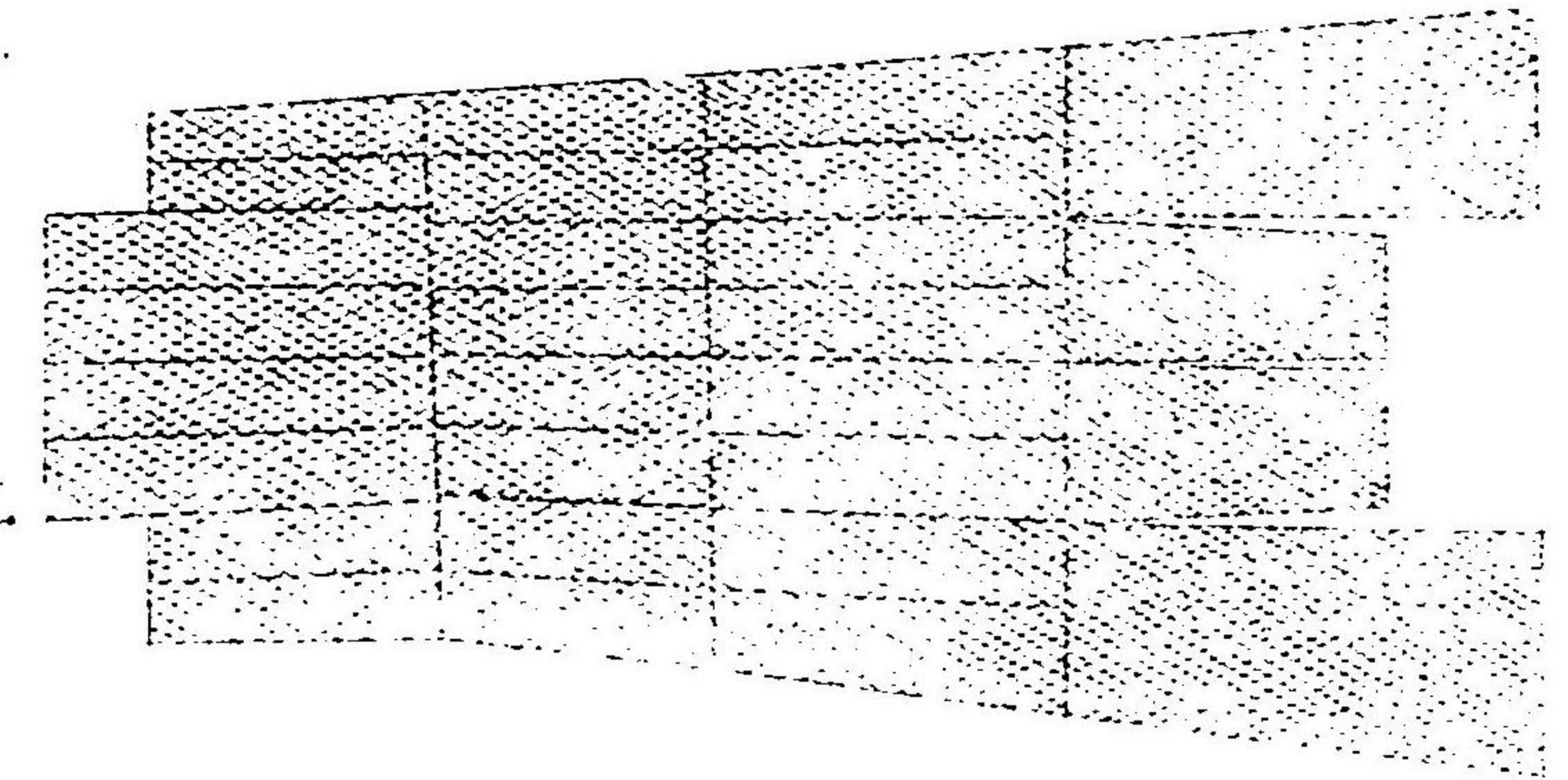
第八号四圖



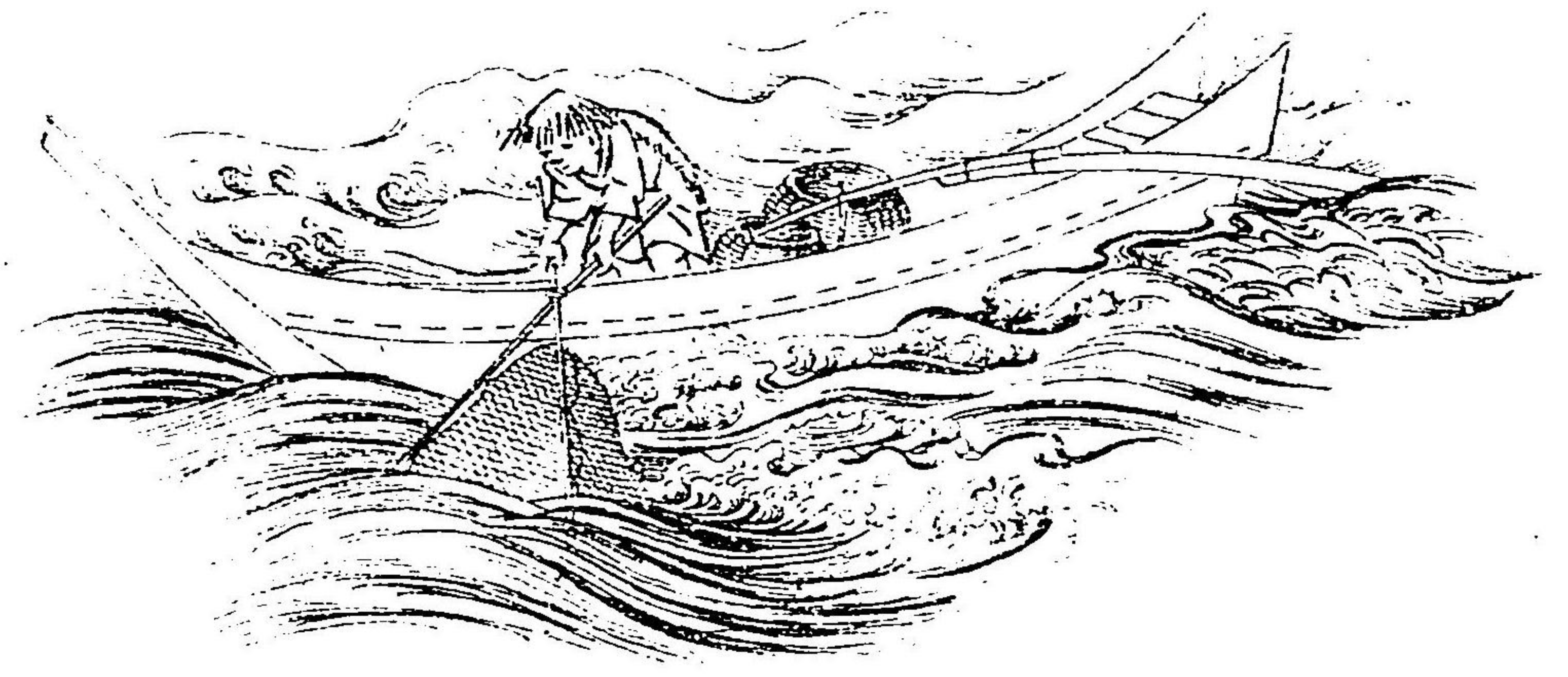
第九号一圖



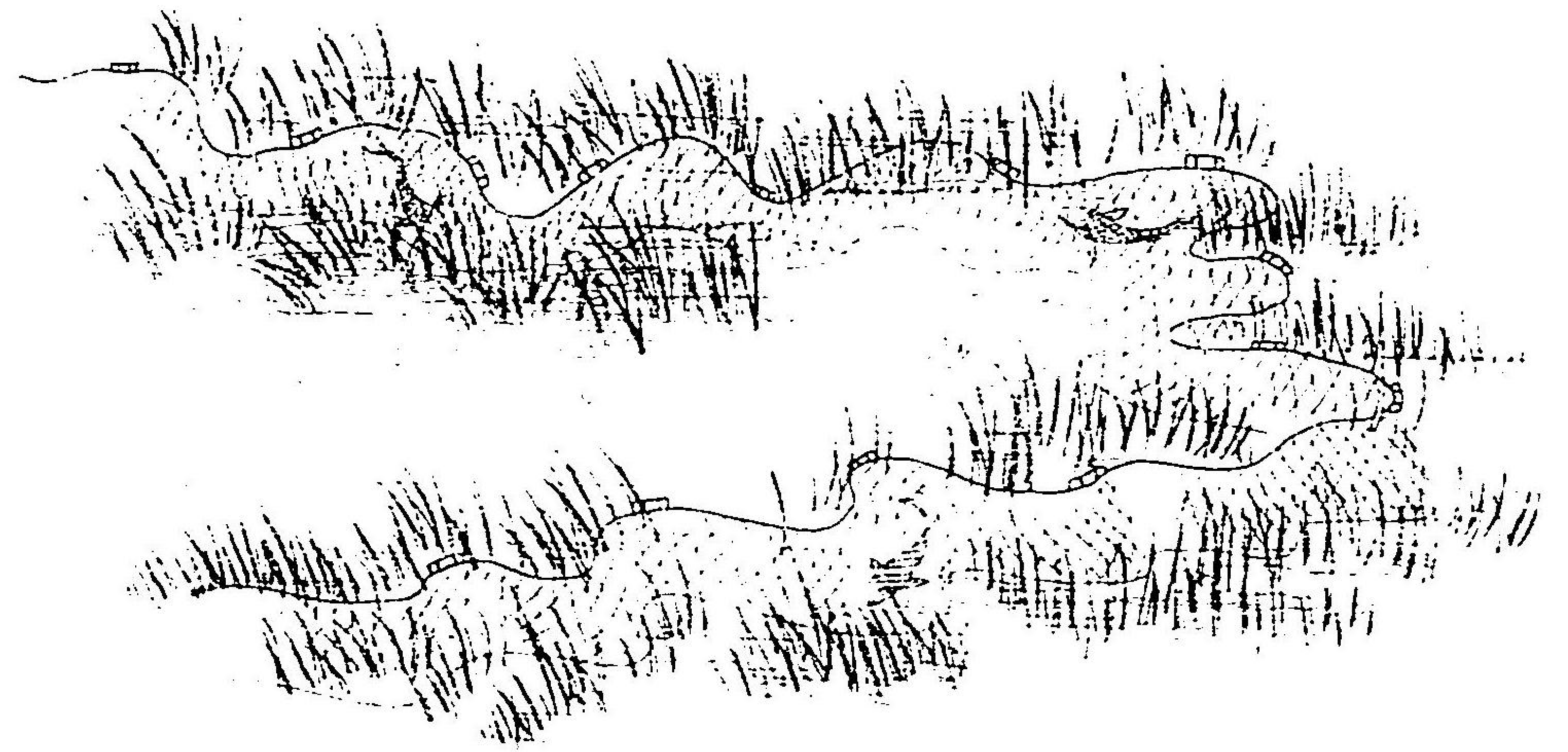
第九号二圖



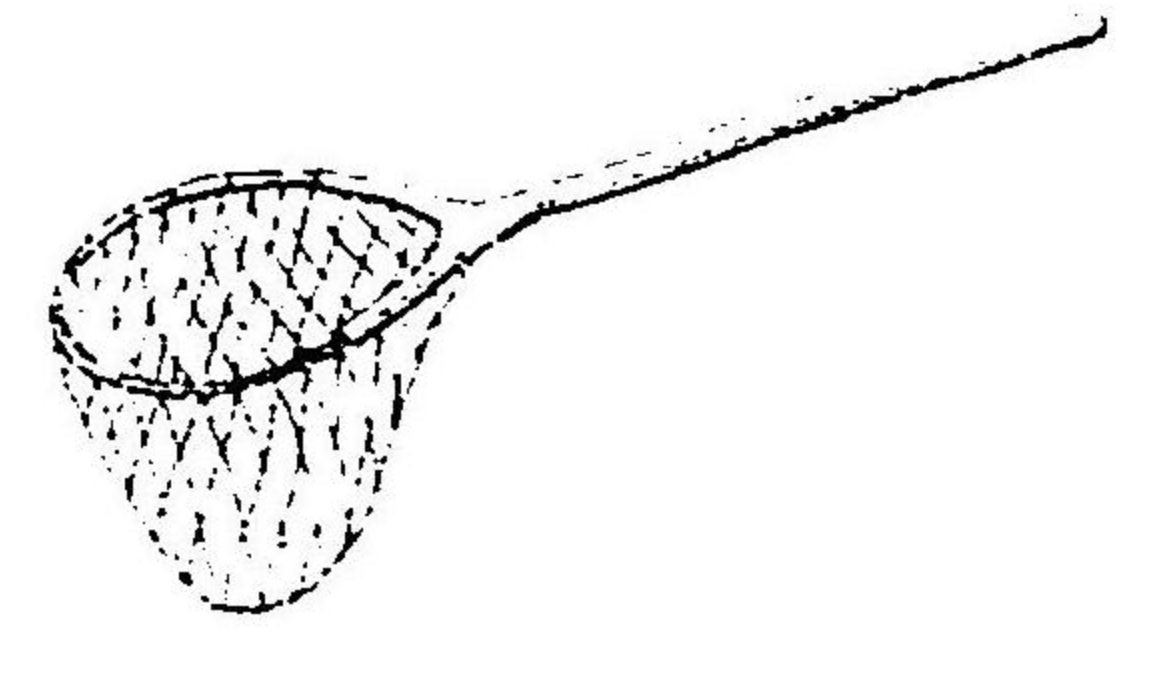
第十一号二圖



第十二号一圖



第二十号二圖

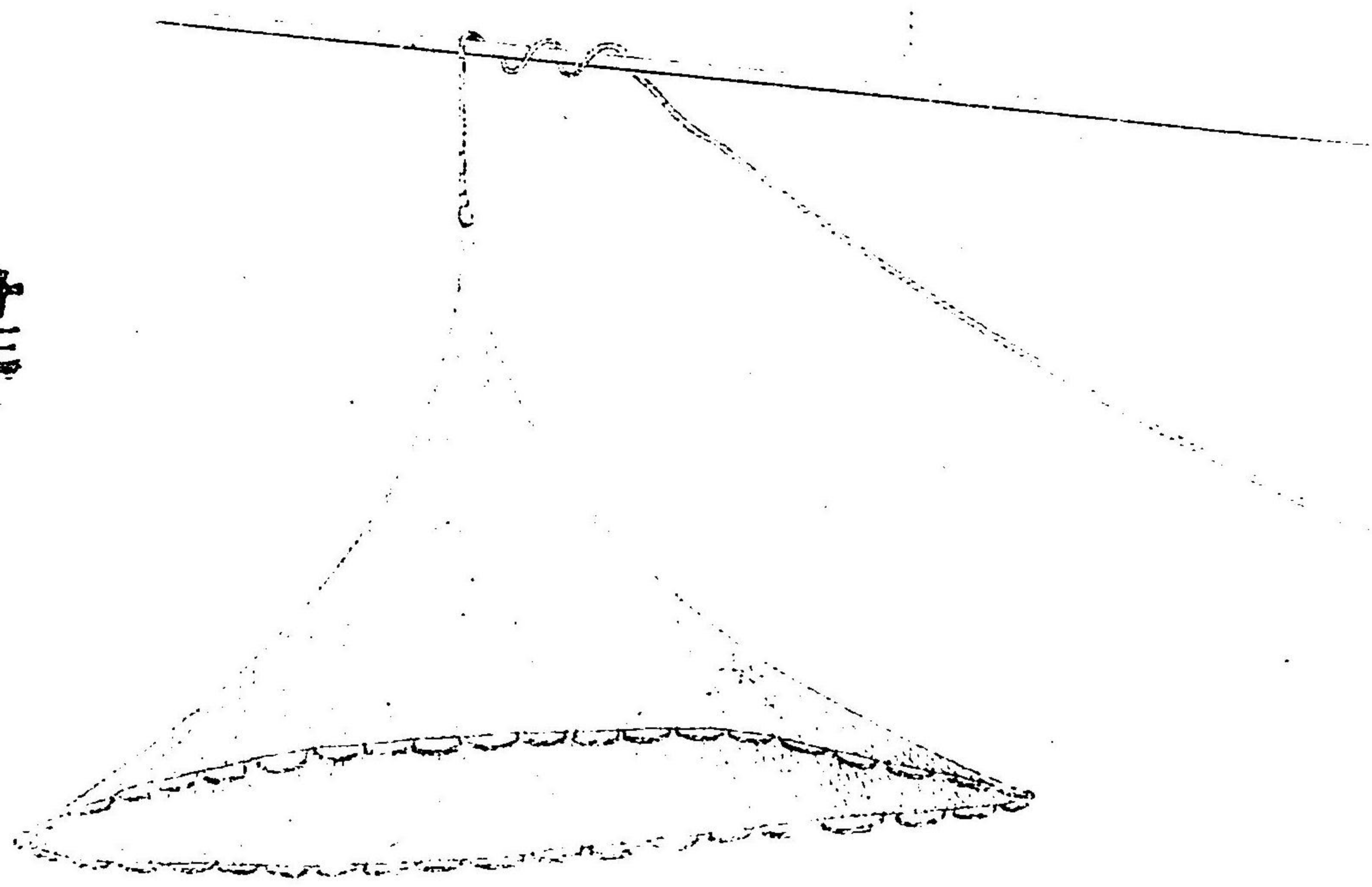


十二

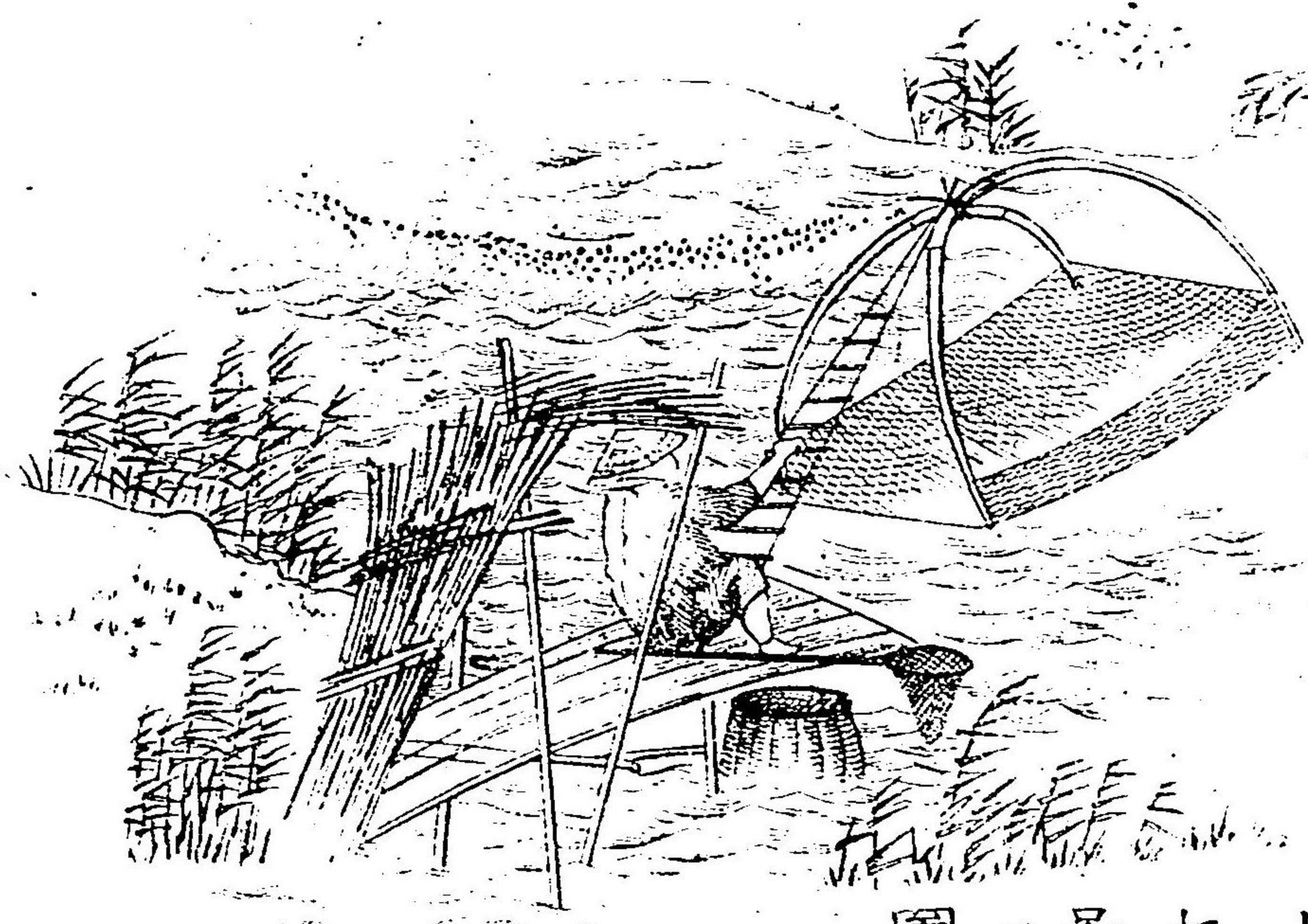
第十三号一圖



第十三号二圖

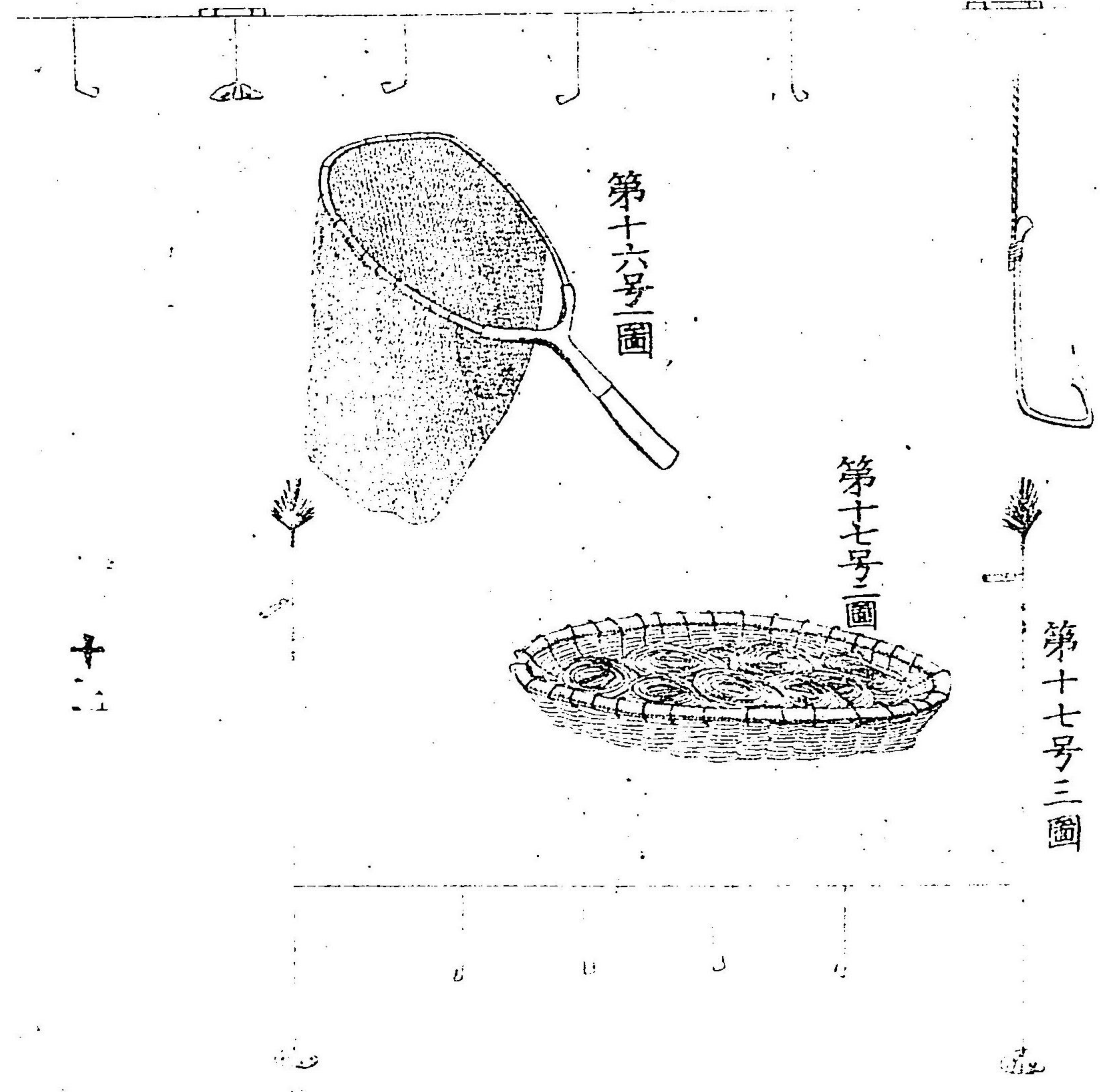


十三



第十五号二圖

第十号一圖



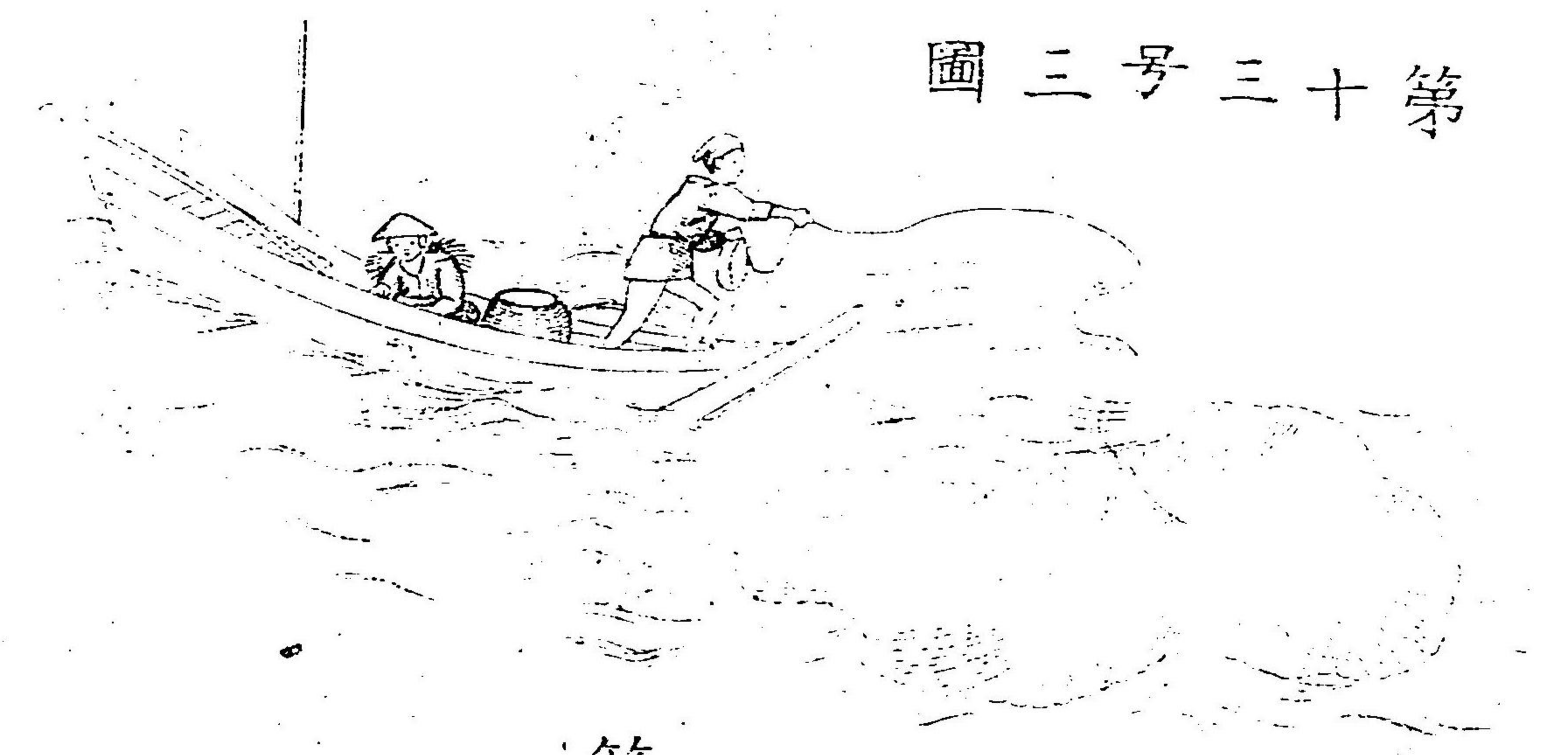
第十六号圖

第十七号二圖

第十七号三圖

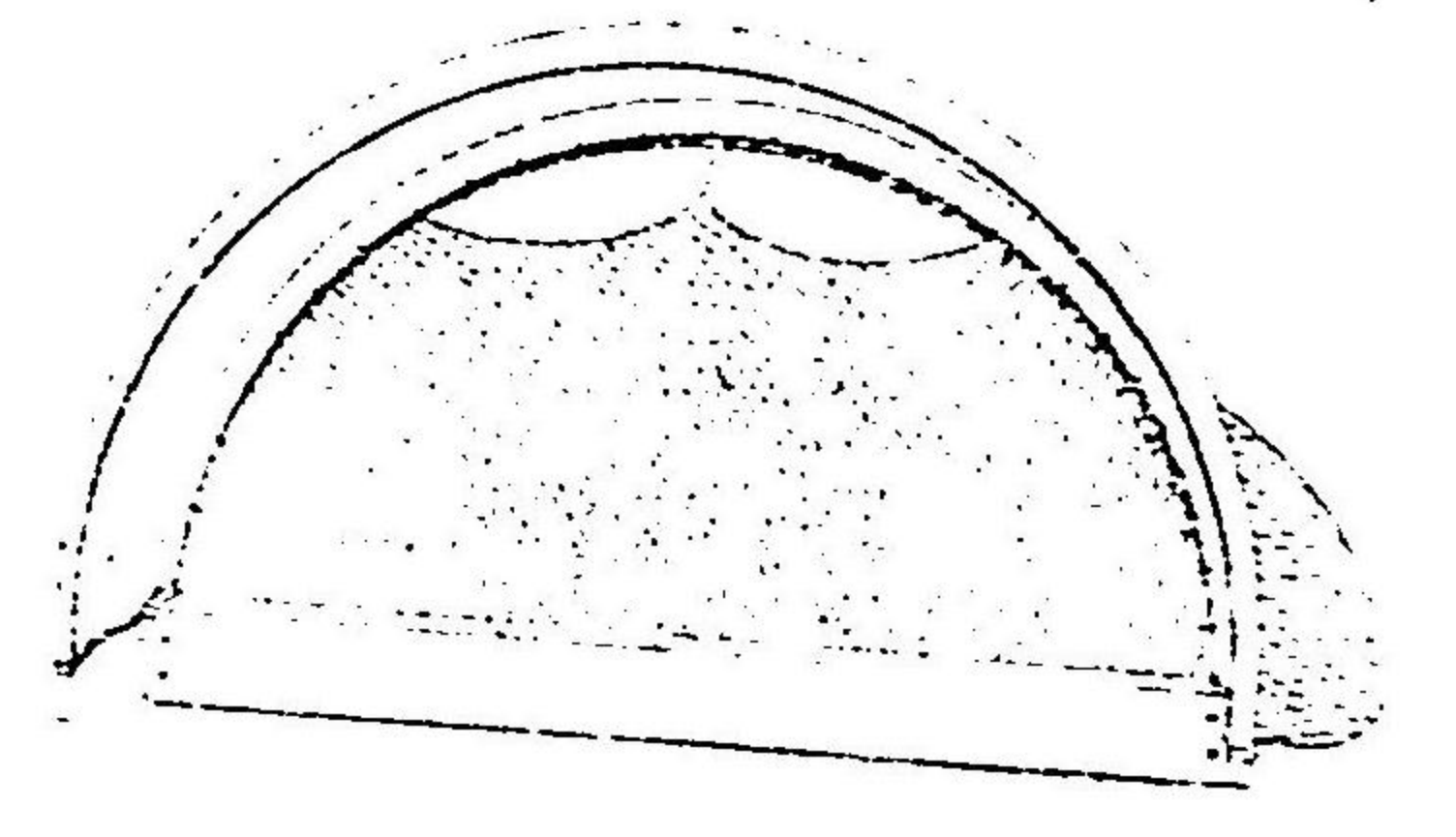
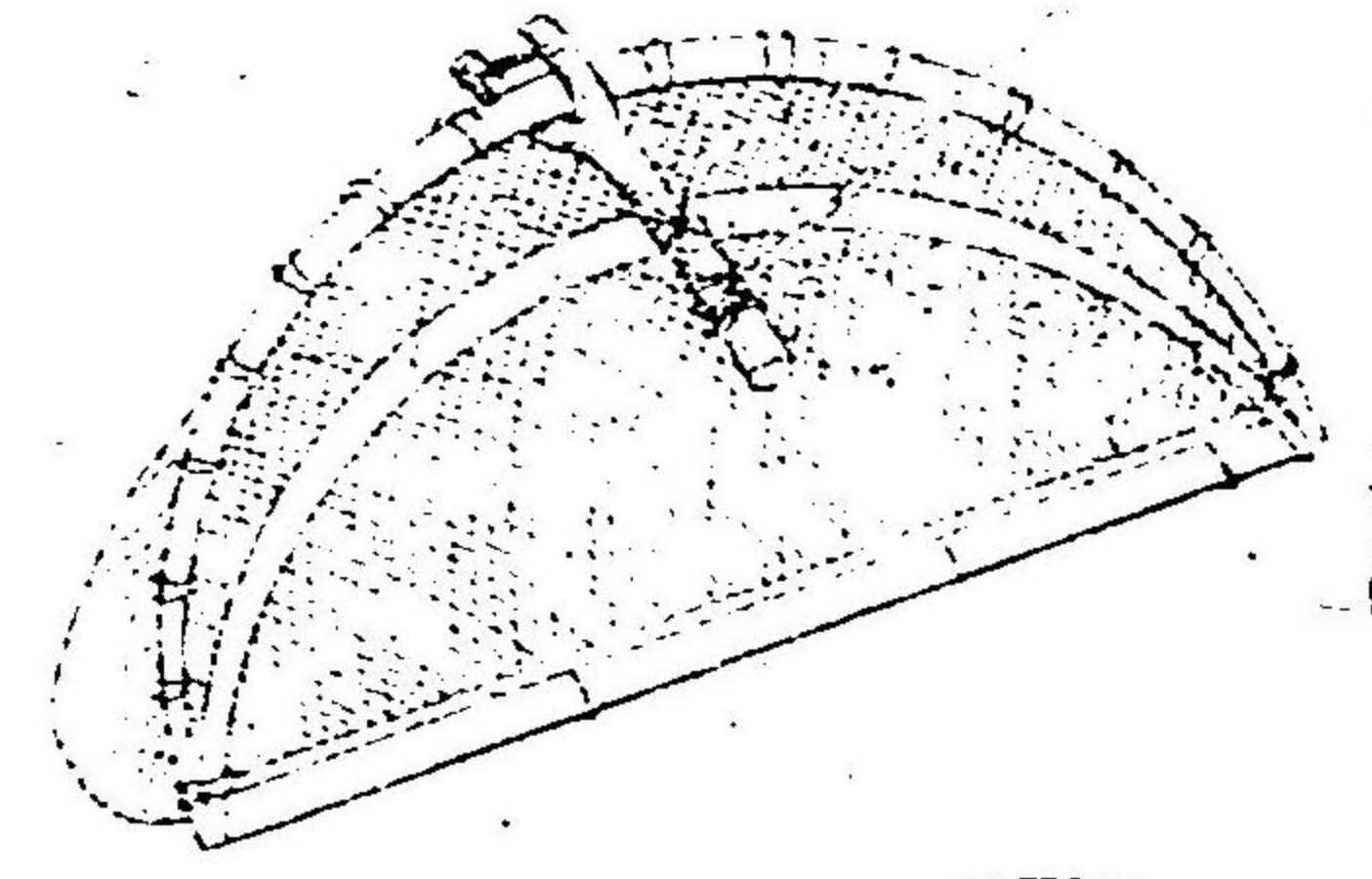
十二

第三十号三圖

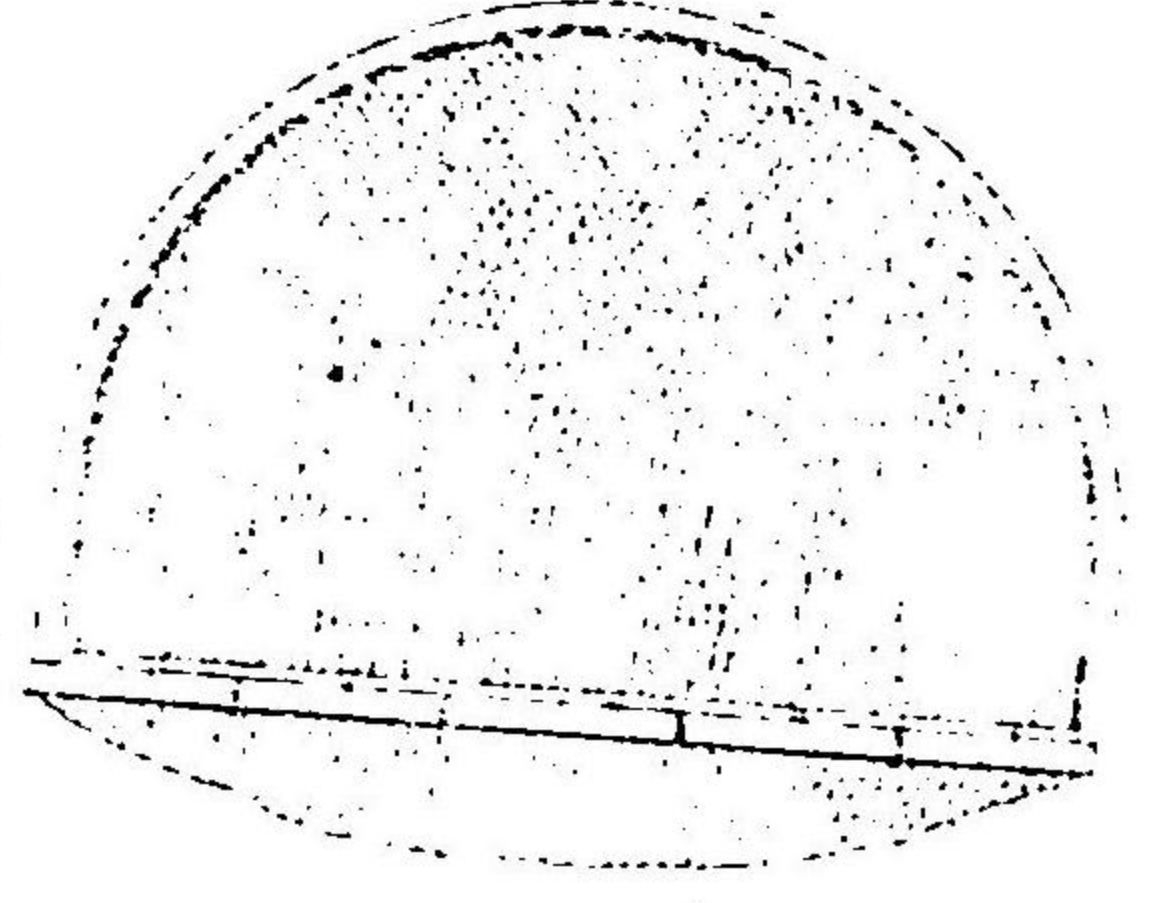


第十四号二圖

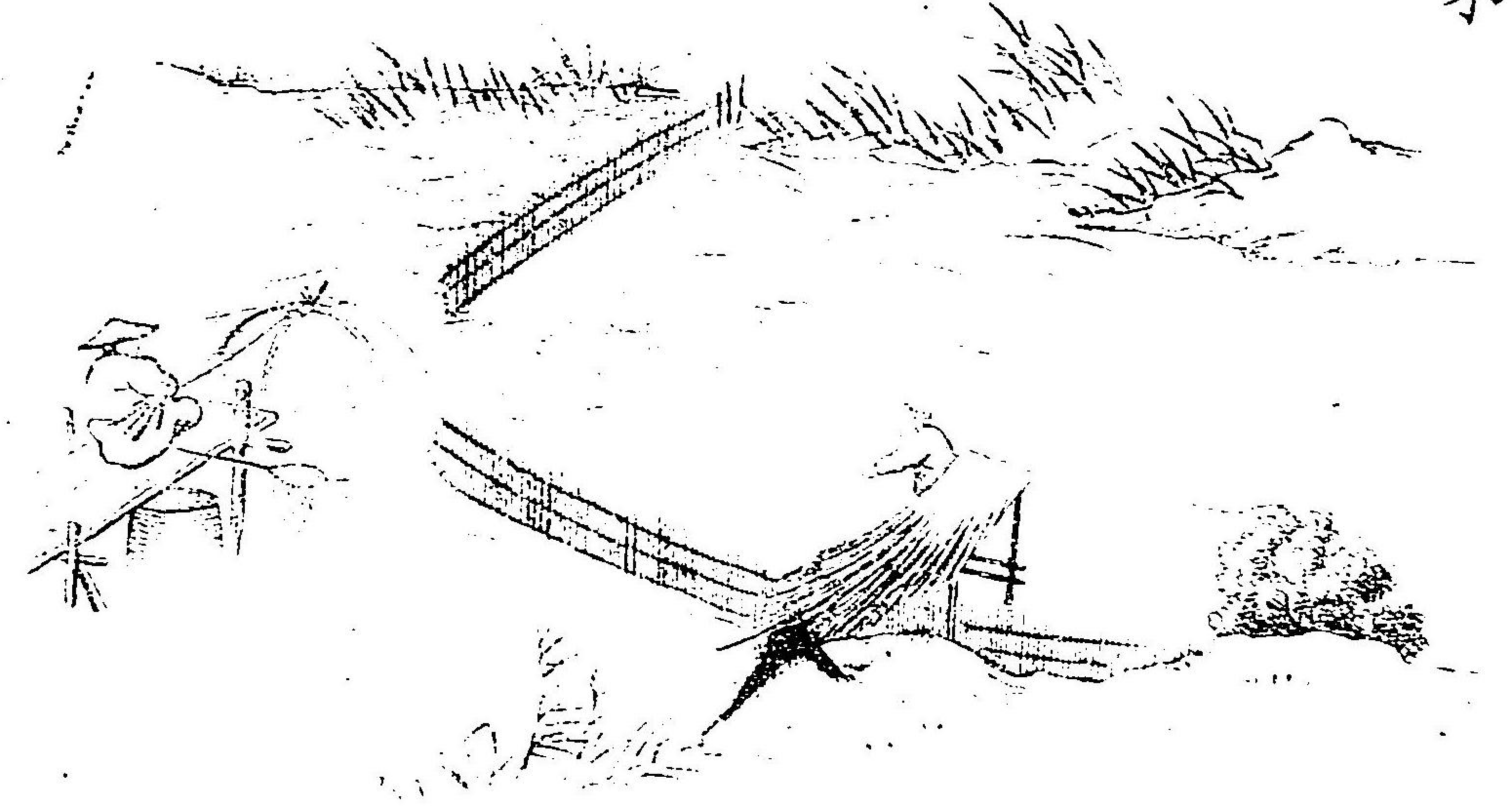
第十四号一圖



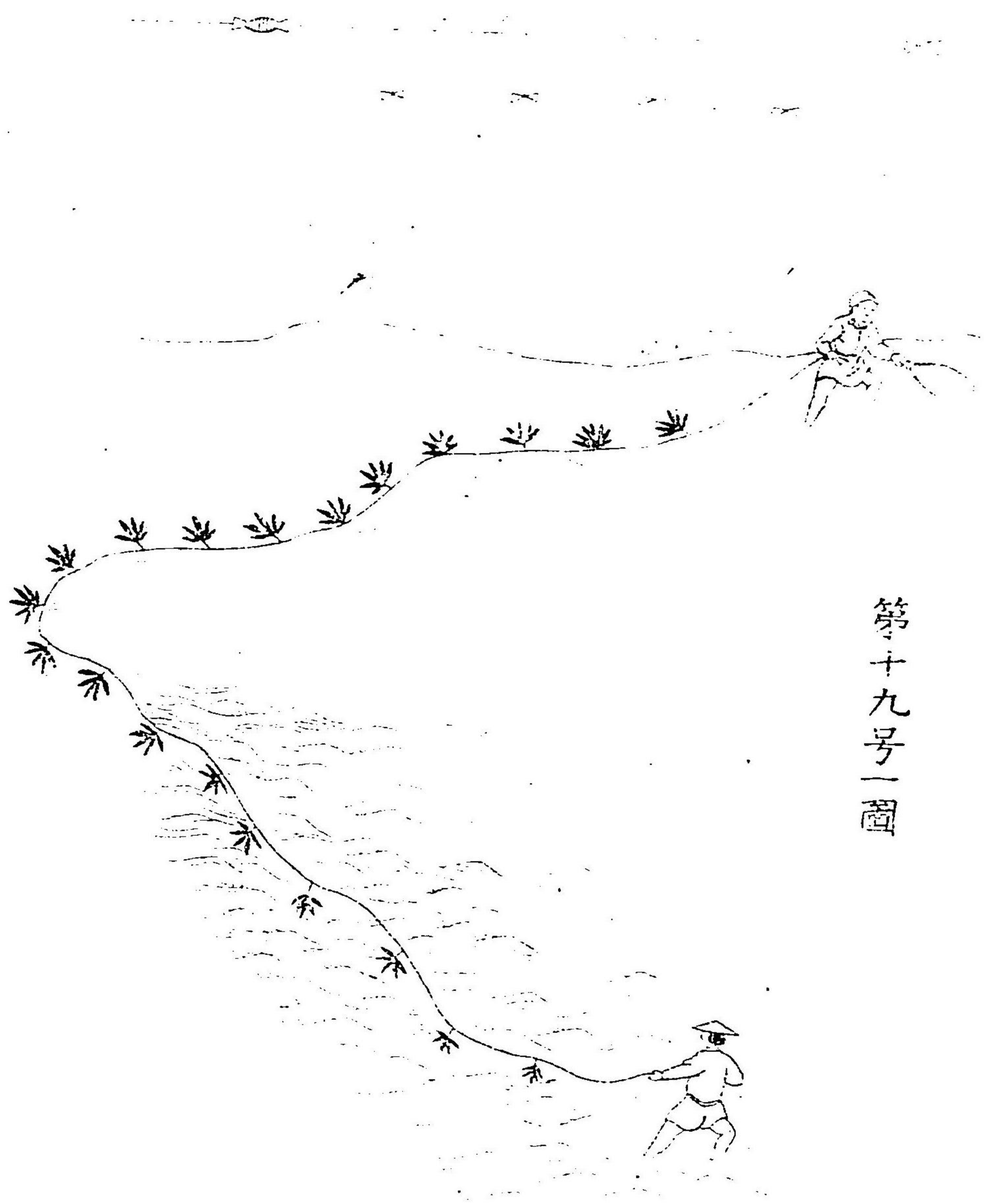
第十四号三圖



第五十号一圖

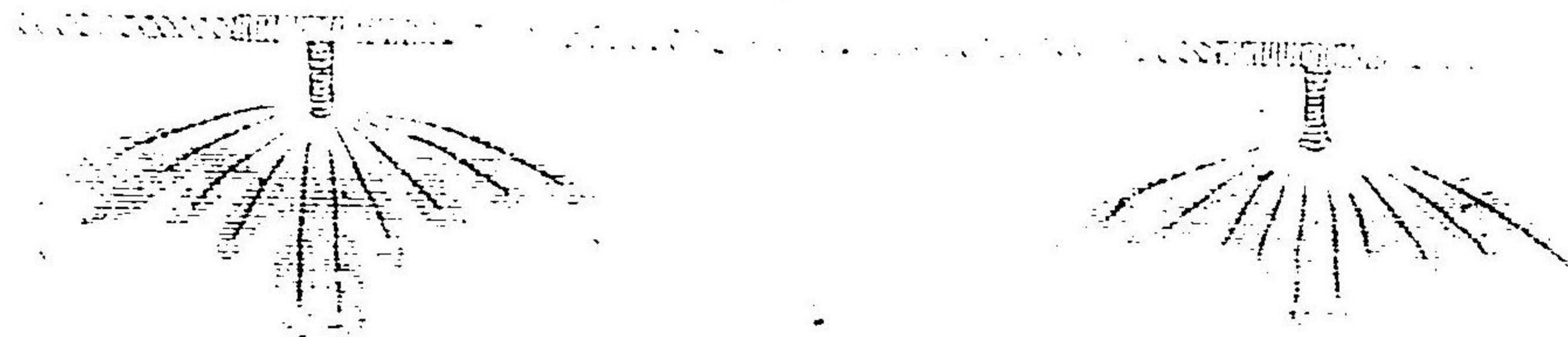


十

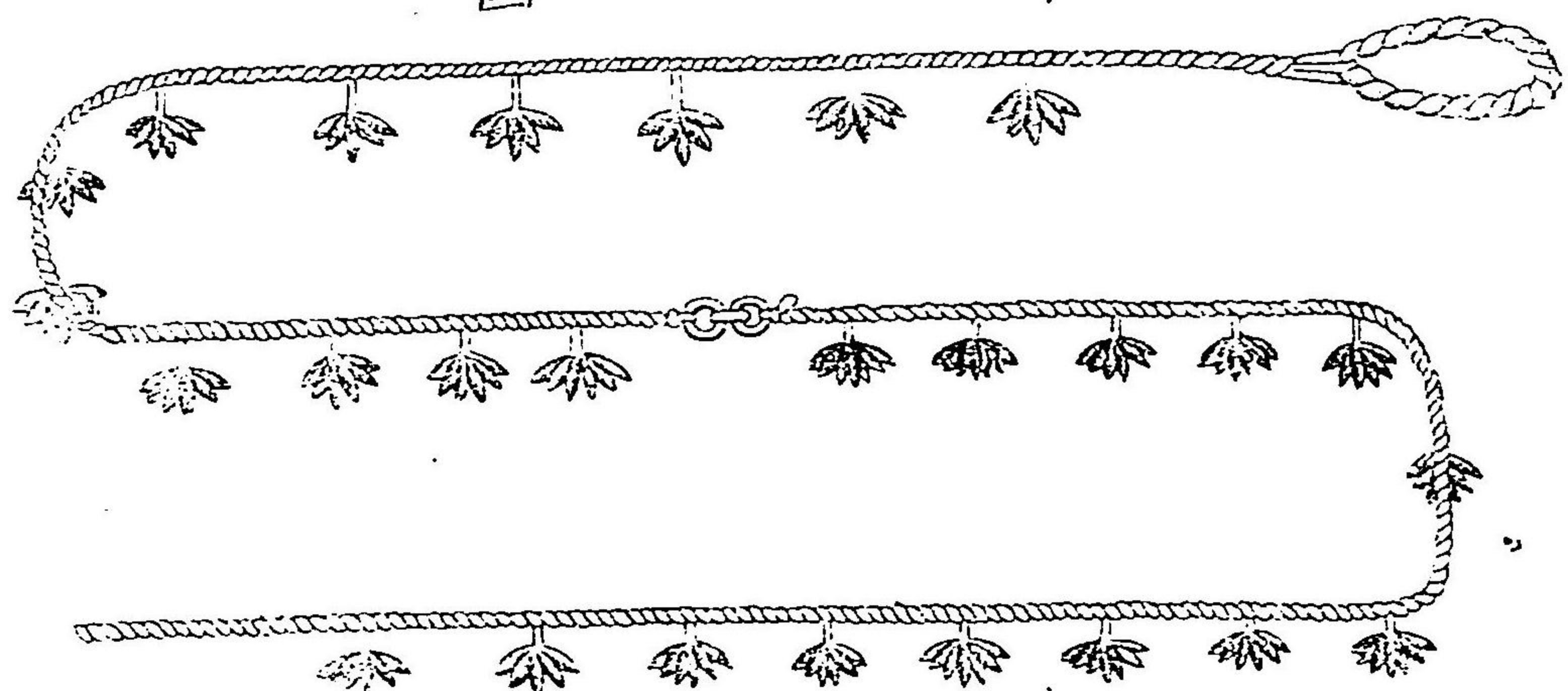


第十九号一圖

第二十号二圖



第二十九号三圖



第三十号一圖



第三十号二圖



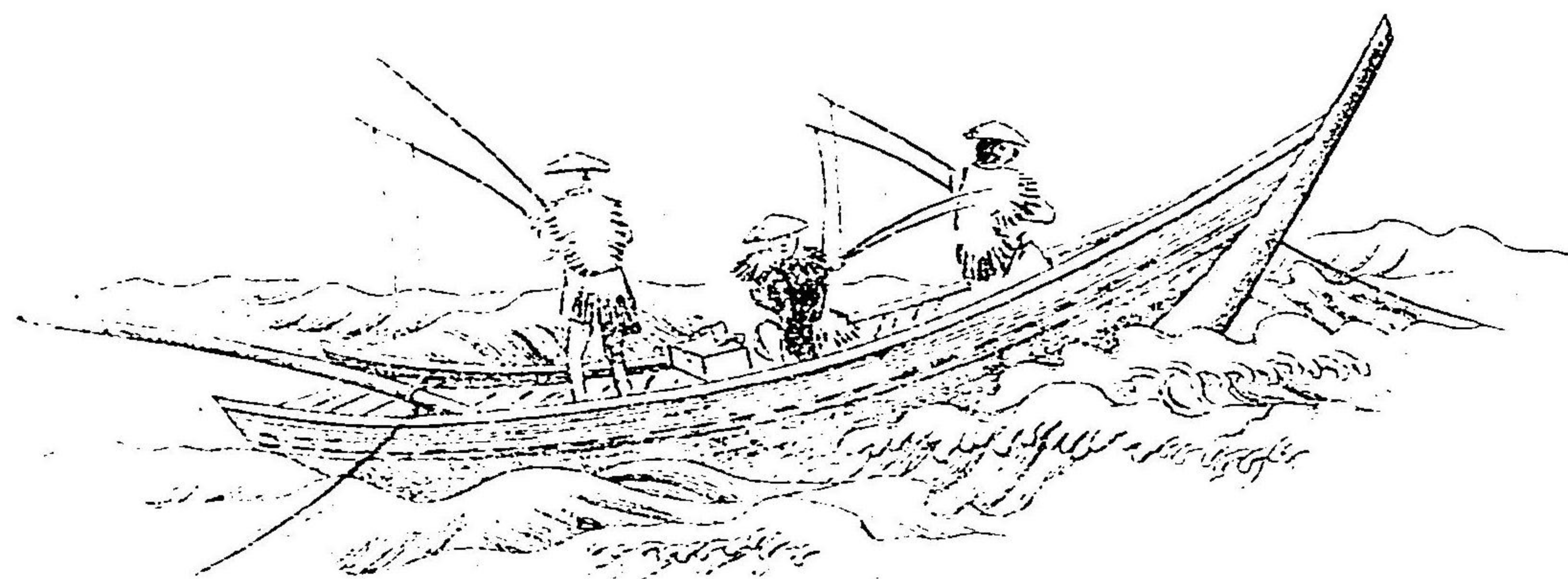
第三十号三圖

第三十号四圖

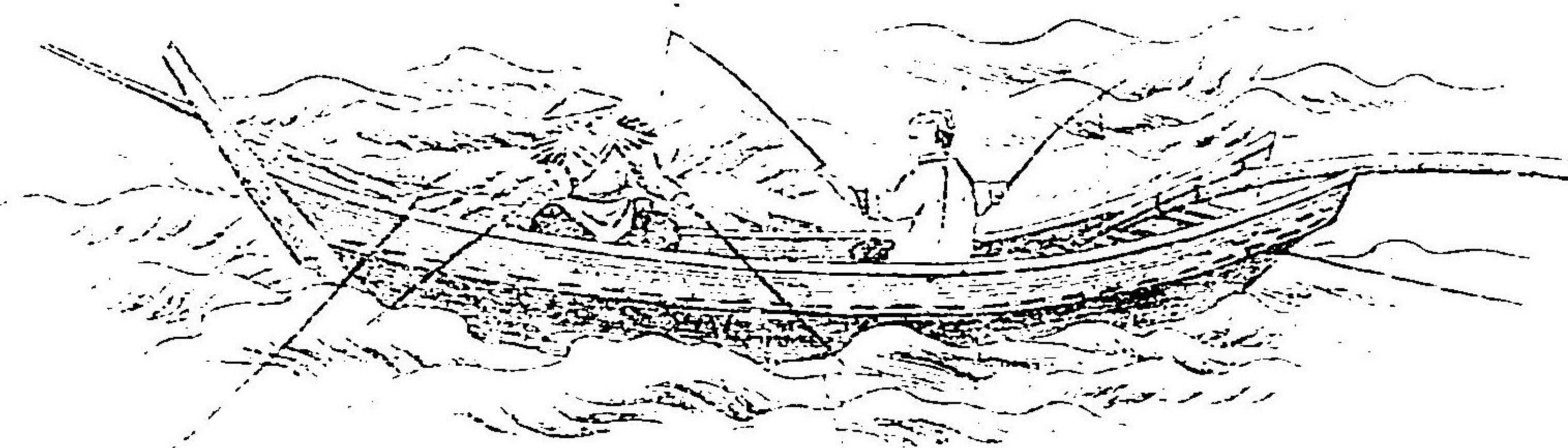
第三十号五圖



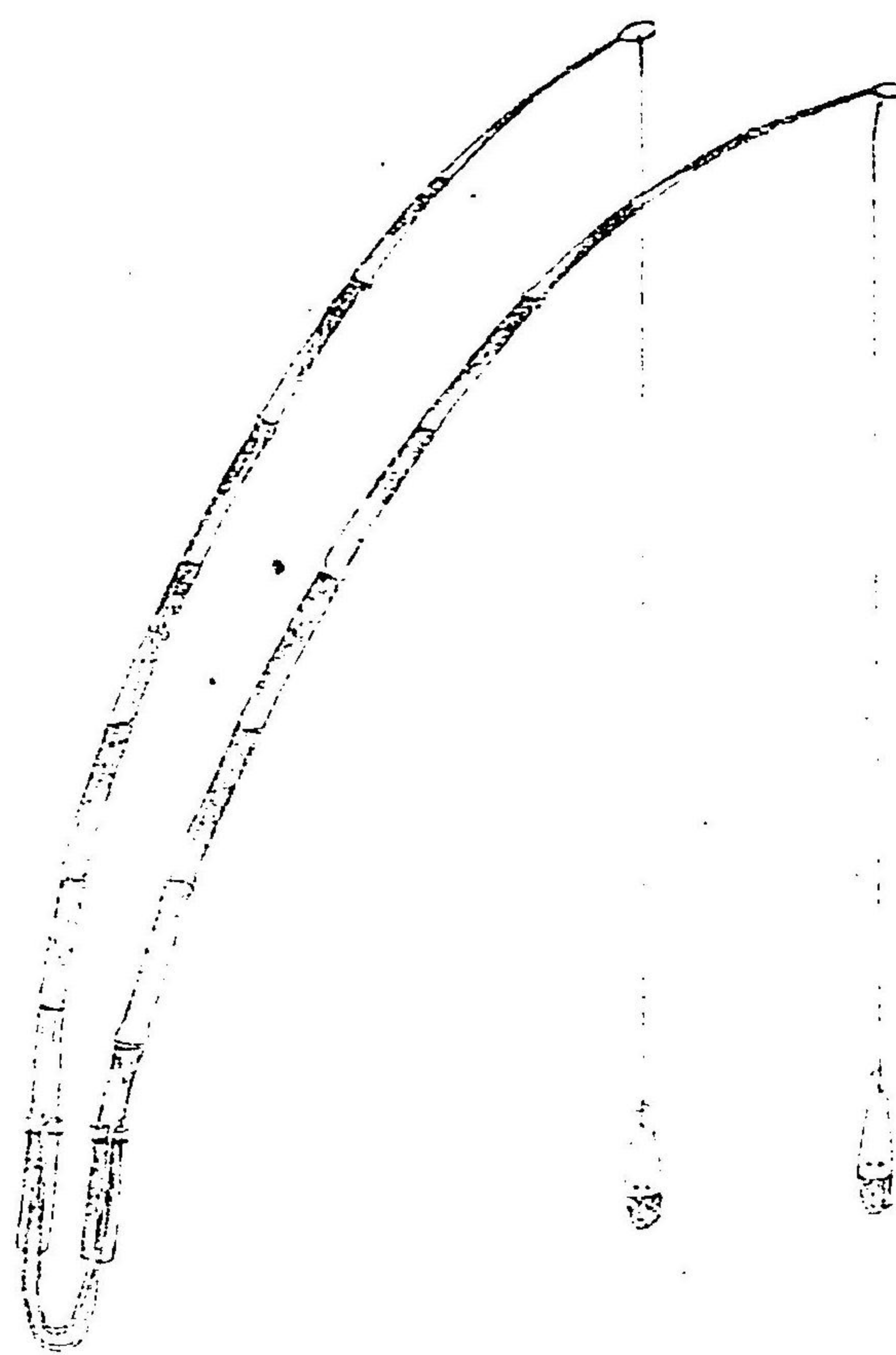
第廿一号一圖



第廿一号二圖



第廿一号四圖



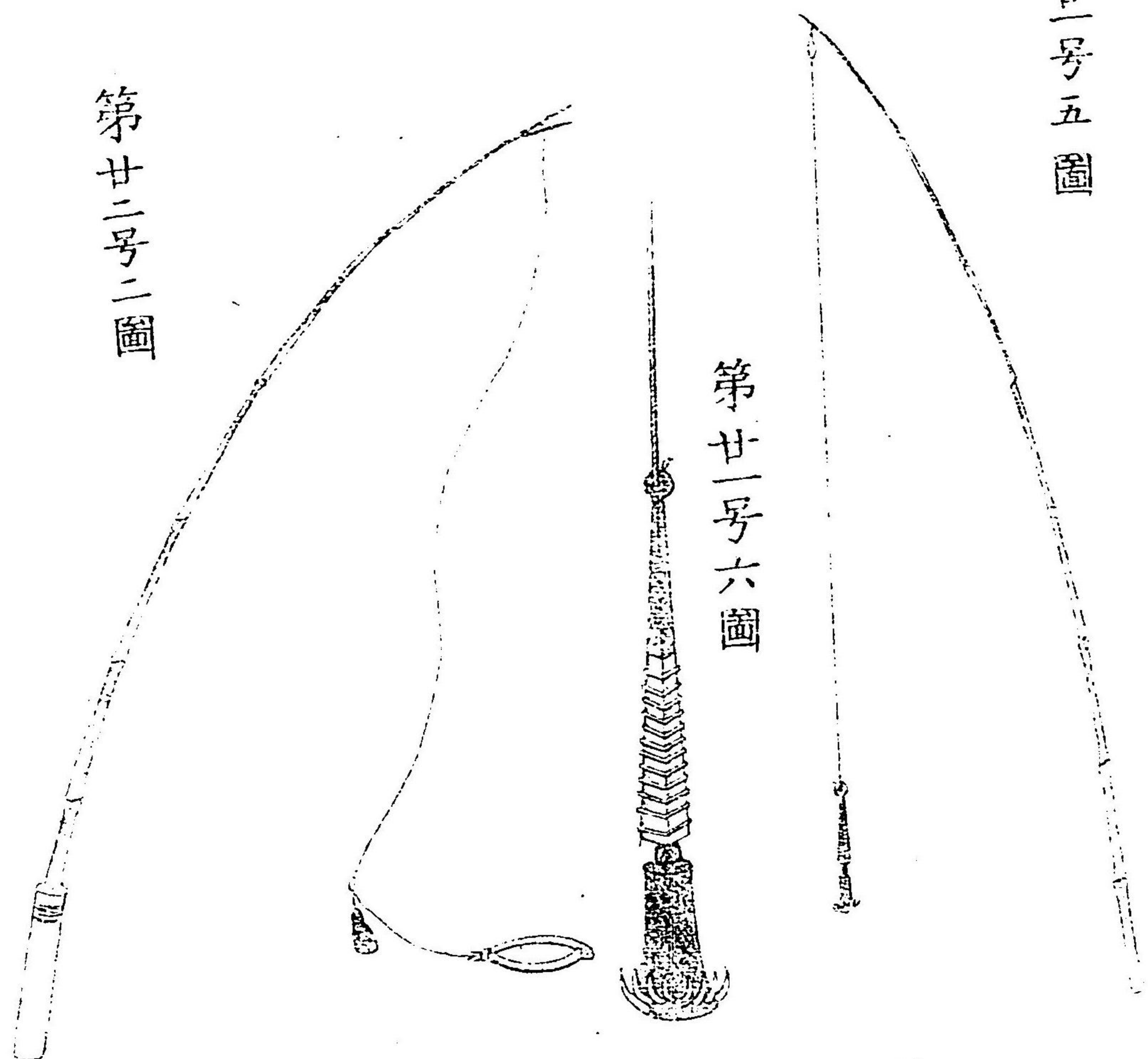
第廿一号三圖

十八

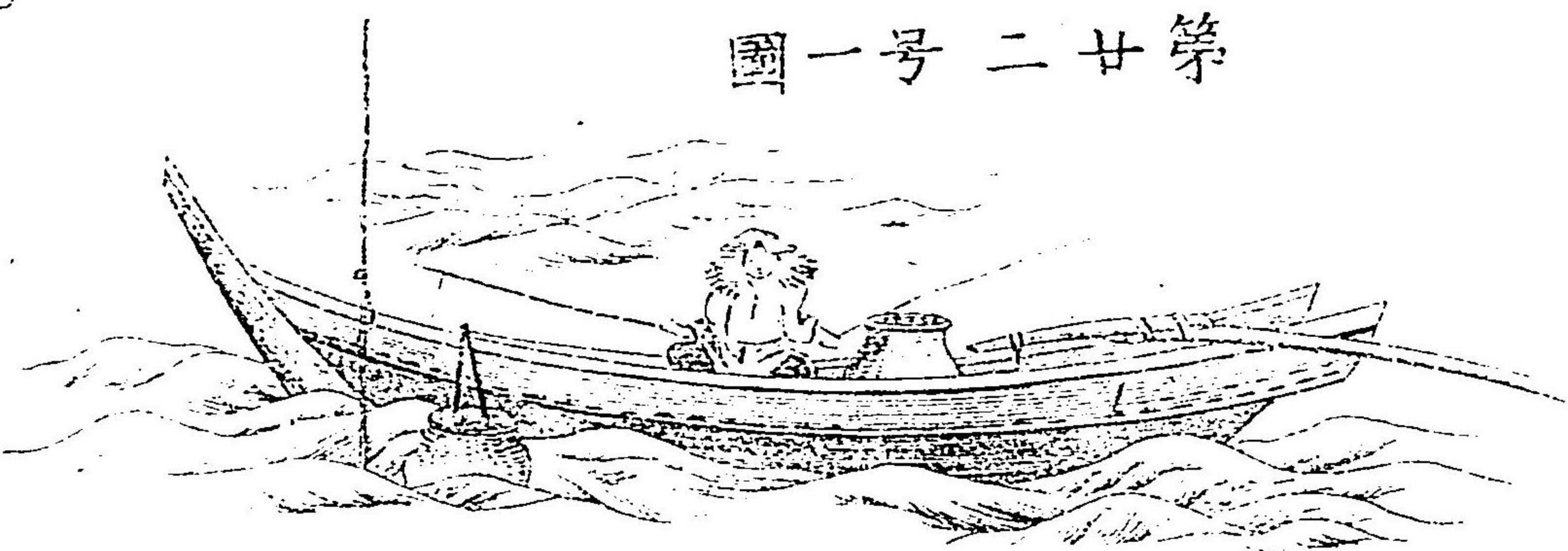
第廿一号五圖

第廿一号六圖

第廿二号二圖



第廿二号一圖

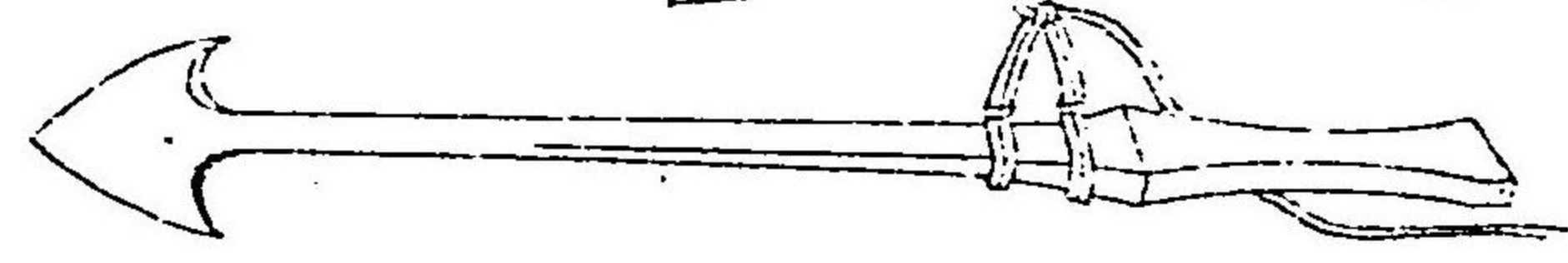
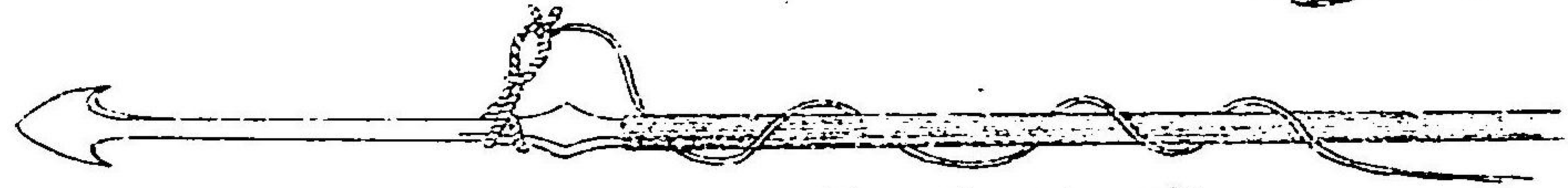


十九

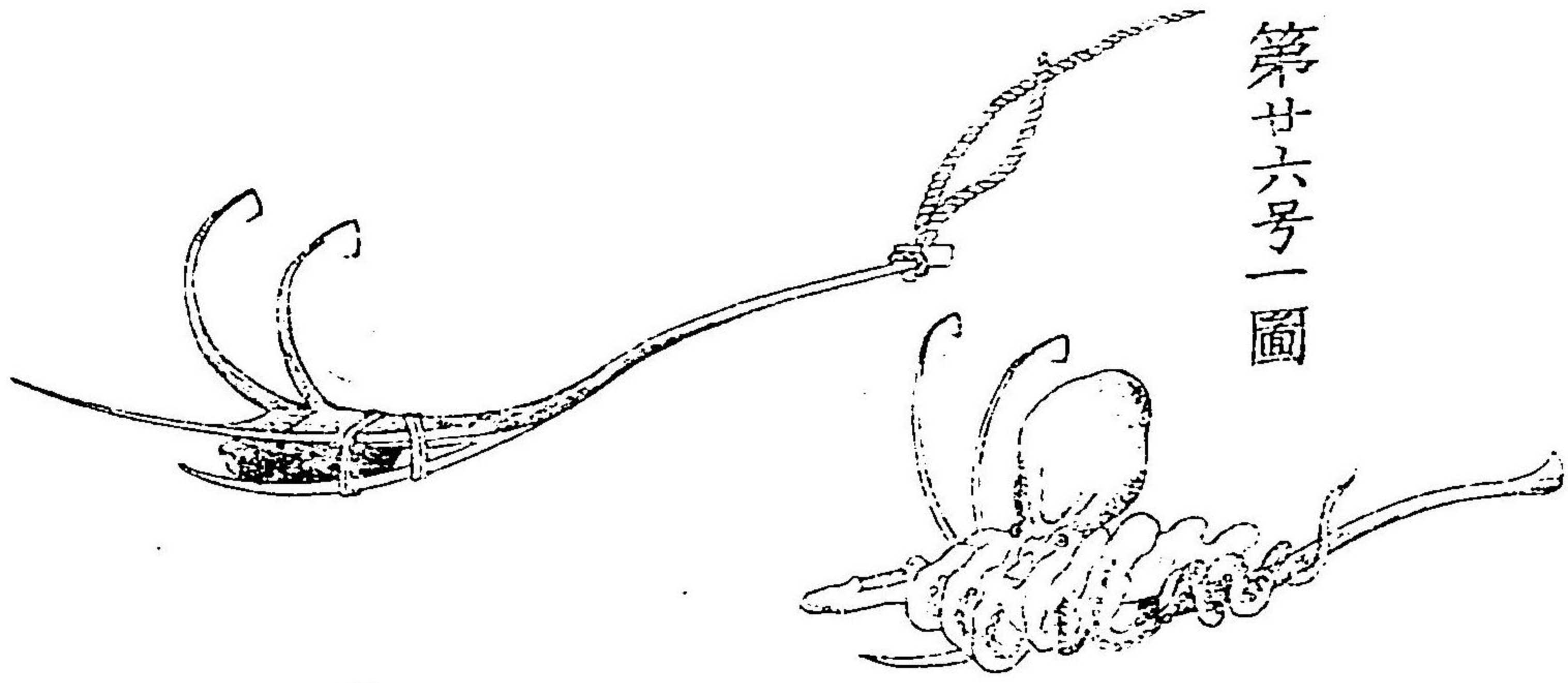
第廿五号一圖



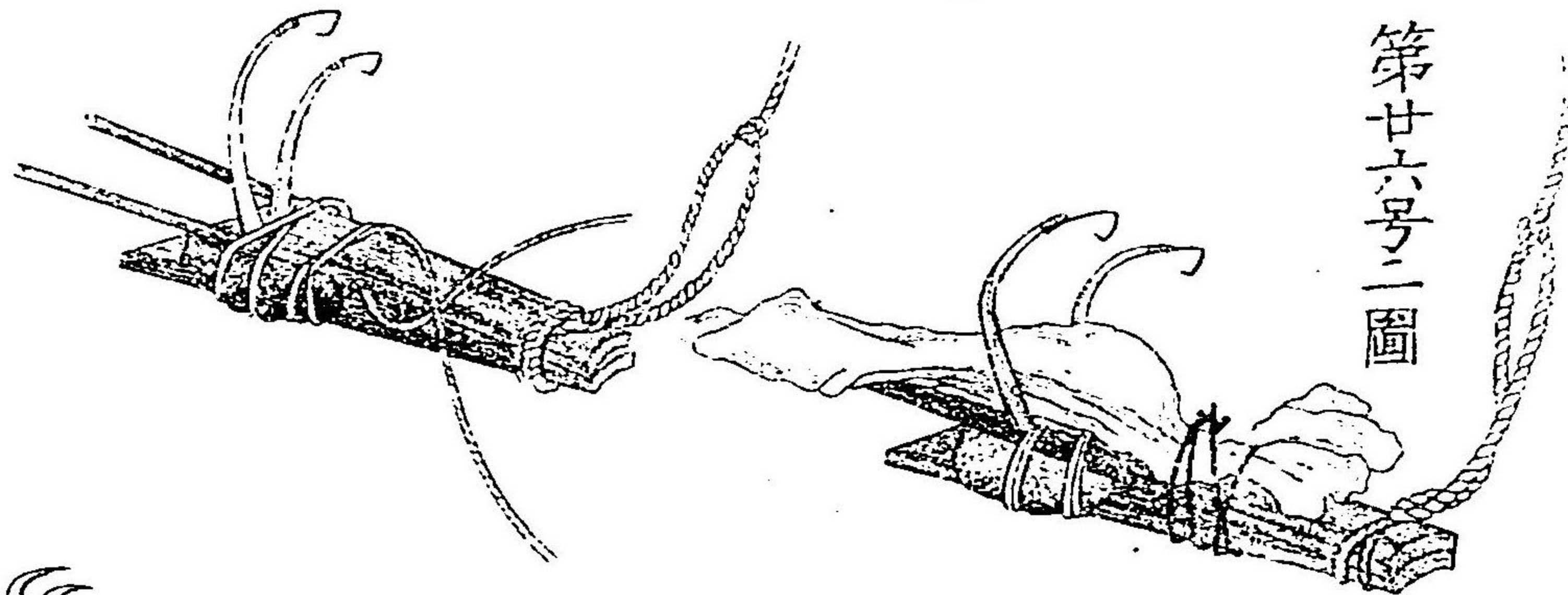
第廿五号二圖



第廿六号一圖



第廿六号二圖



廿五

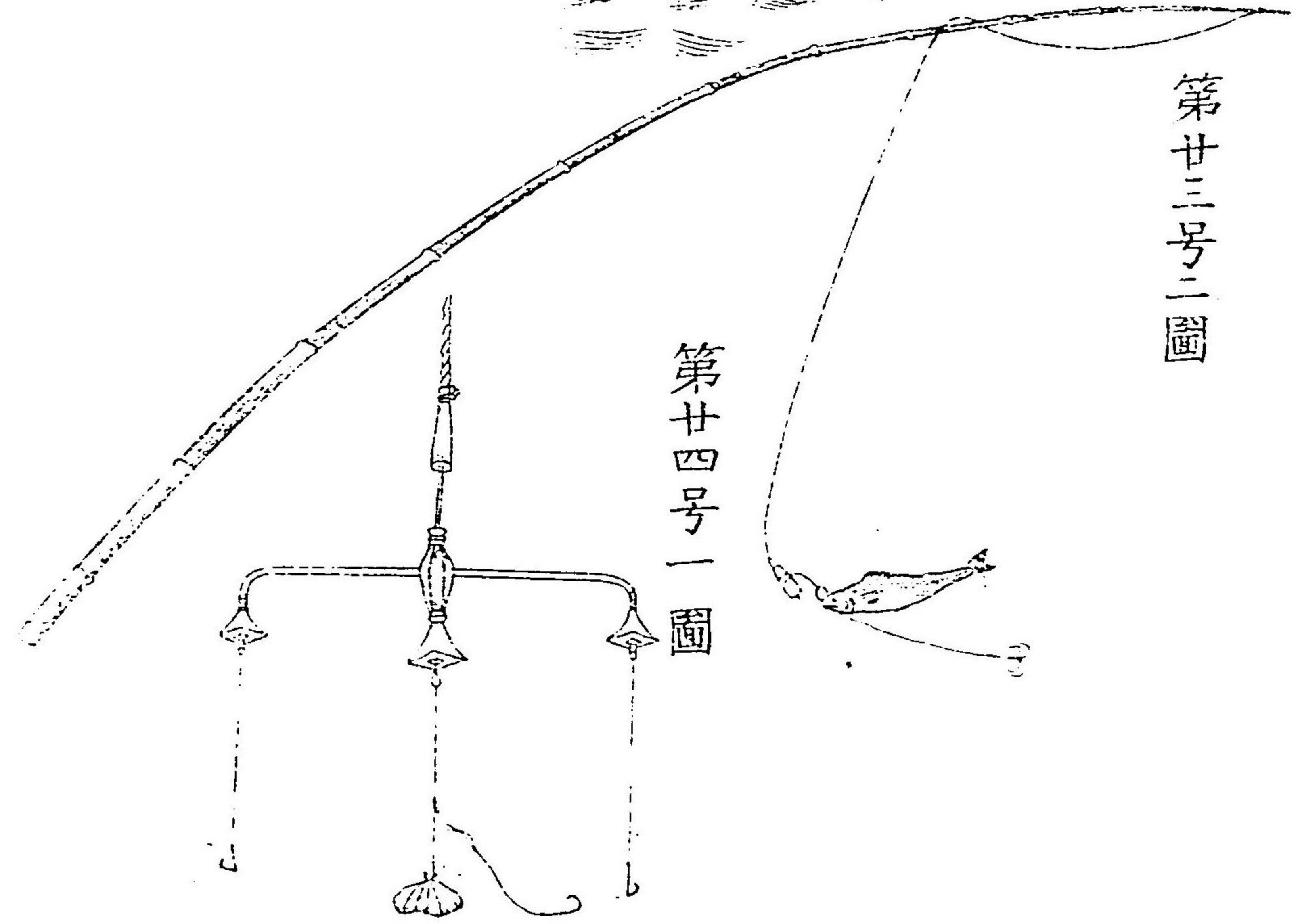
第廿六号三圖



第廿三号一圖

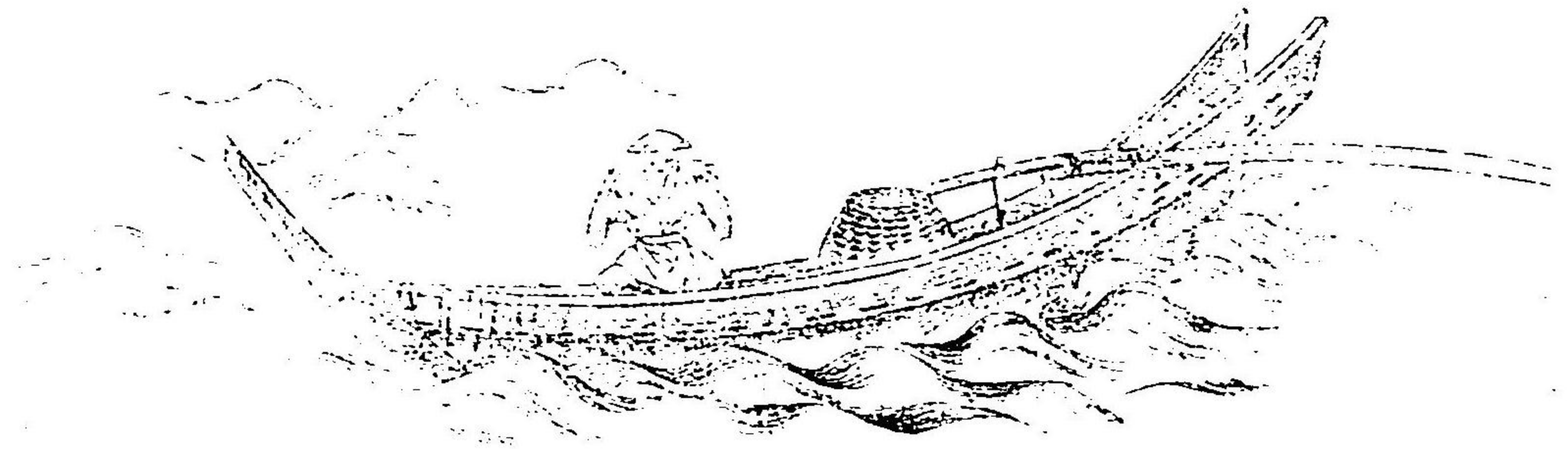


第廿三号二圖



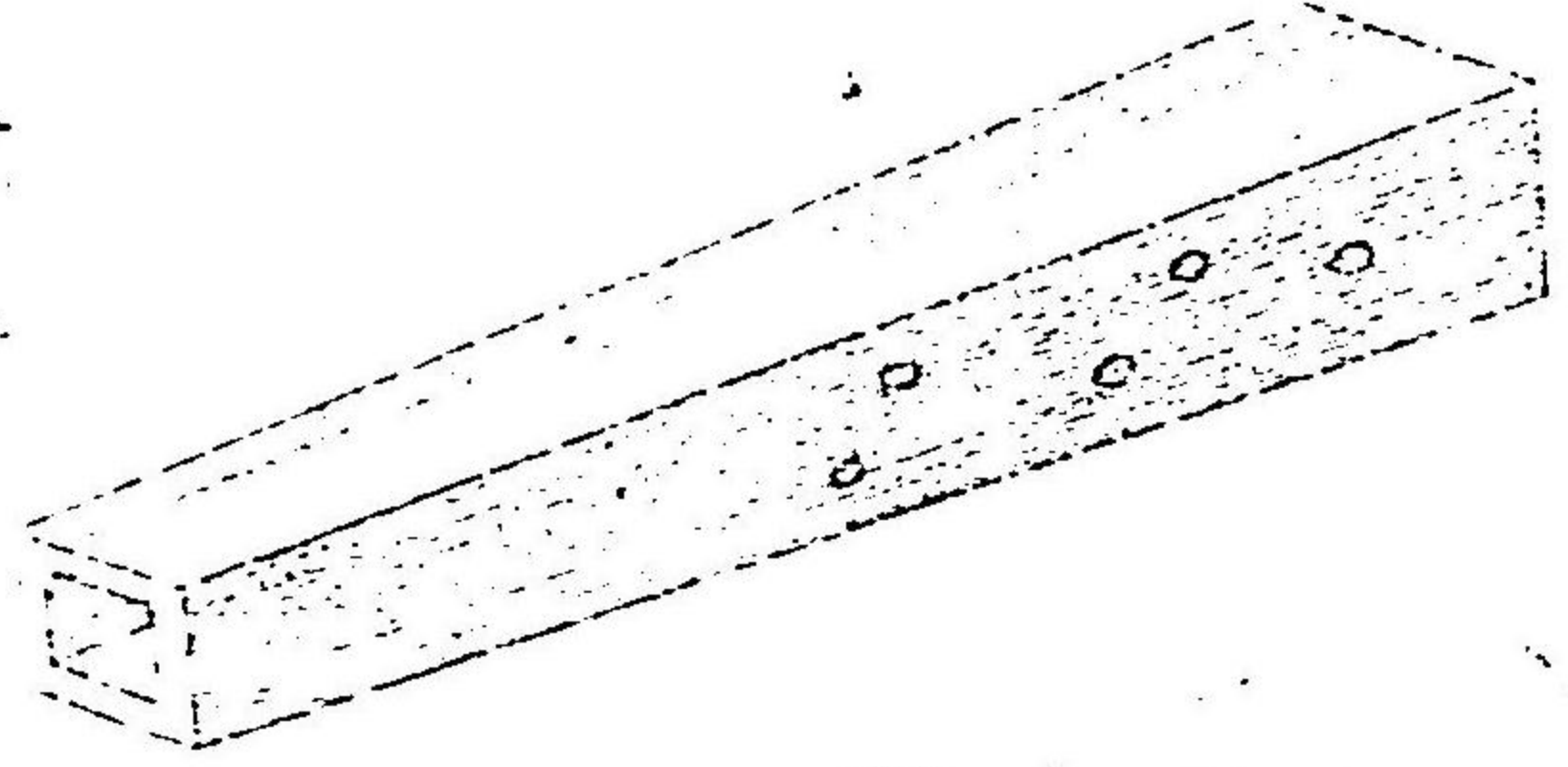
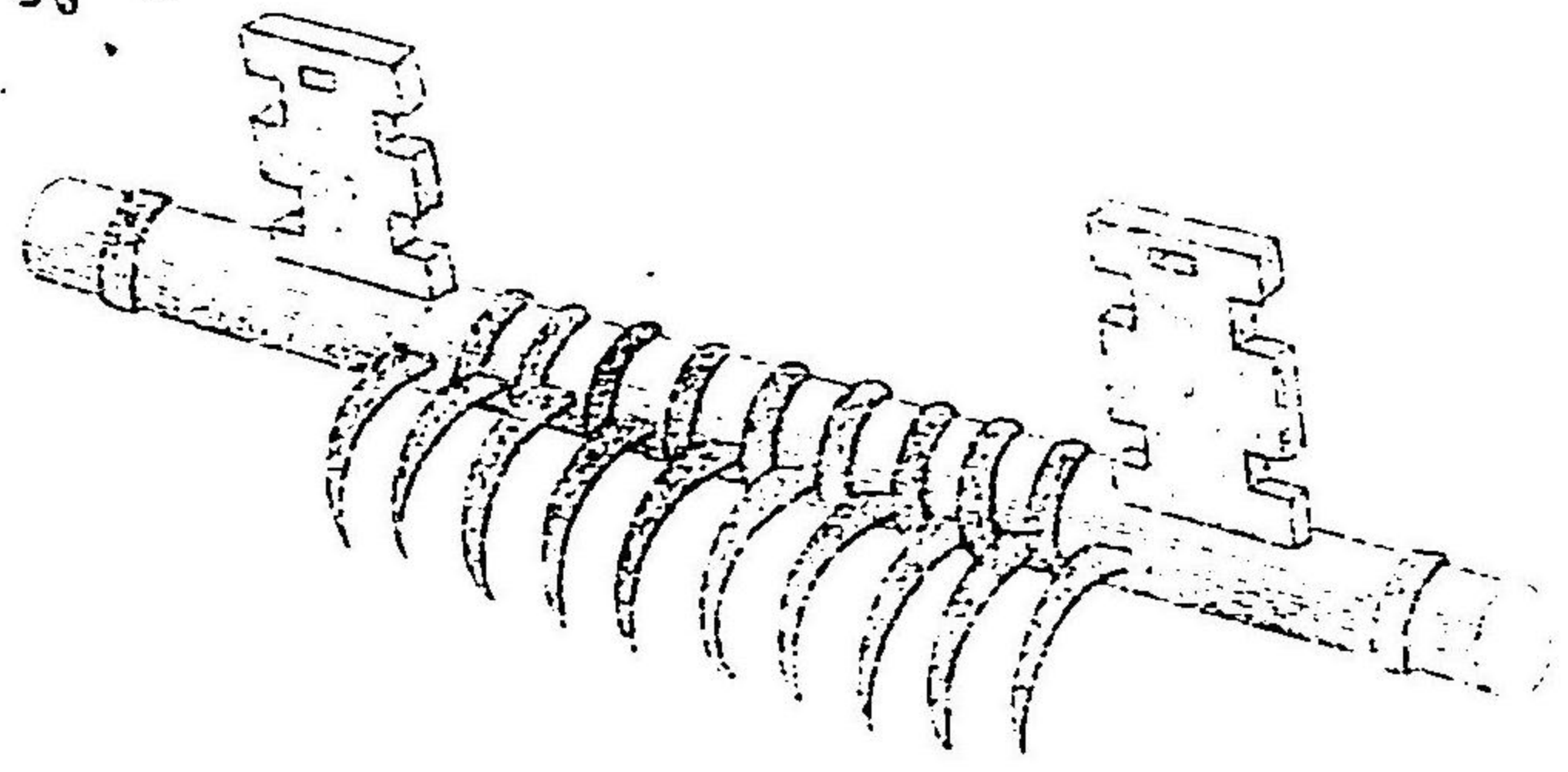
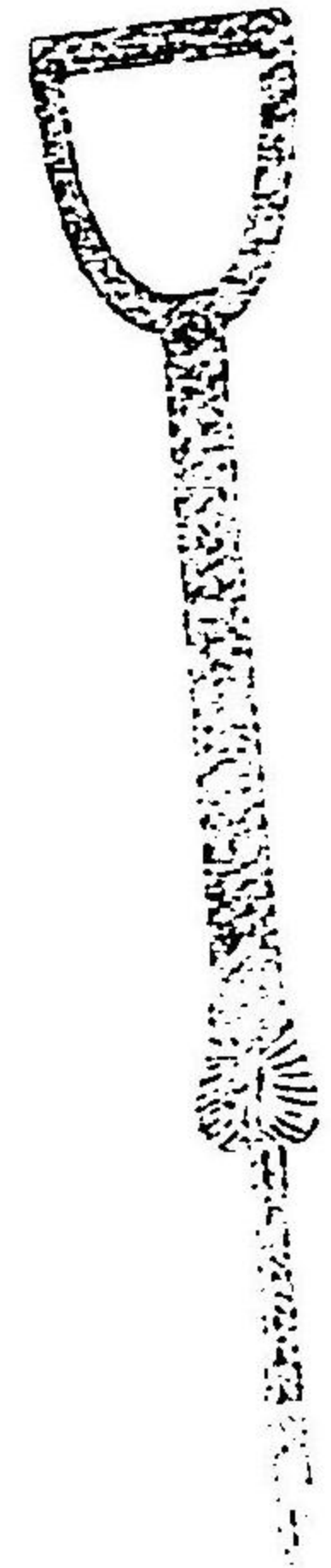
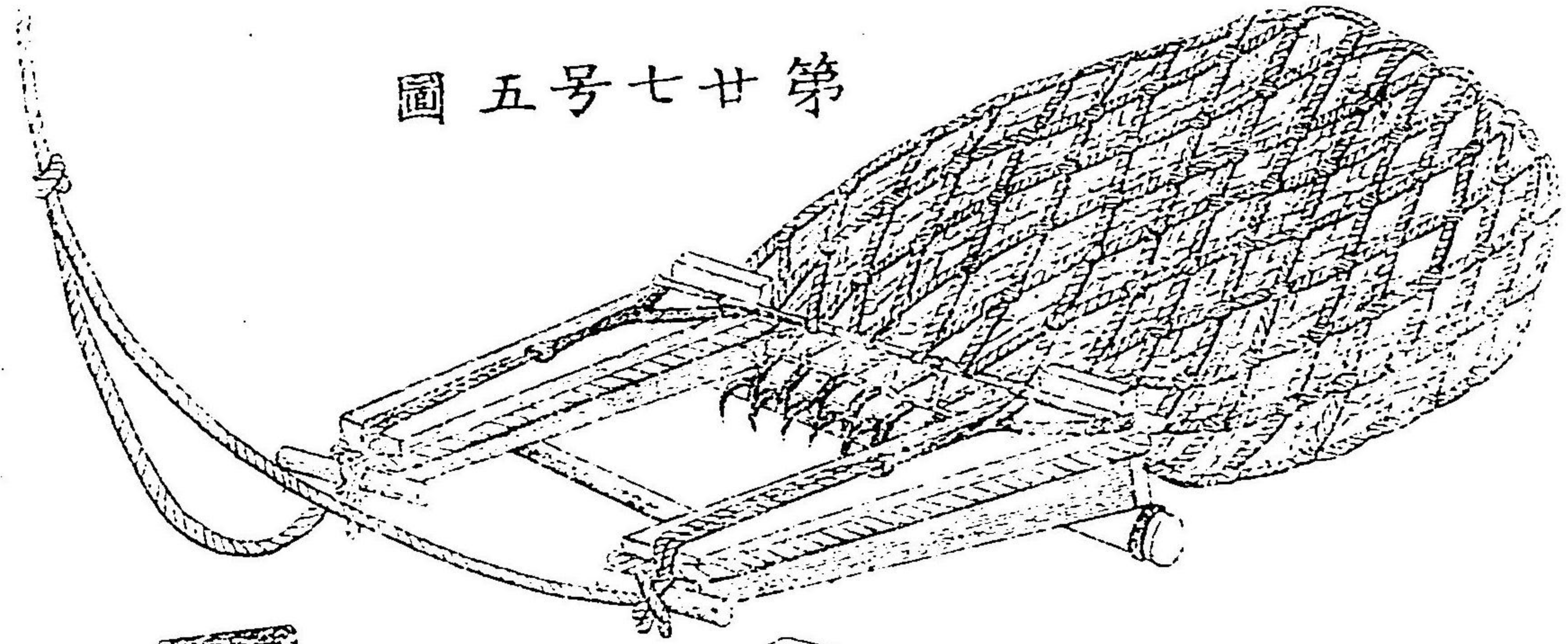
第廿四号一圖

第廿四号二圖



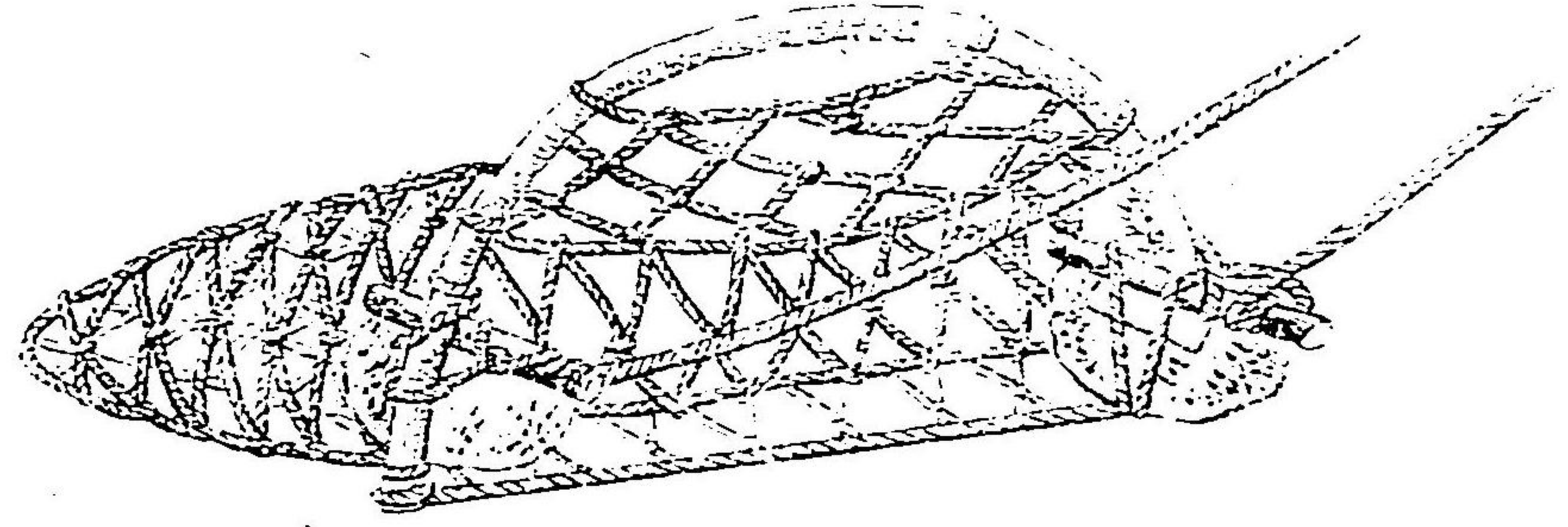
廿

圖五号七廿第

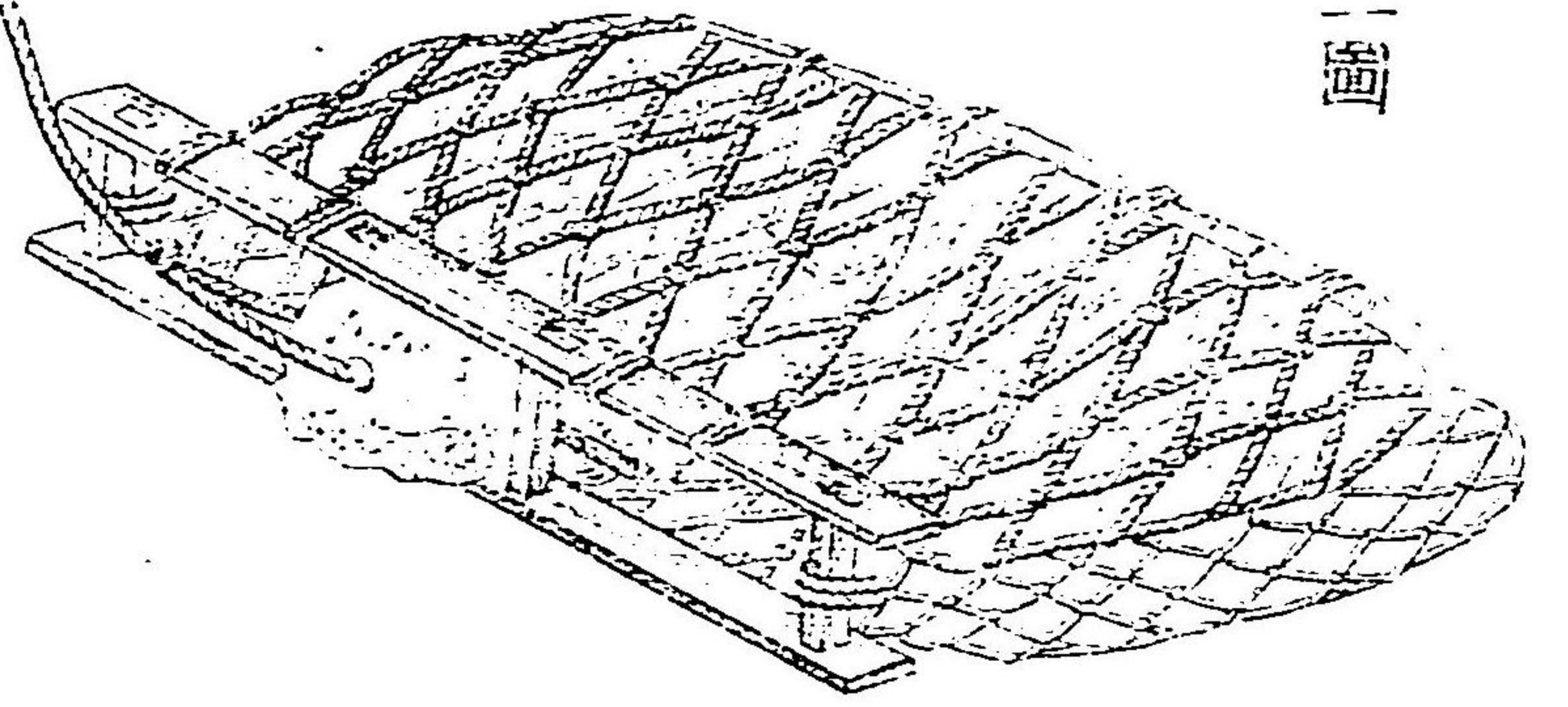


第廿八号一圖

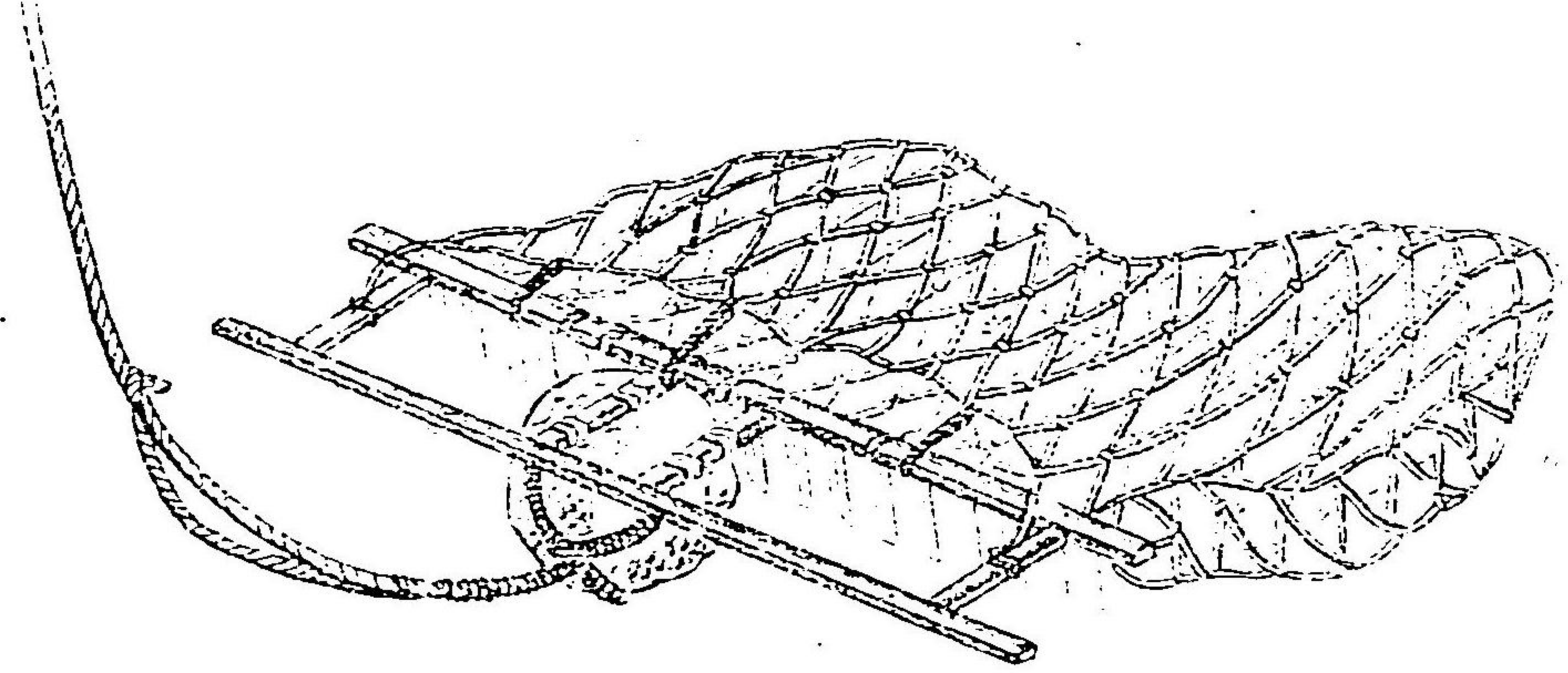
圖一七廿第



第廿七号二圖

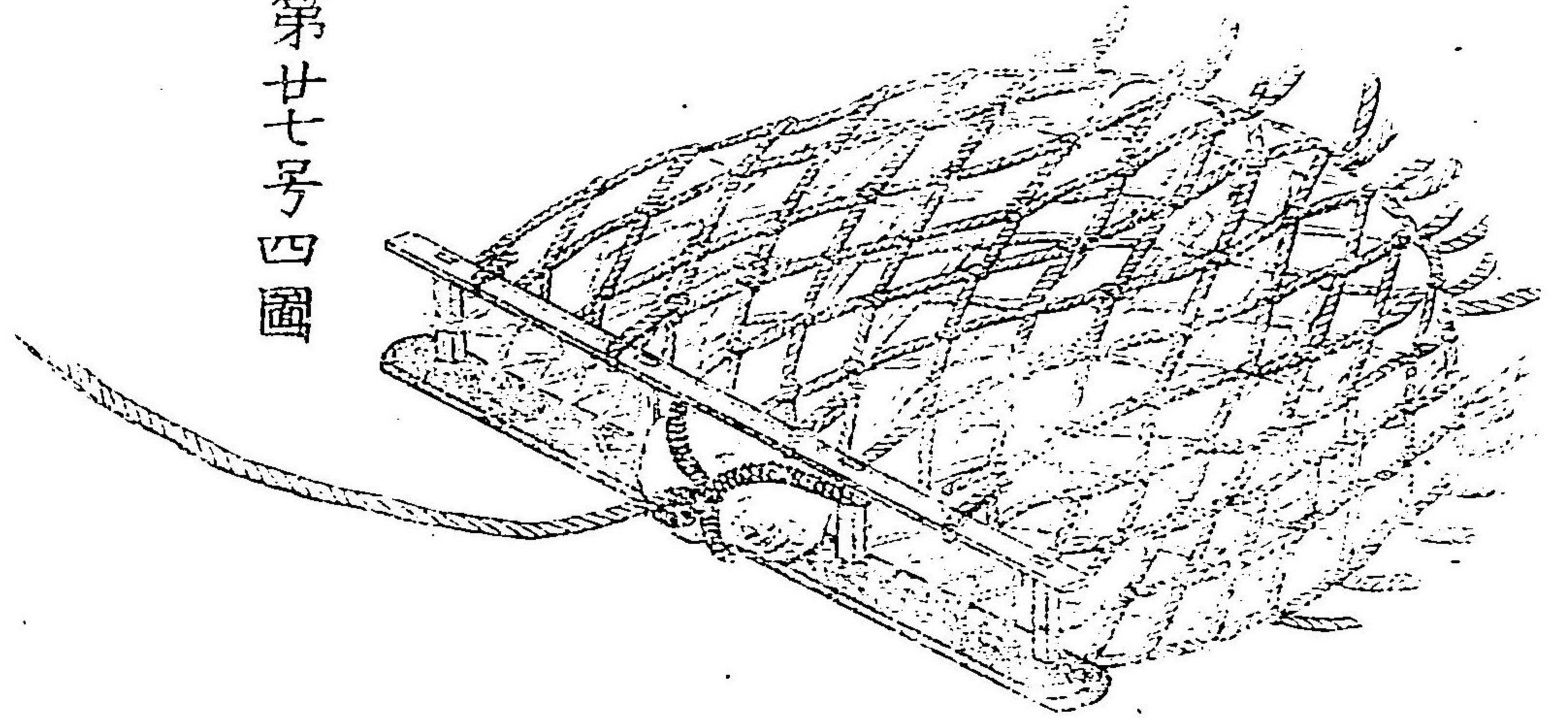


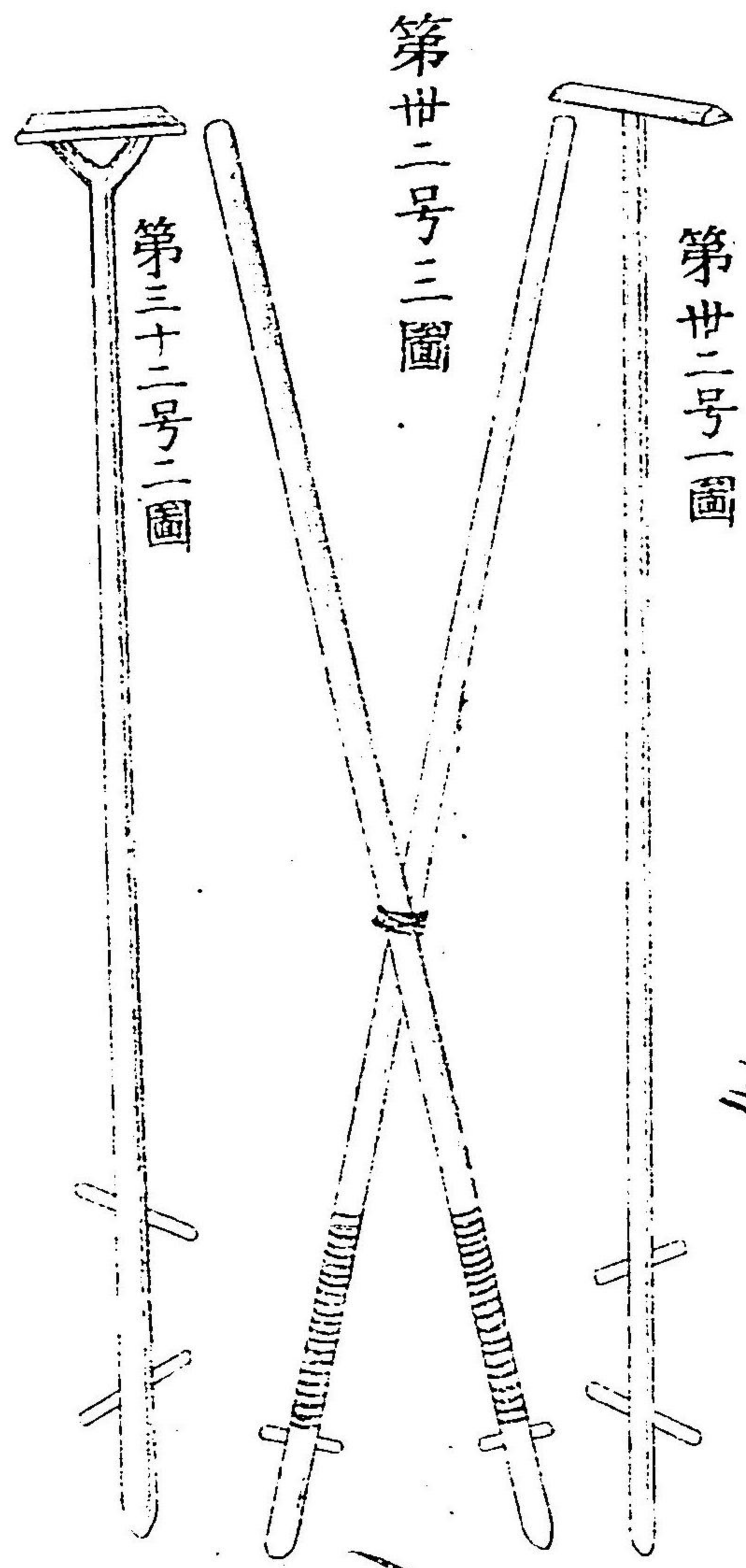
第廿七号三圖



廿一

第廿七号四圖



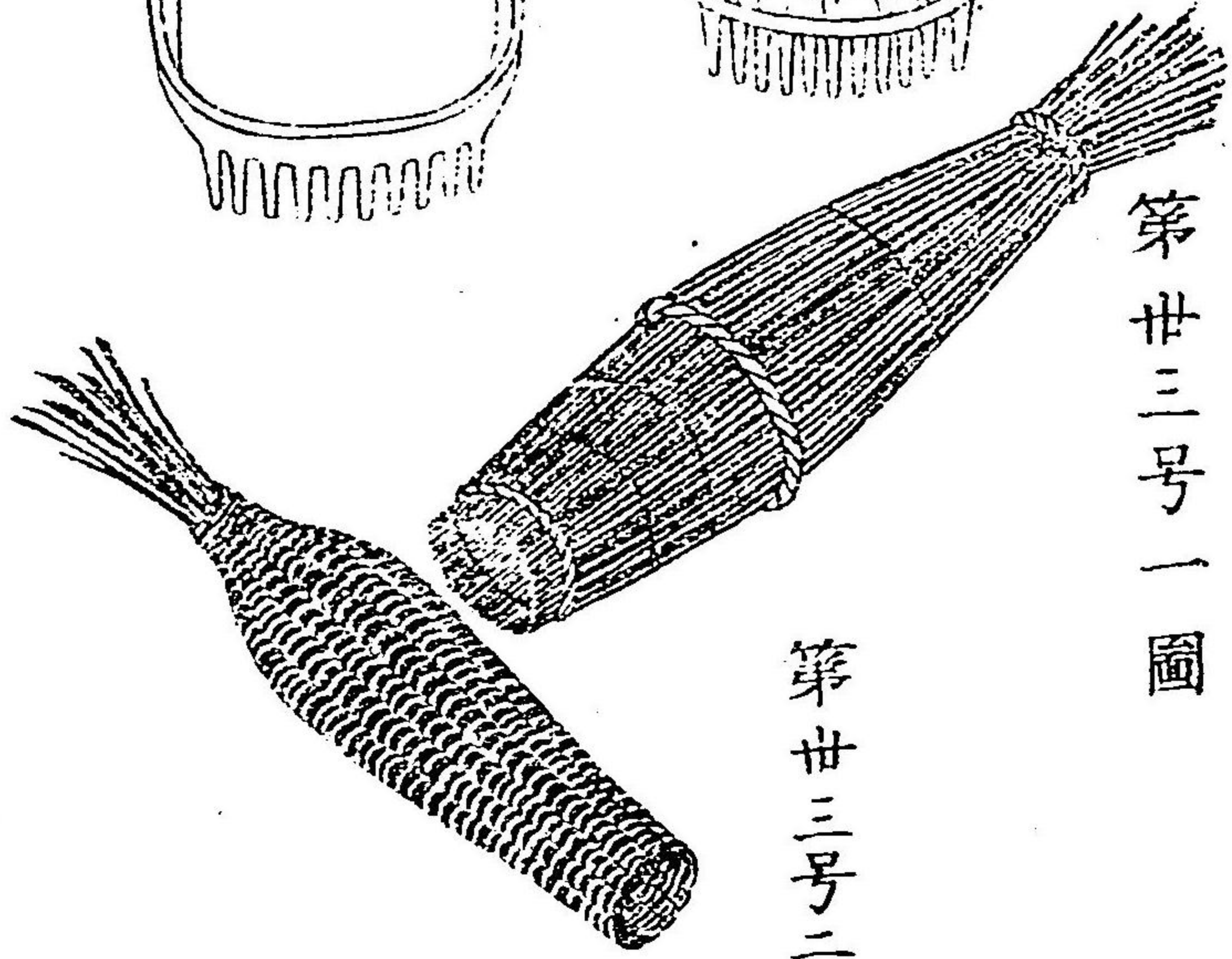
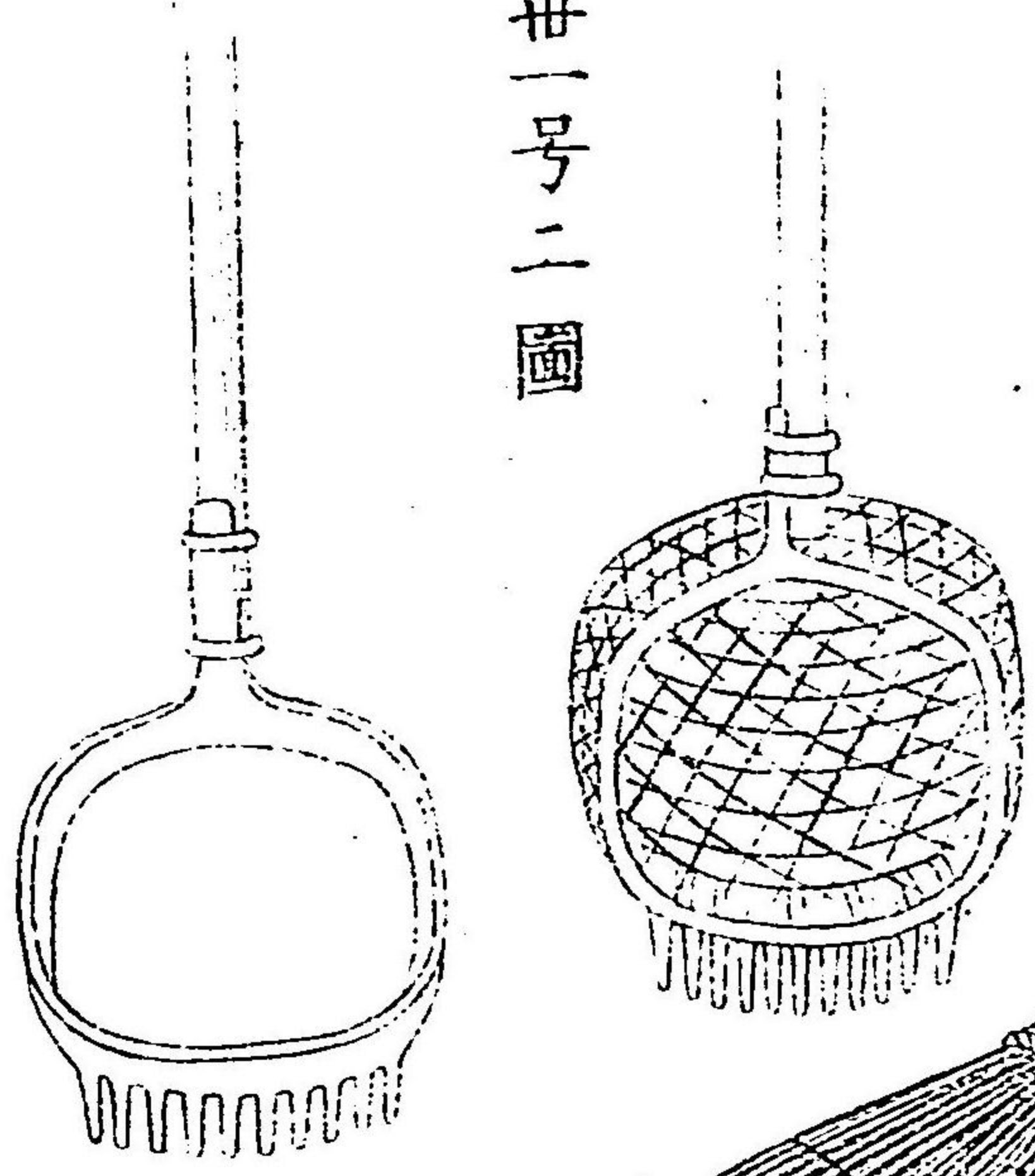


第廿二号三圖

第三十二号二圖

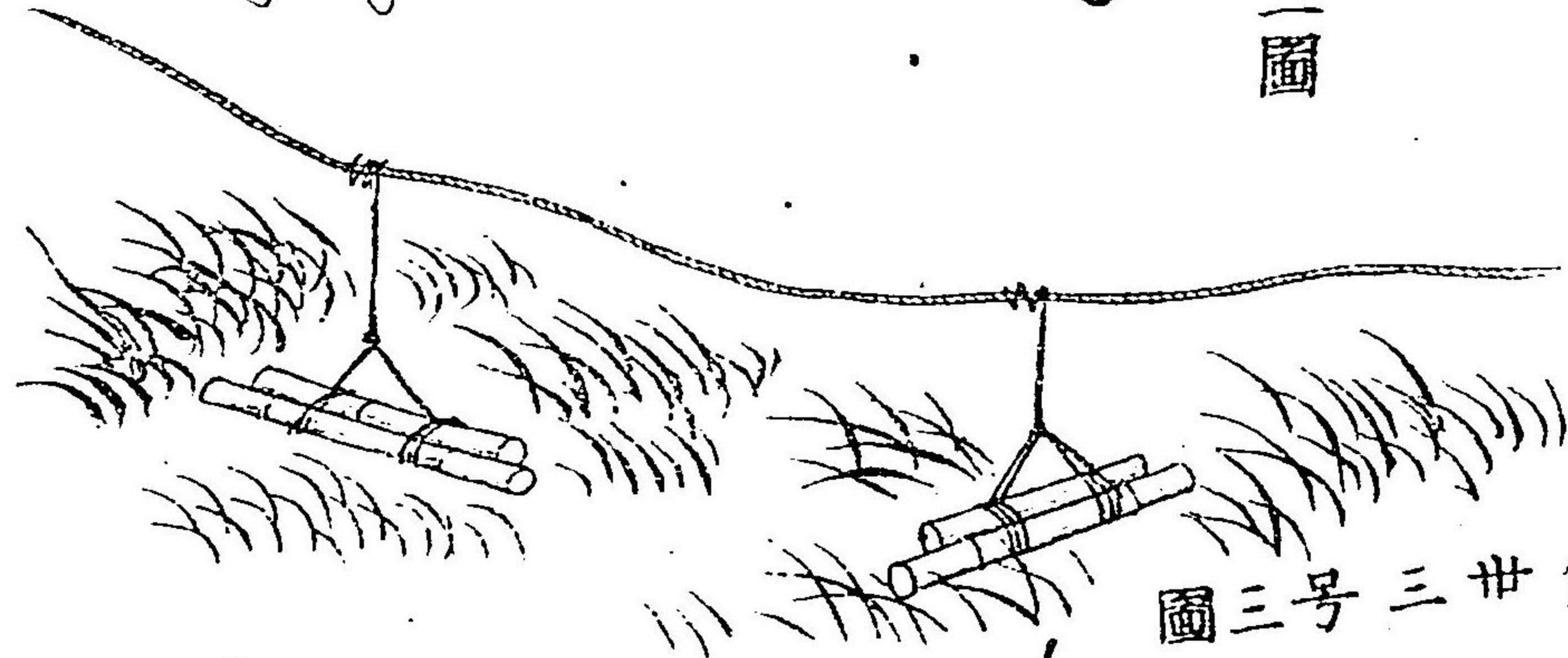
第廿二号一圖

第廿一号二圖



第廿三号一圖

第廿三号二圖



第廿三号三圖

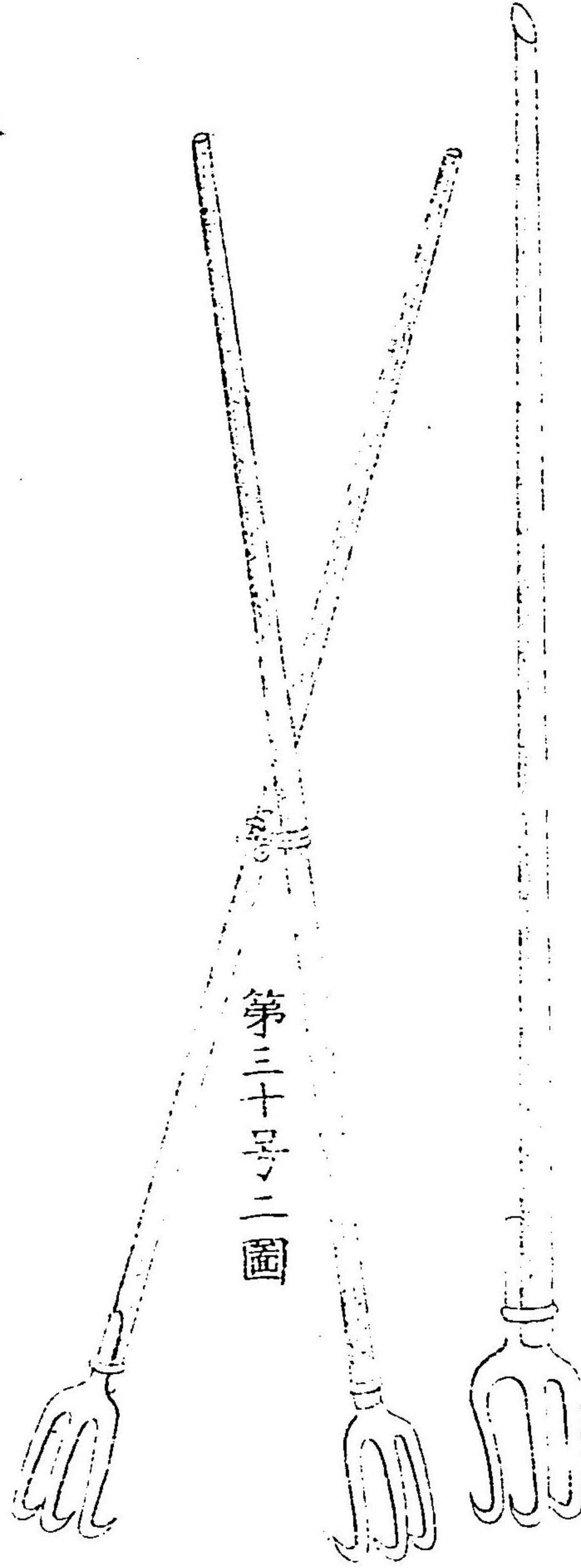


廿五

第廿八号二圖

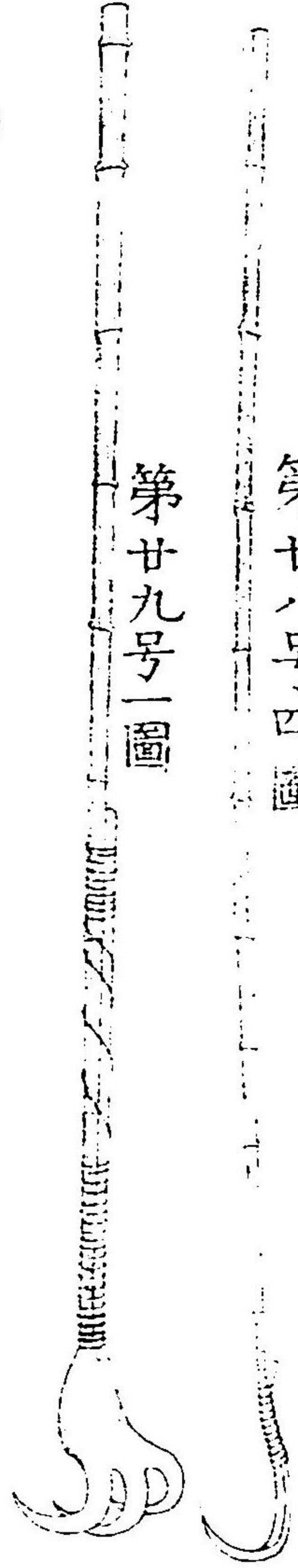


第三十号一圖



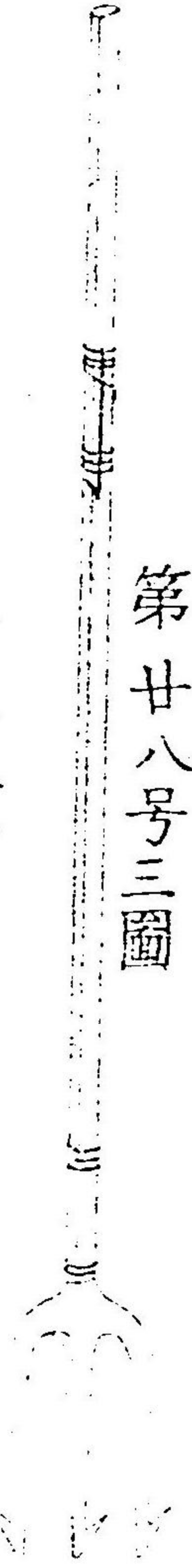
第三十号二圖

第廿九号一圖

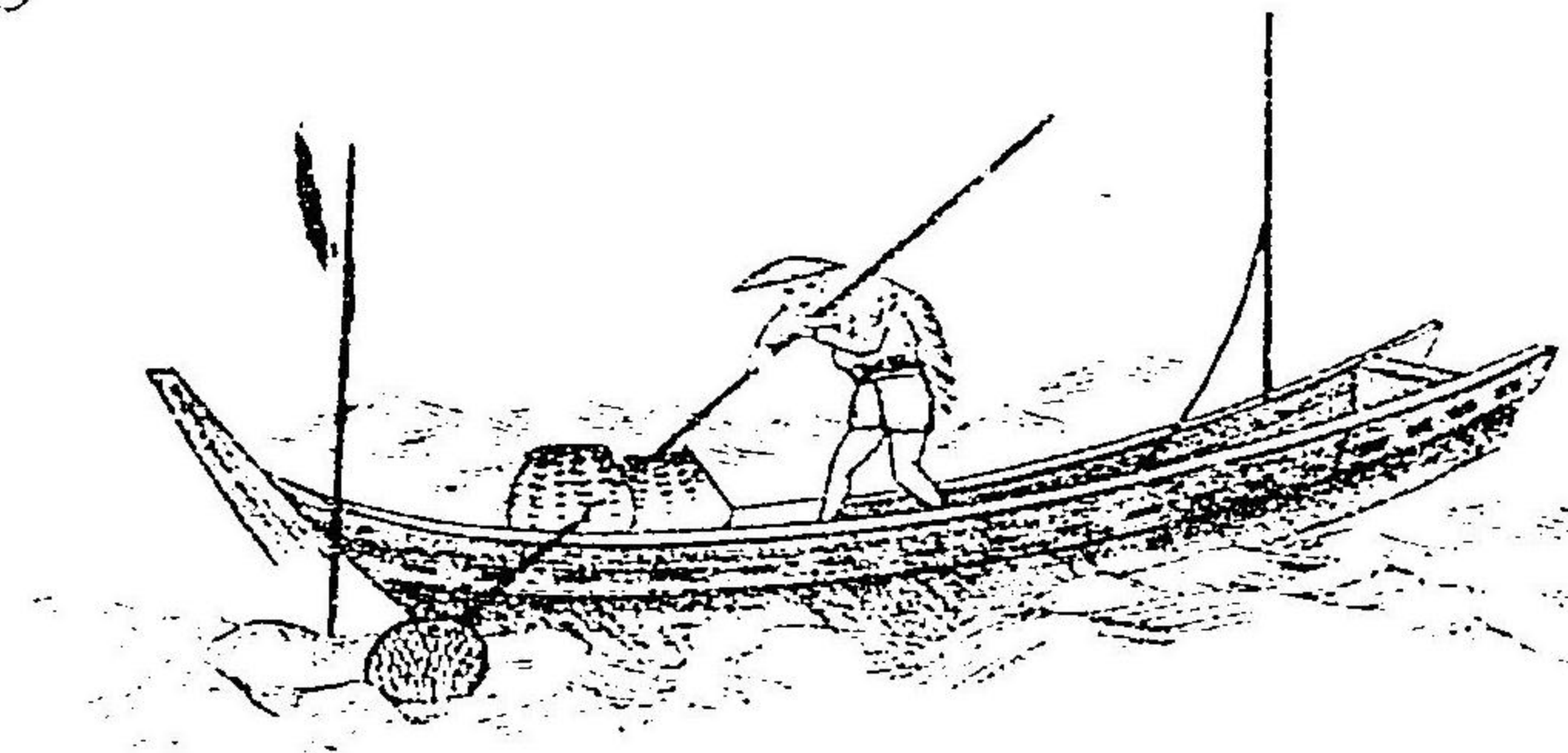


第廿八号四圖

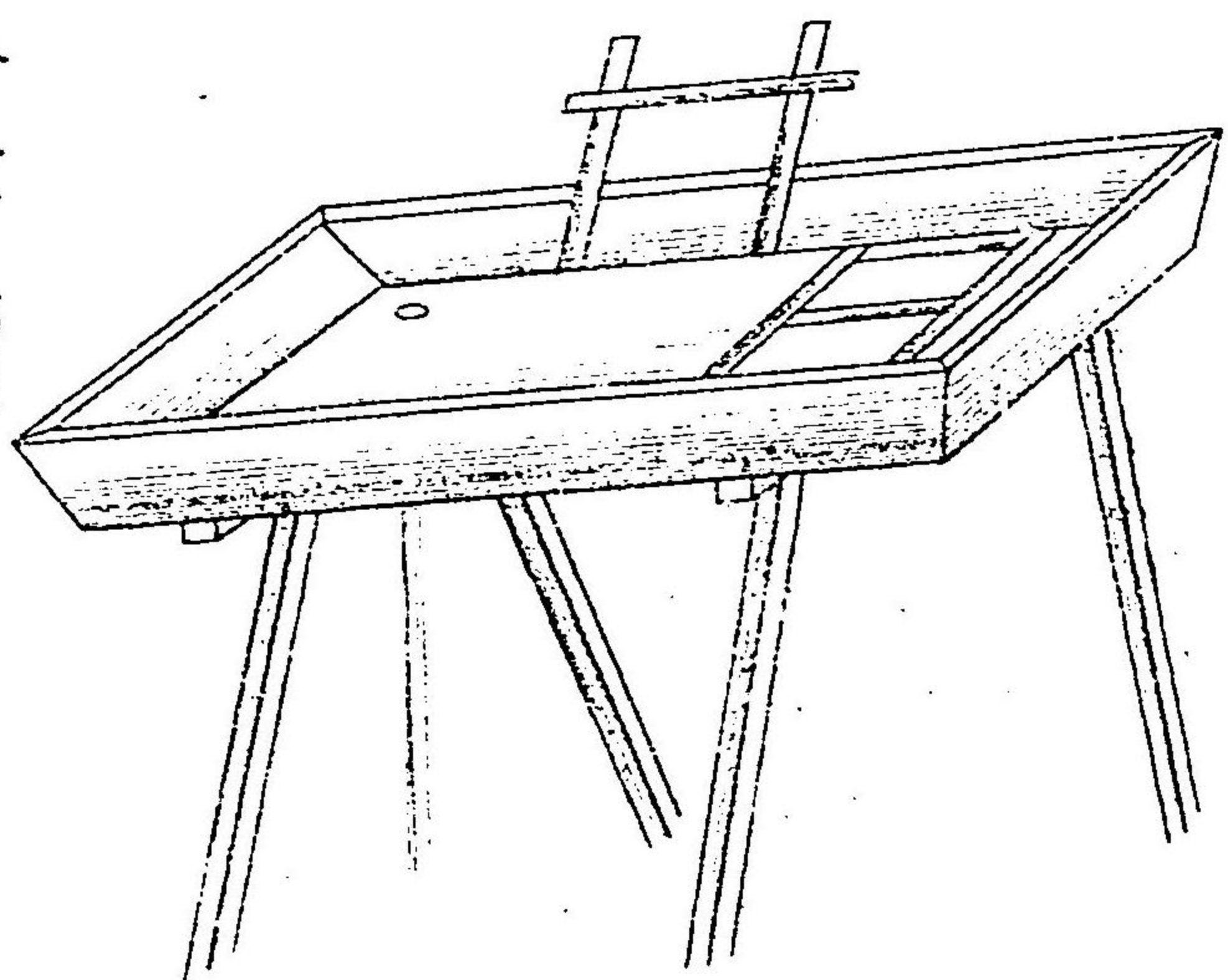
第廿八号三圖



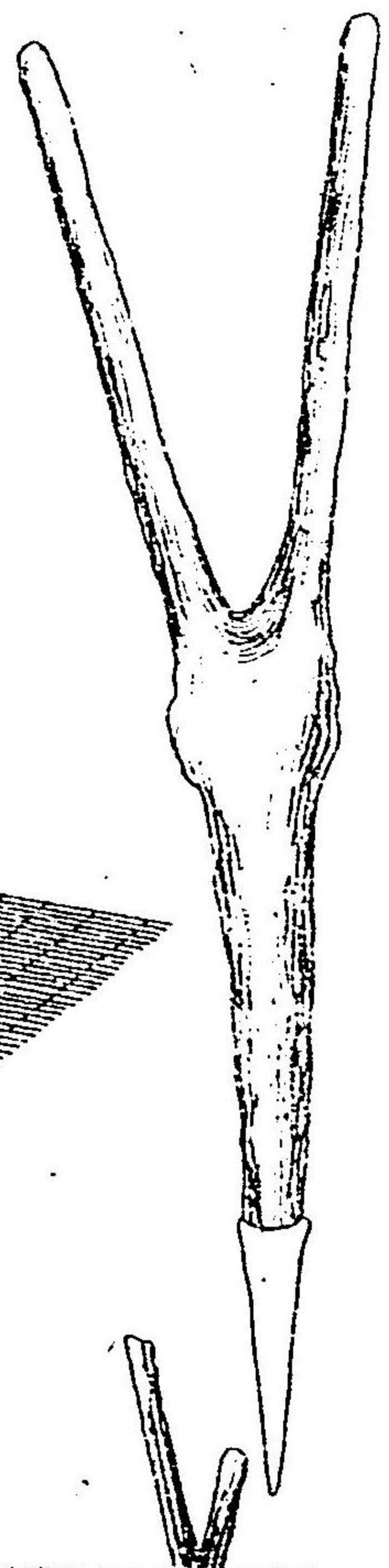
第廿一号一圖



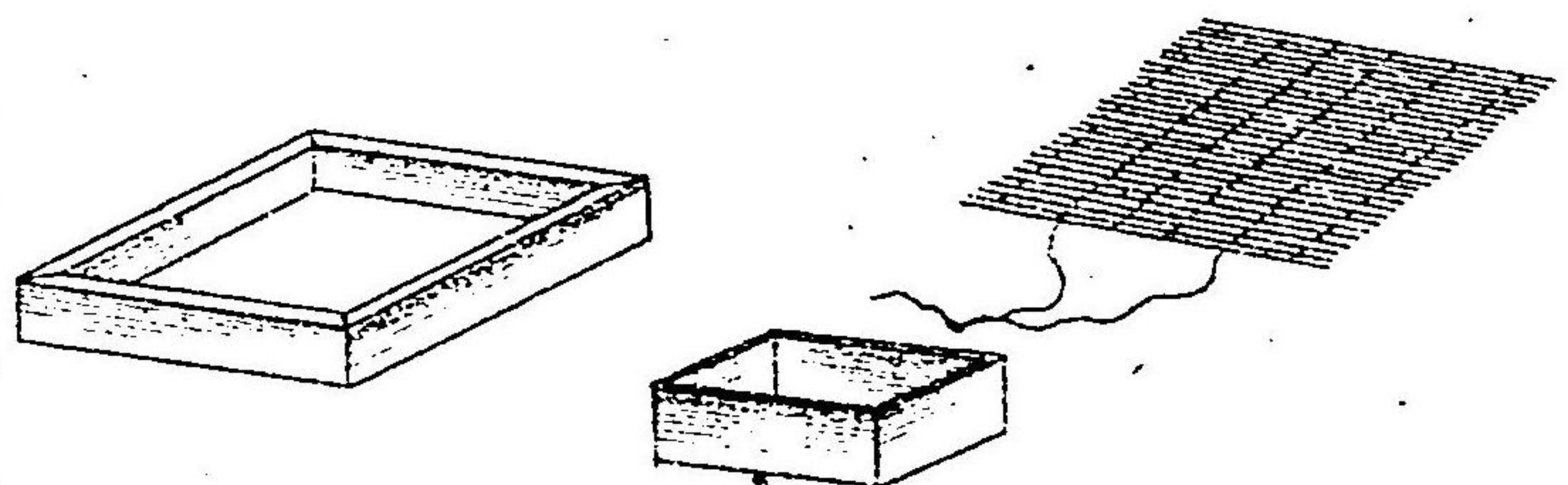
第廿五号三圖



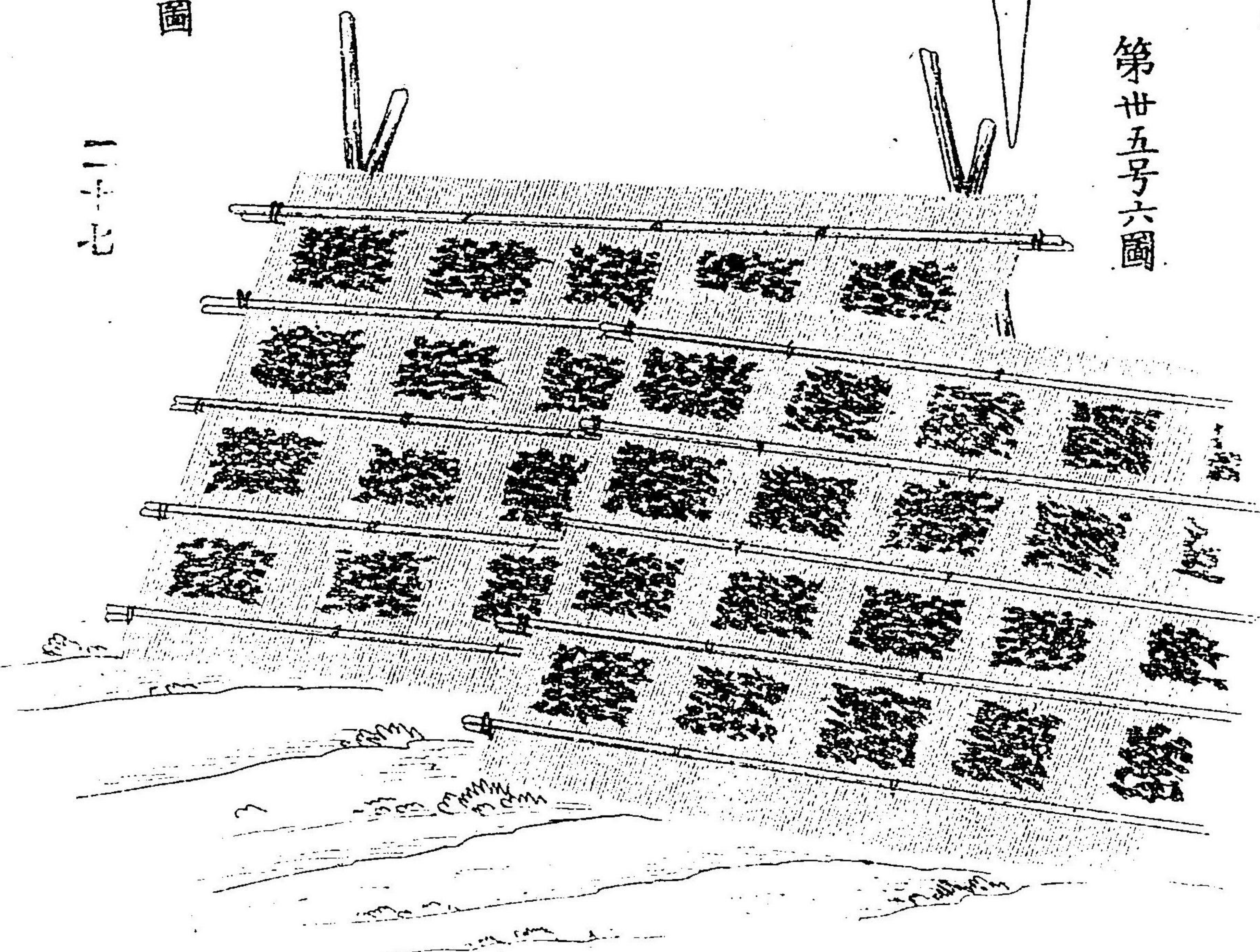
第廿五号四圖



第廿五号五圖

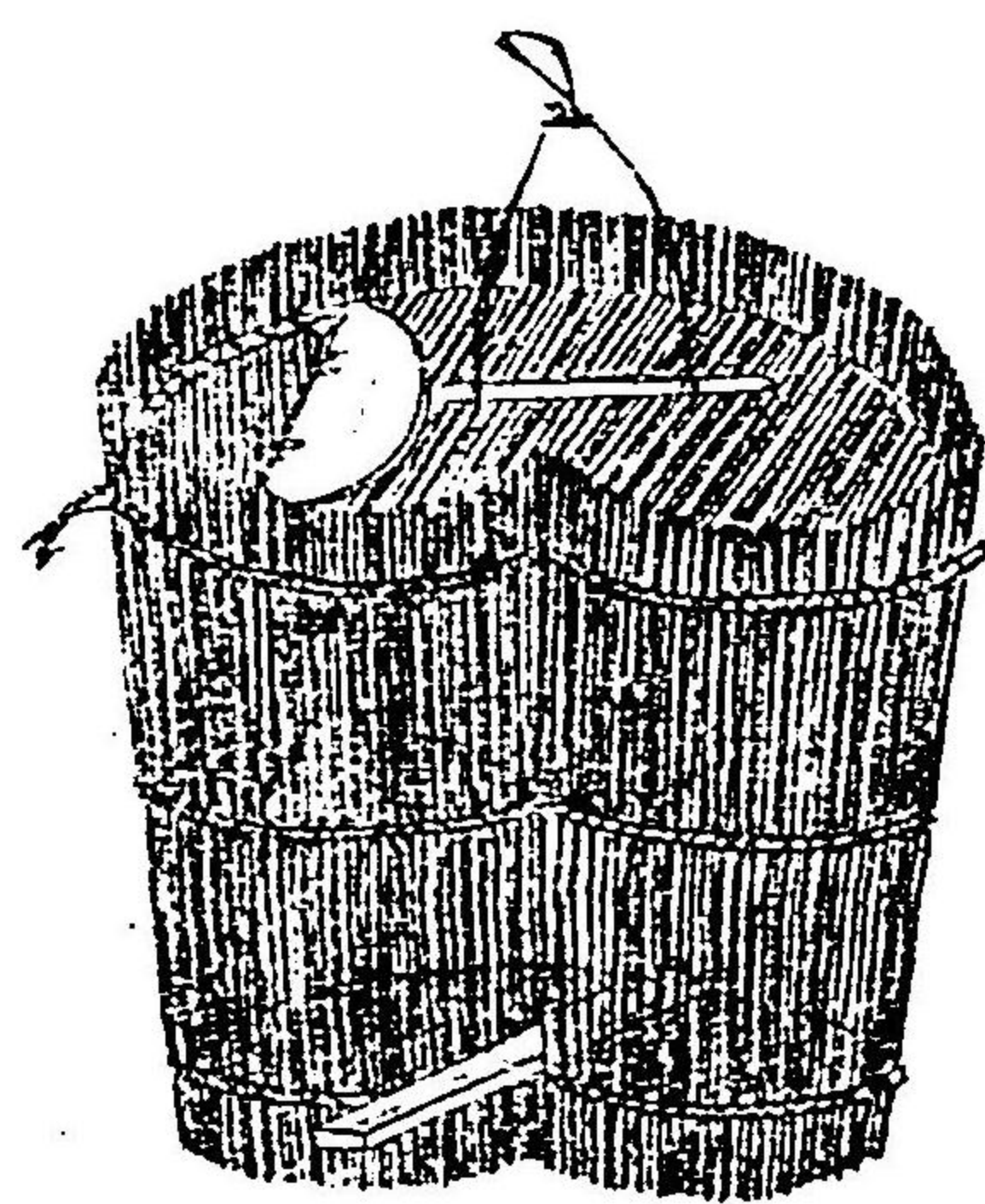


第廿五号六圖

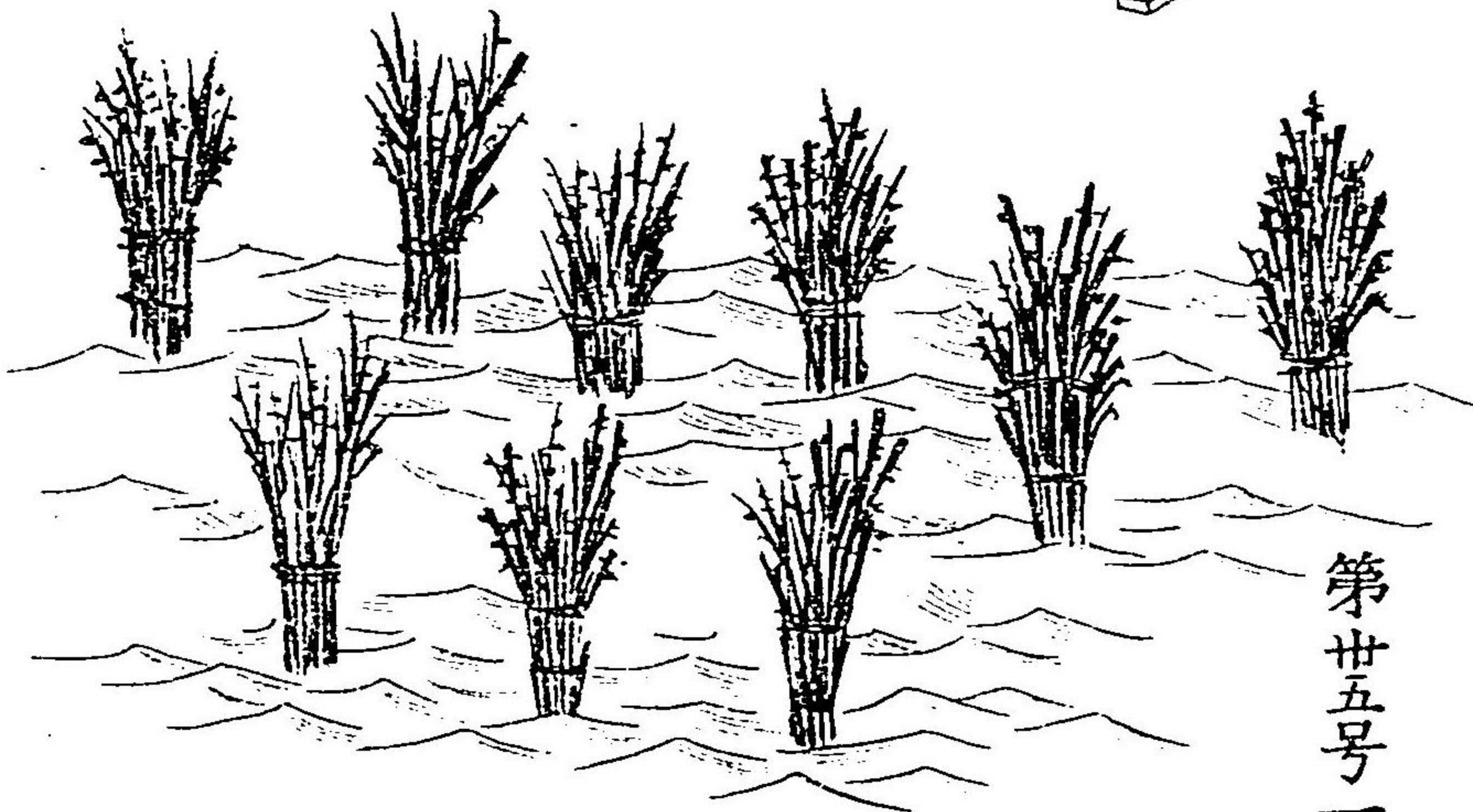


二十七

第廿三号四圖



第廿四号一圖



第廿五号一圖

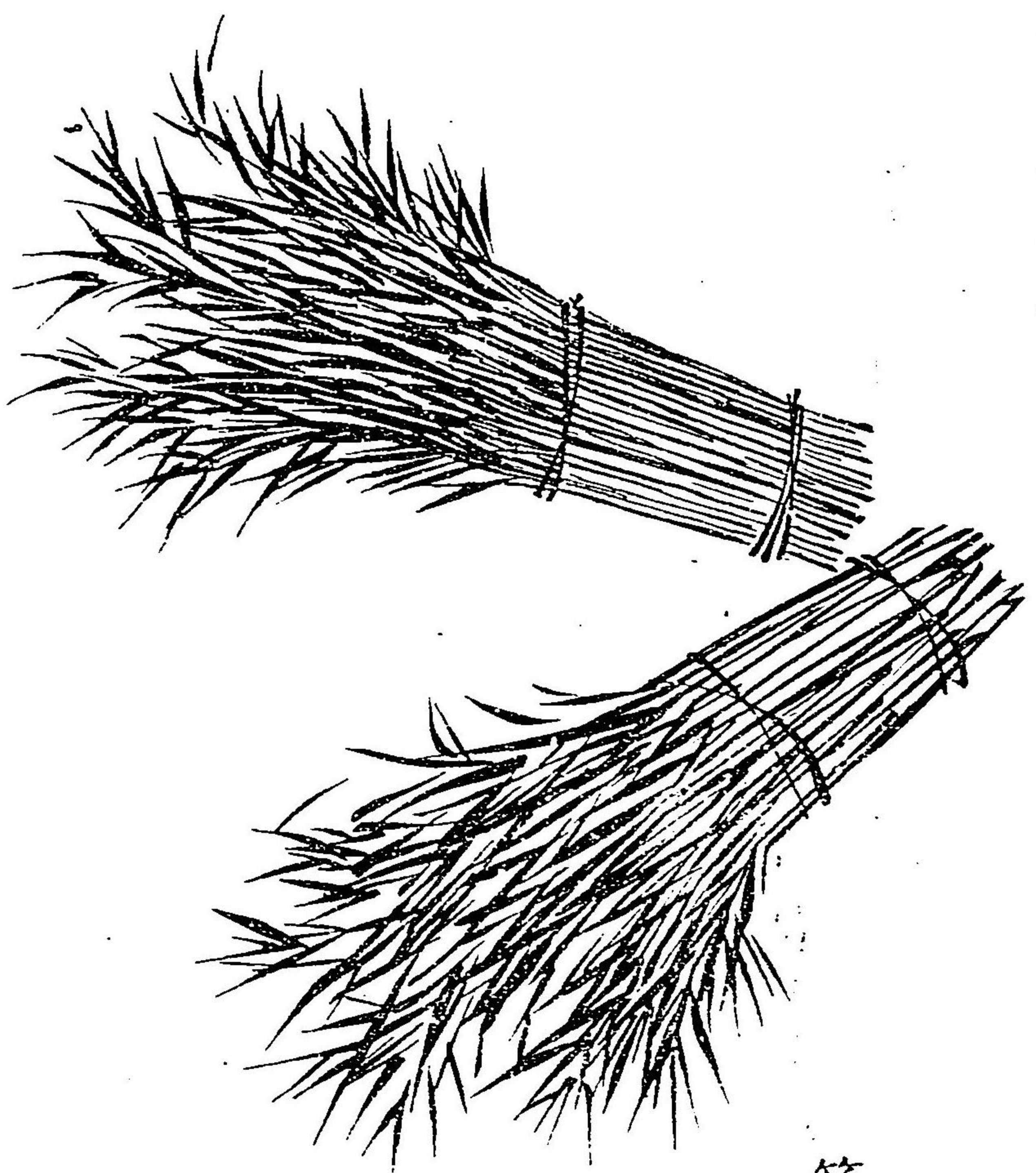
第廿五号二圖



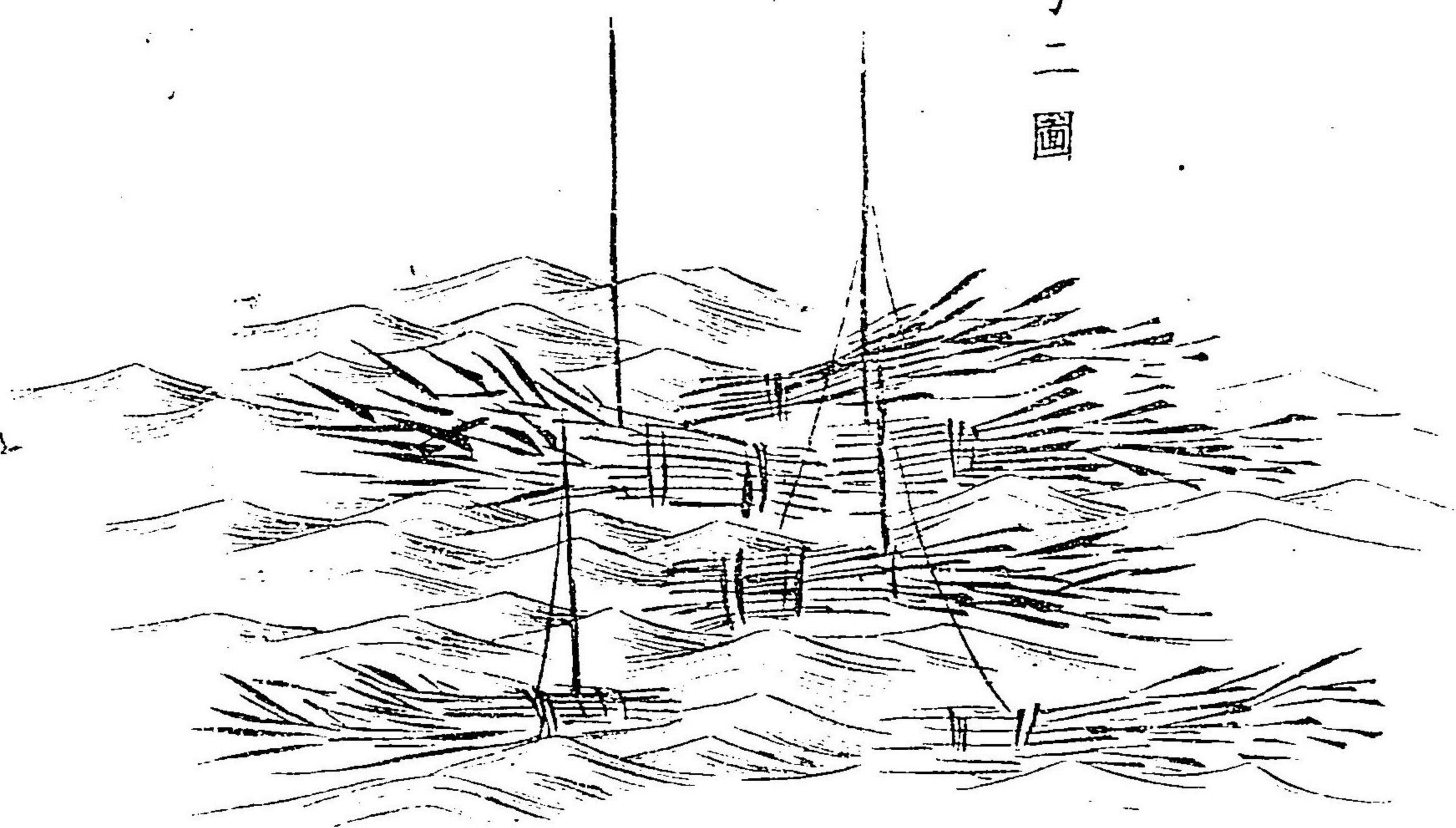
二十六

附水產物略圖

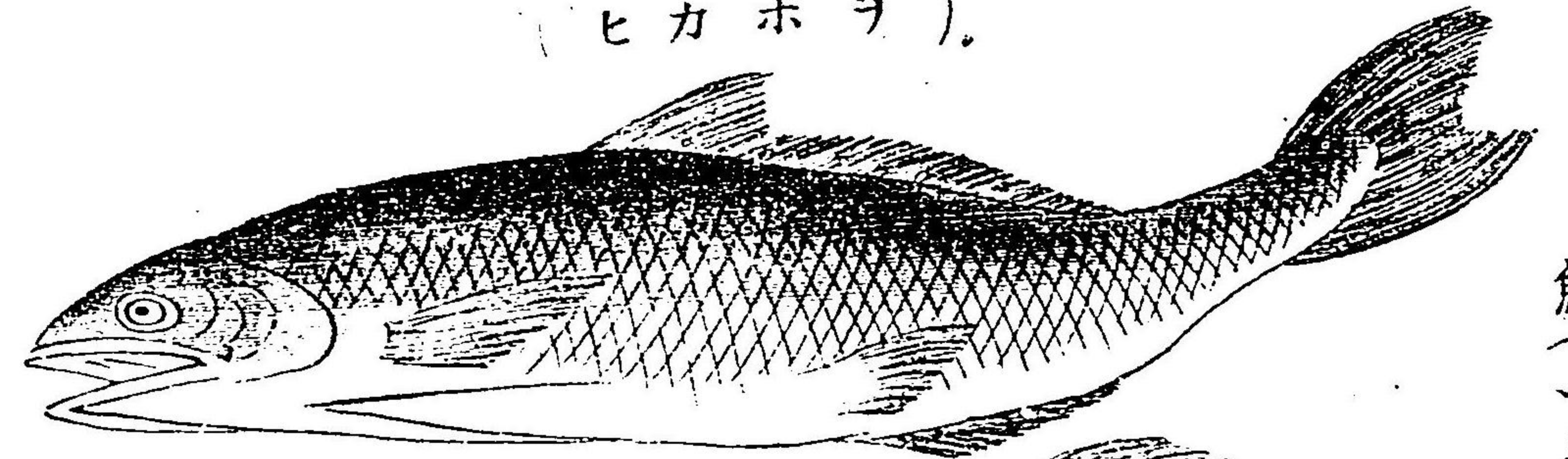
第卅六号一圖



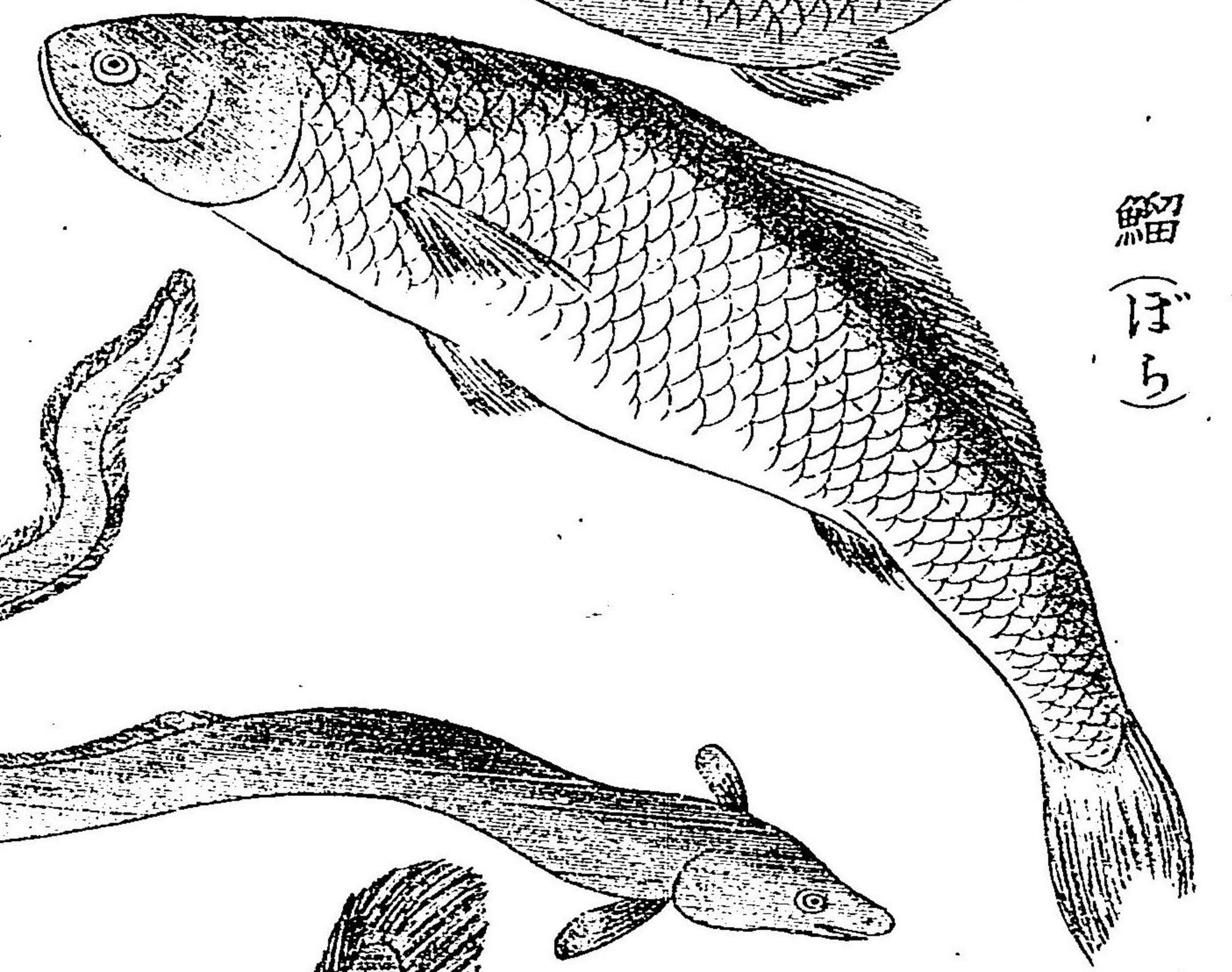
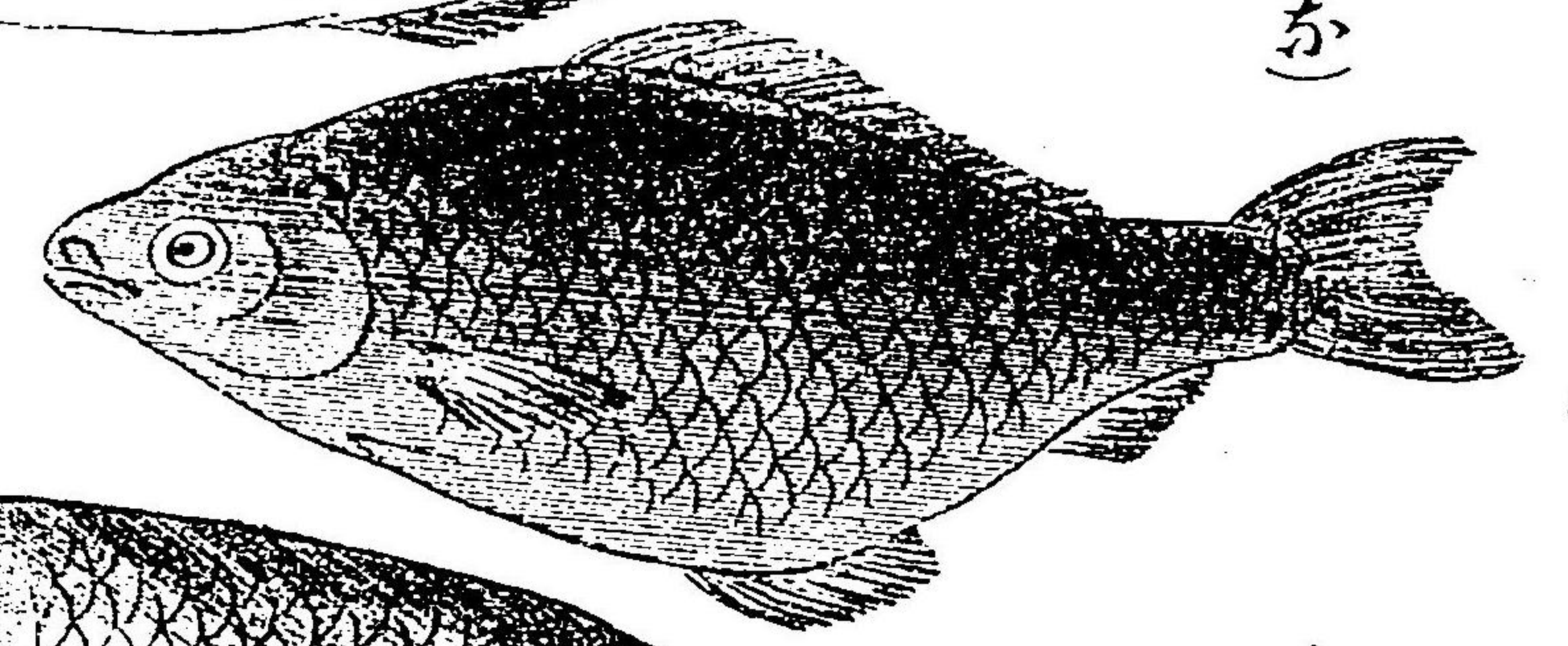
第三十六号二圖



(ヒカホヲ)

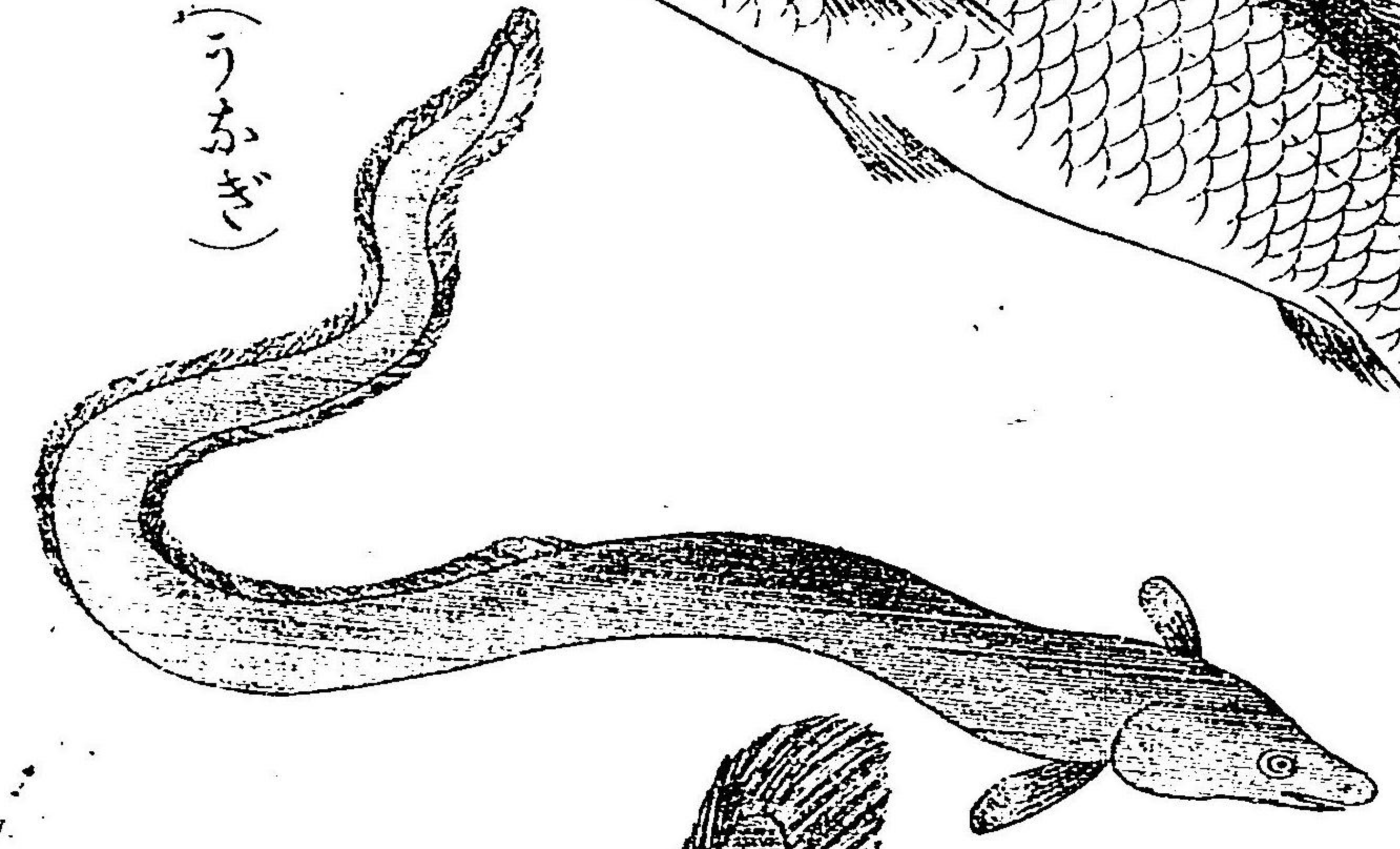


鮒(ふか)

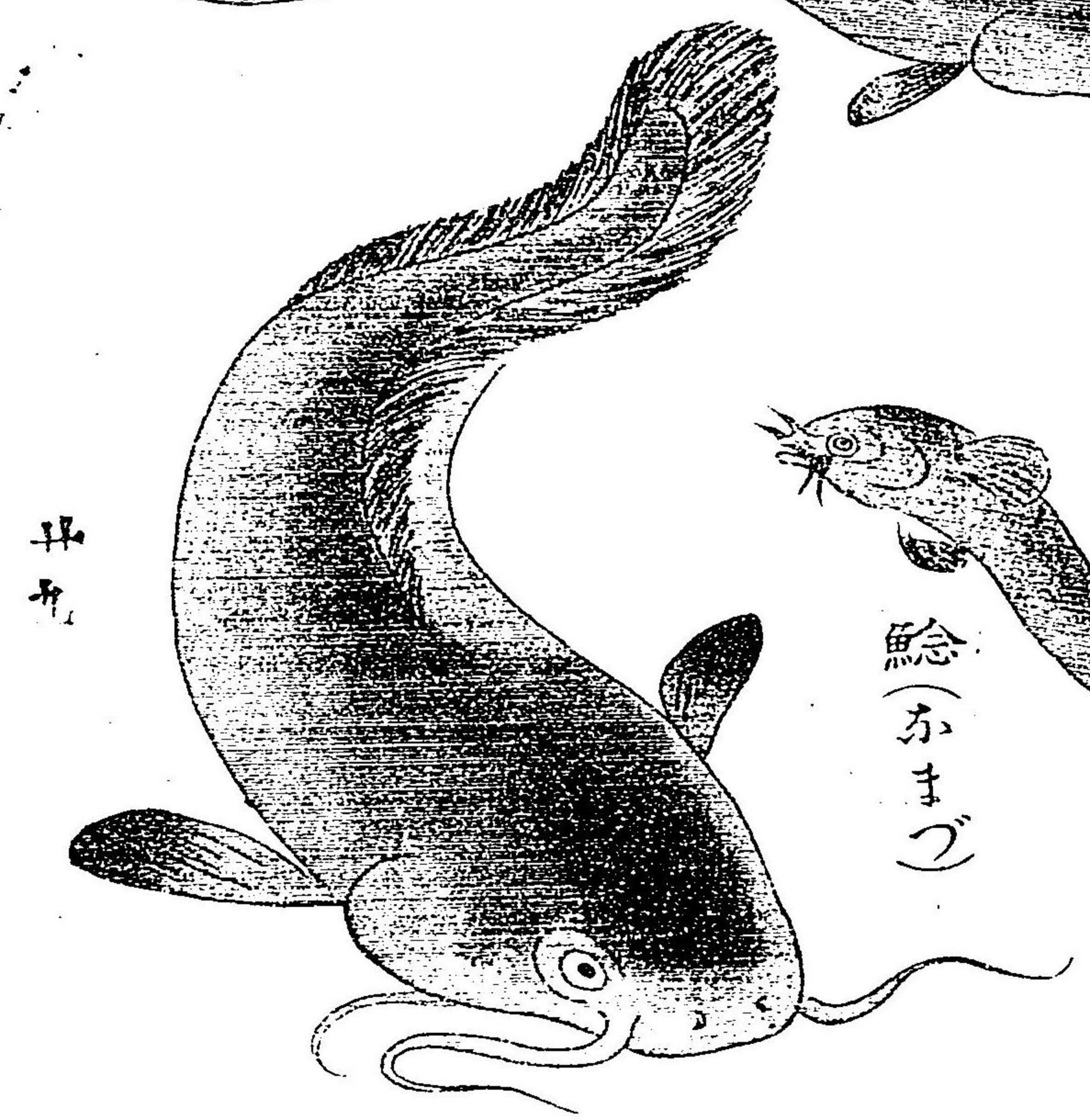


鮠(ぼら)

鰻(うなぎ)

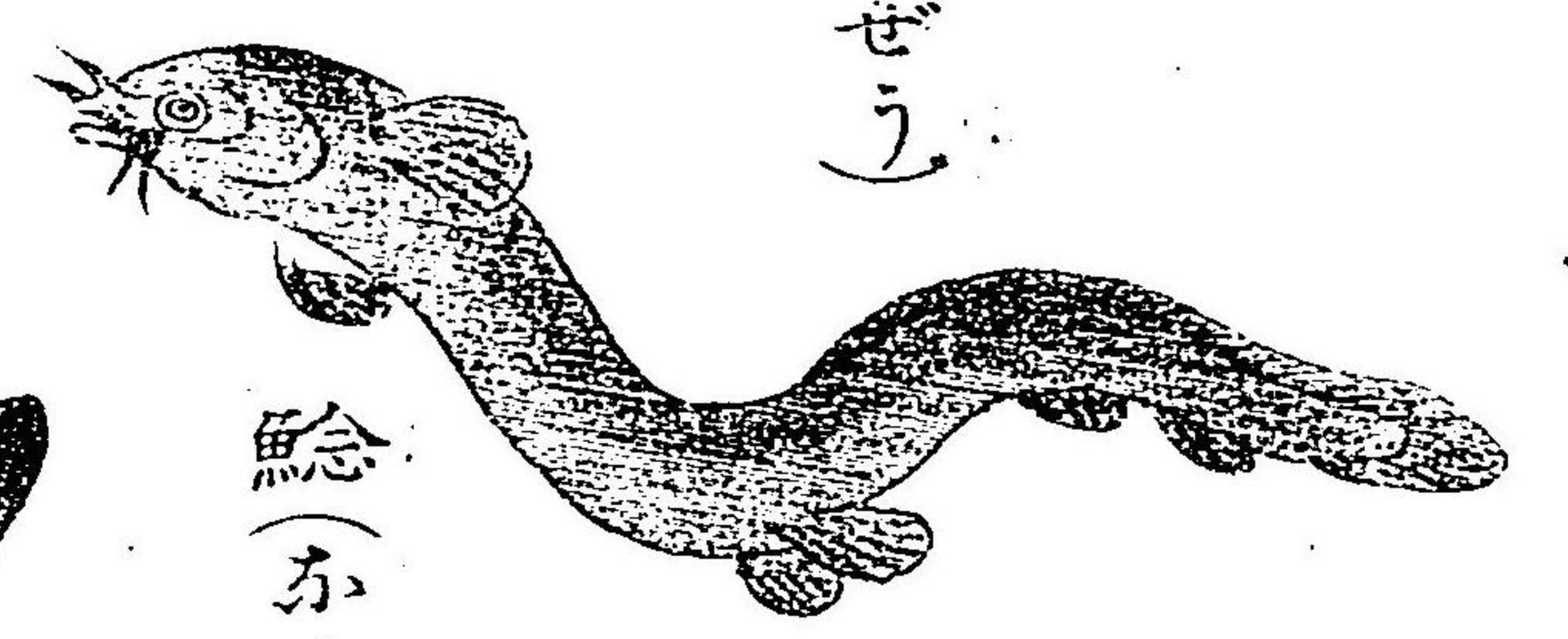


鮠(どせう)

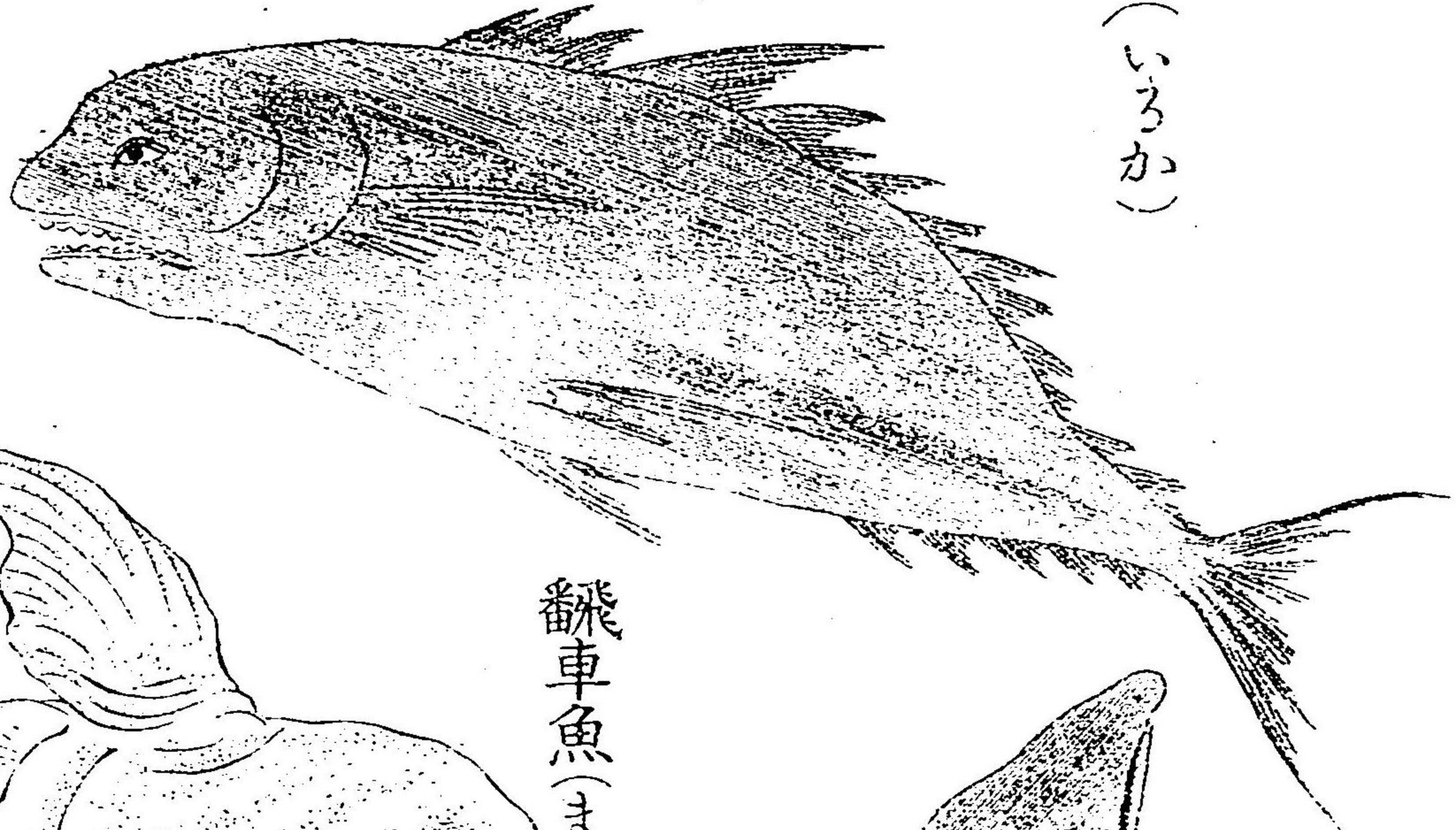


甲

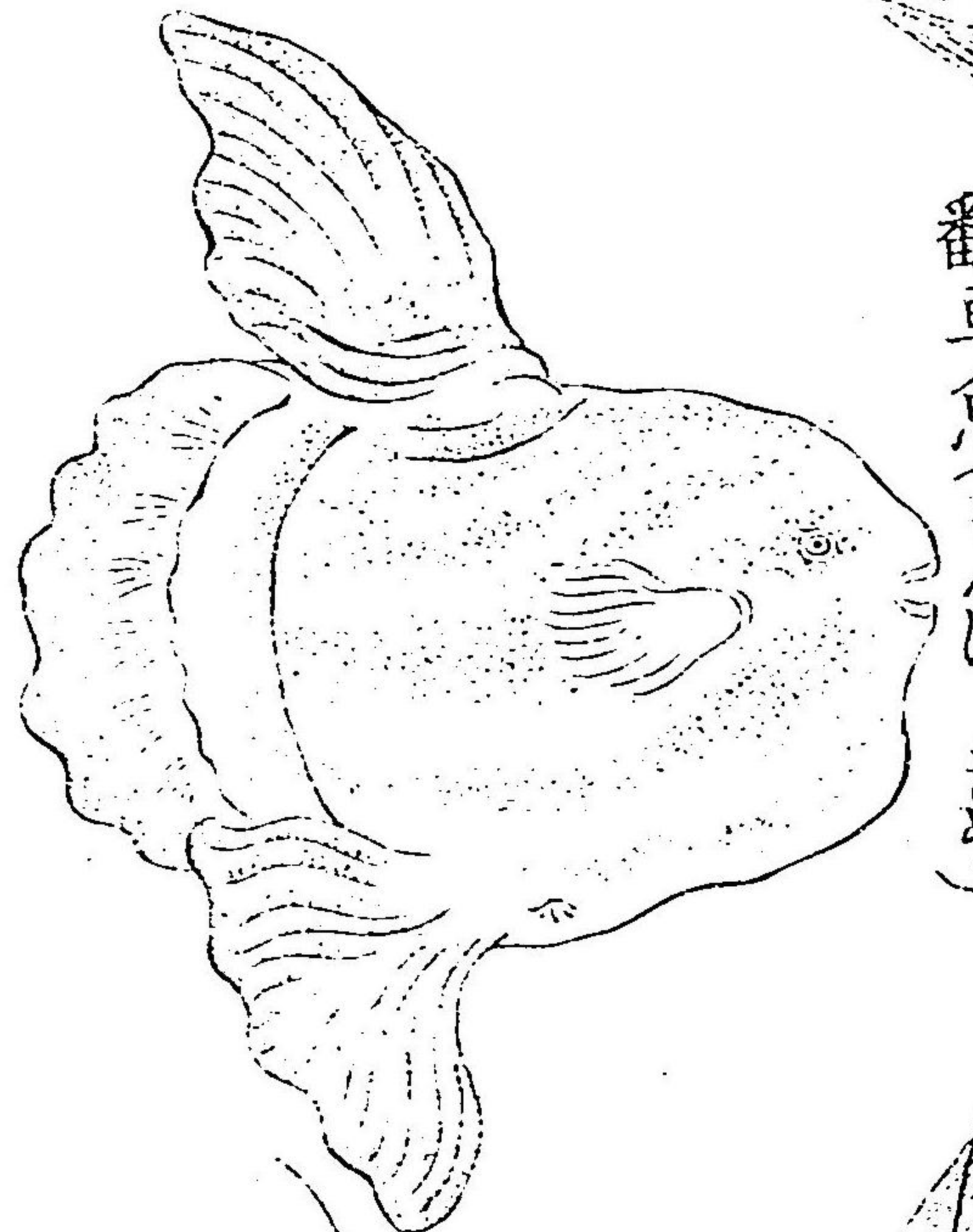
鯰(かまづ)



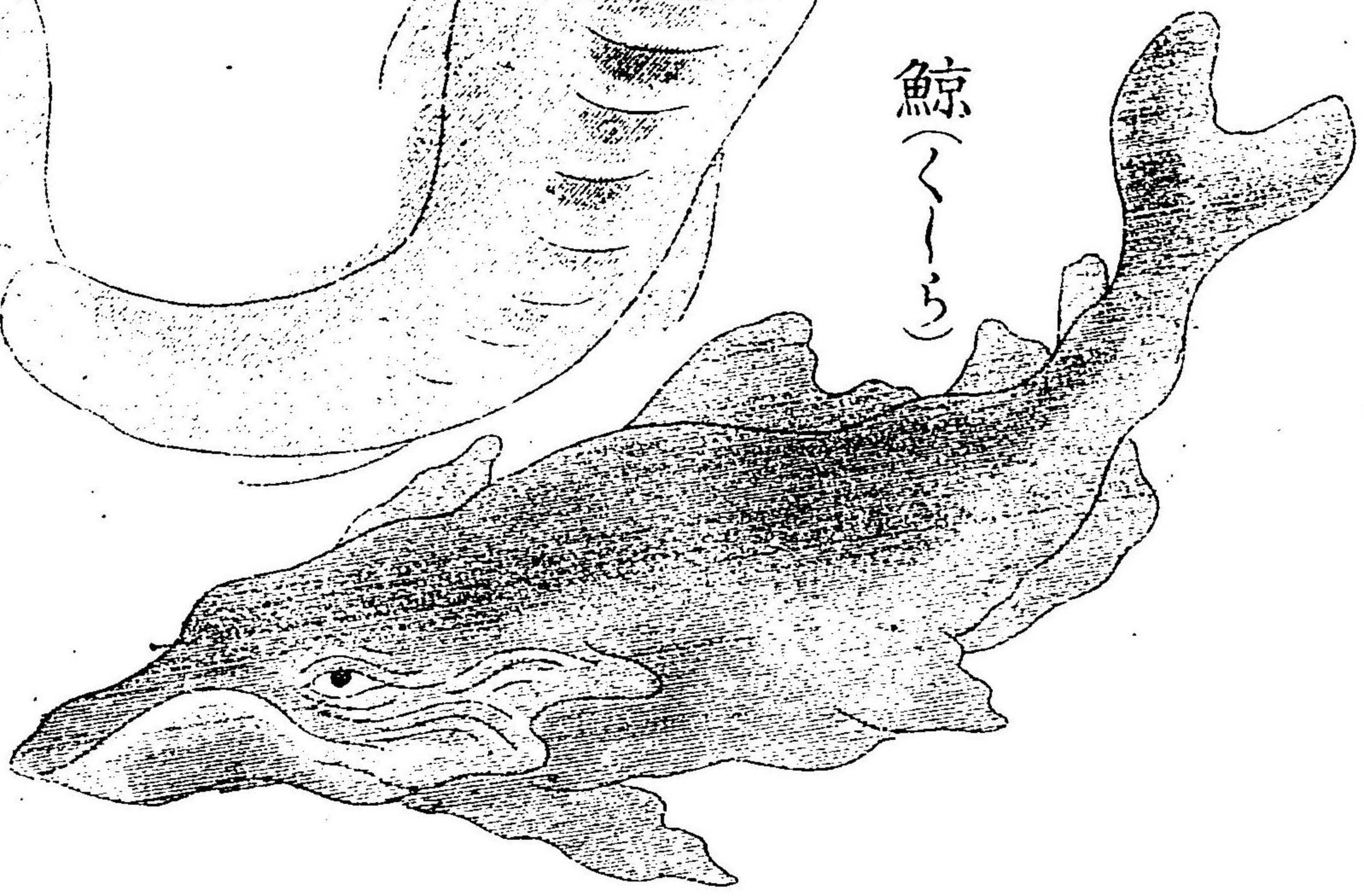
鮨 (いろか)



翻車魚 (まぼろしめ)

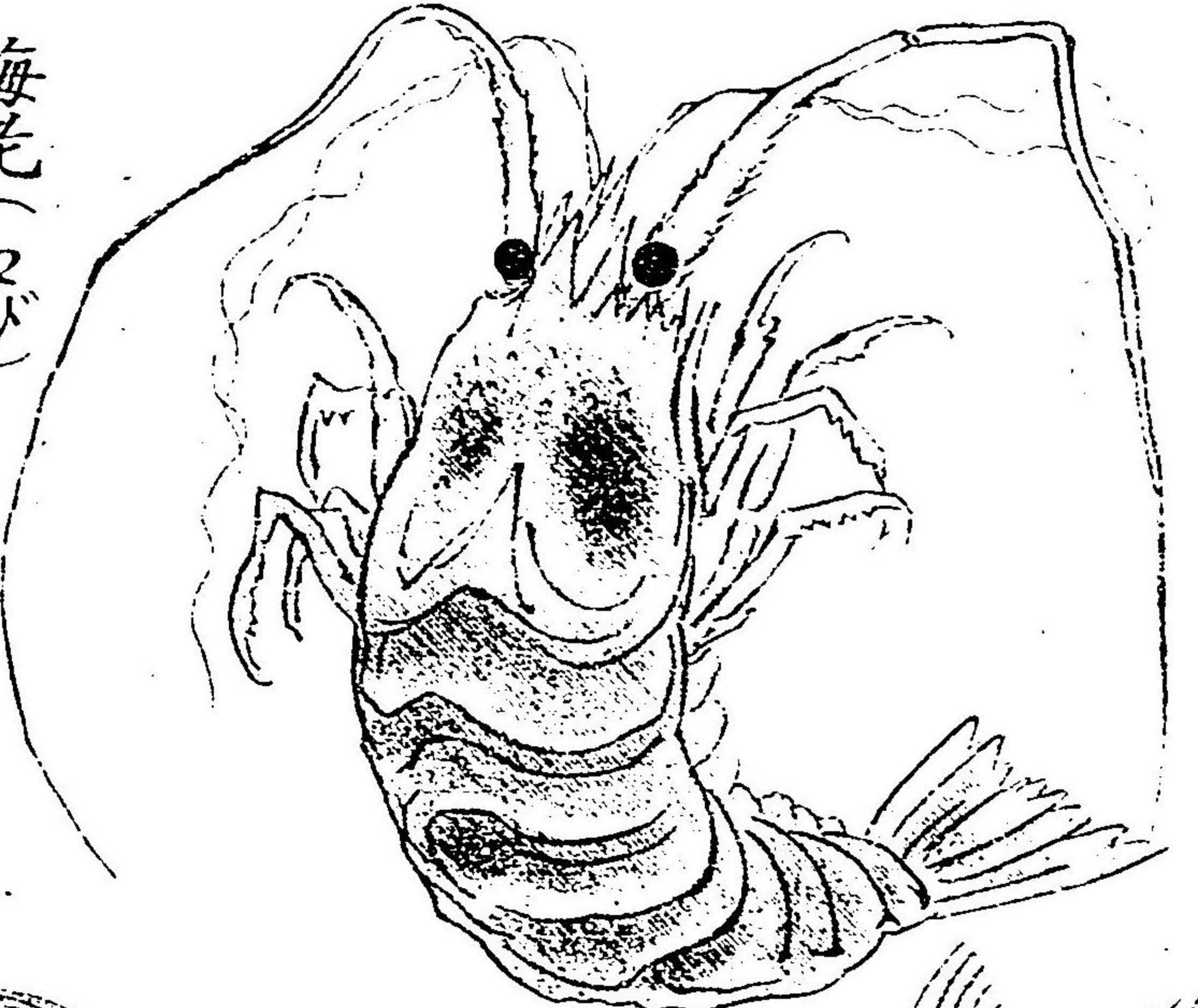


鯨 (くじら)

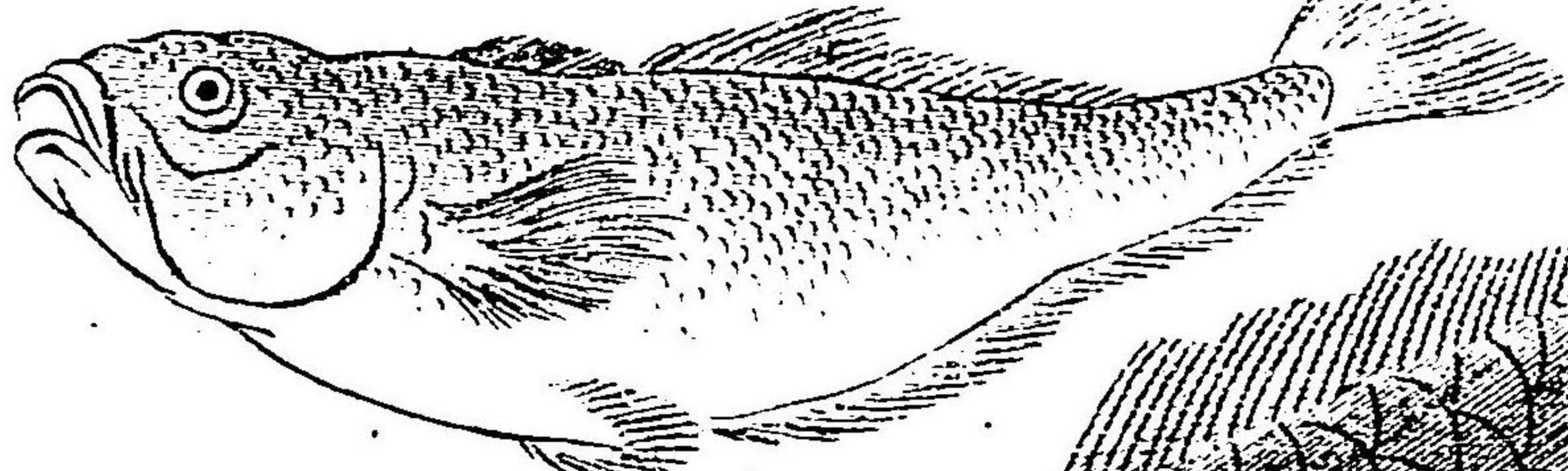
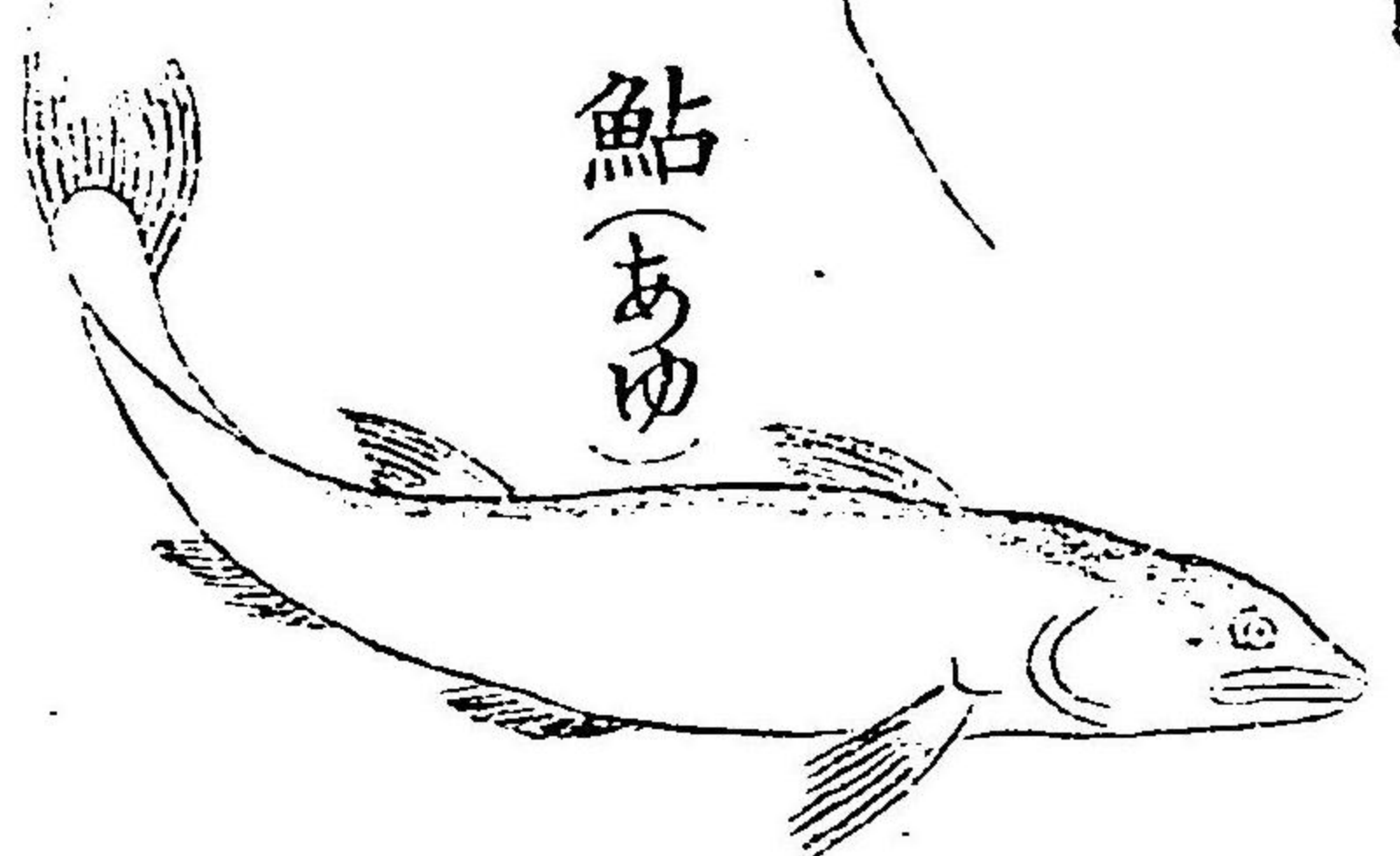


卅壹

海老 (えび)



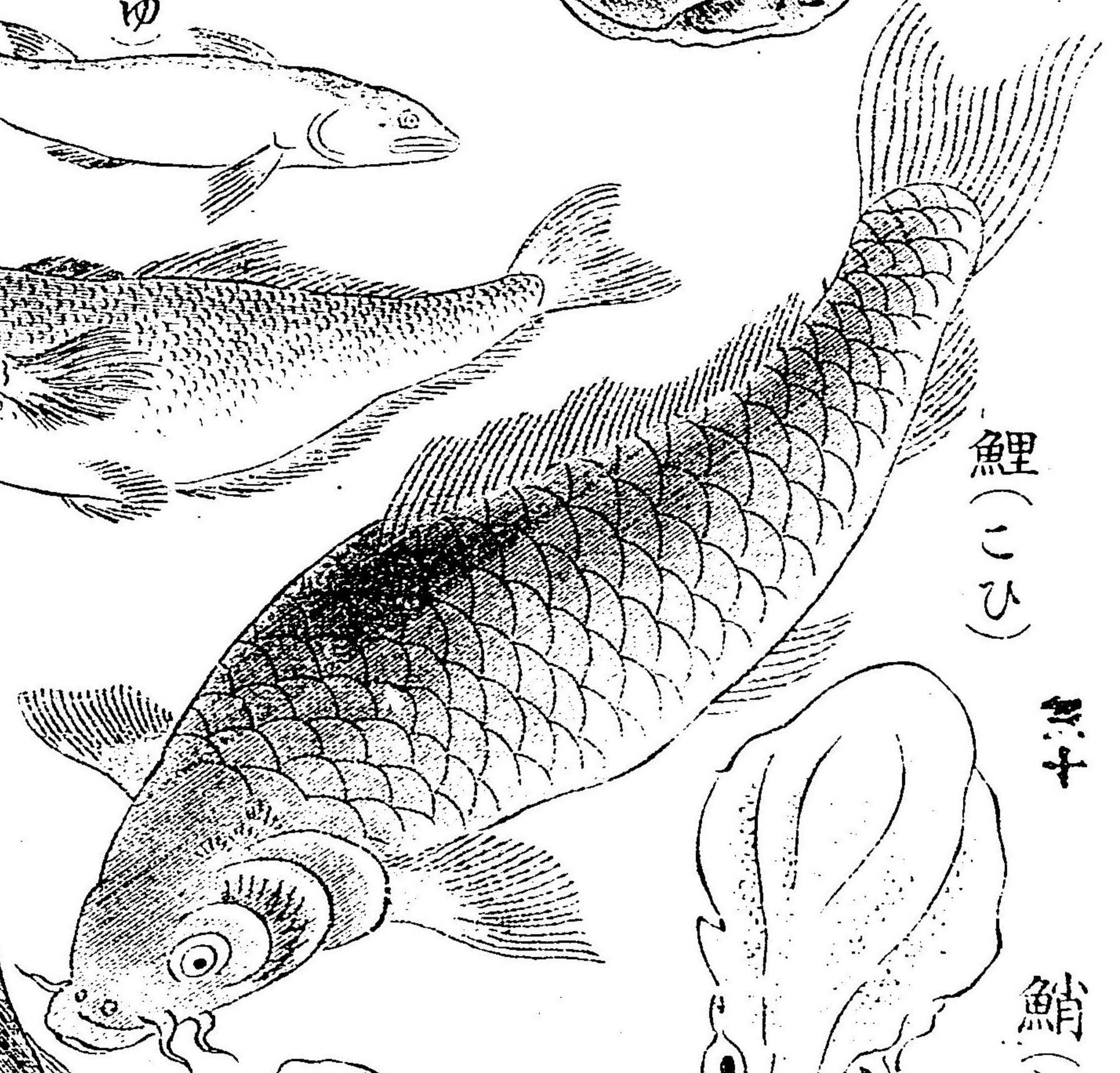
鮎 (あゆ)



方 (どんこ)

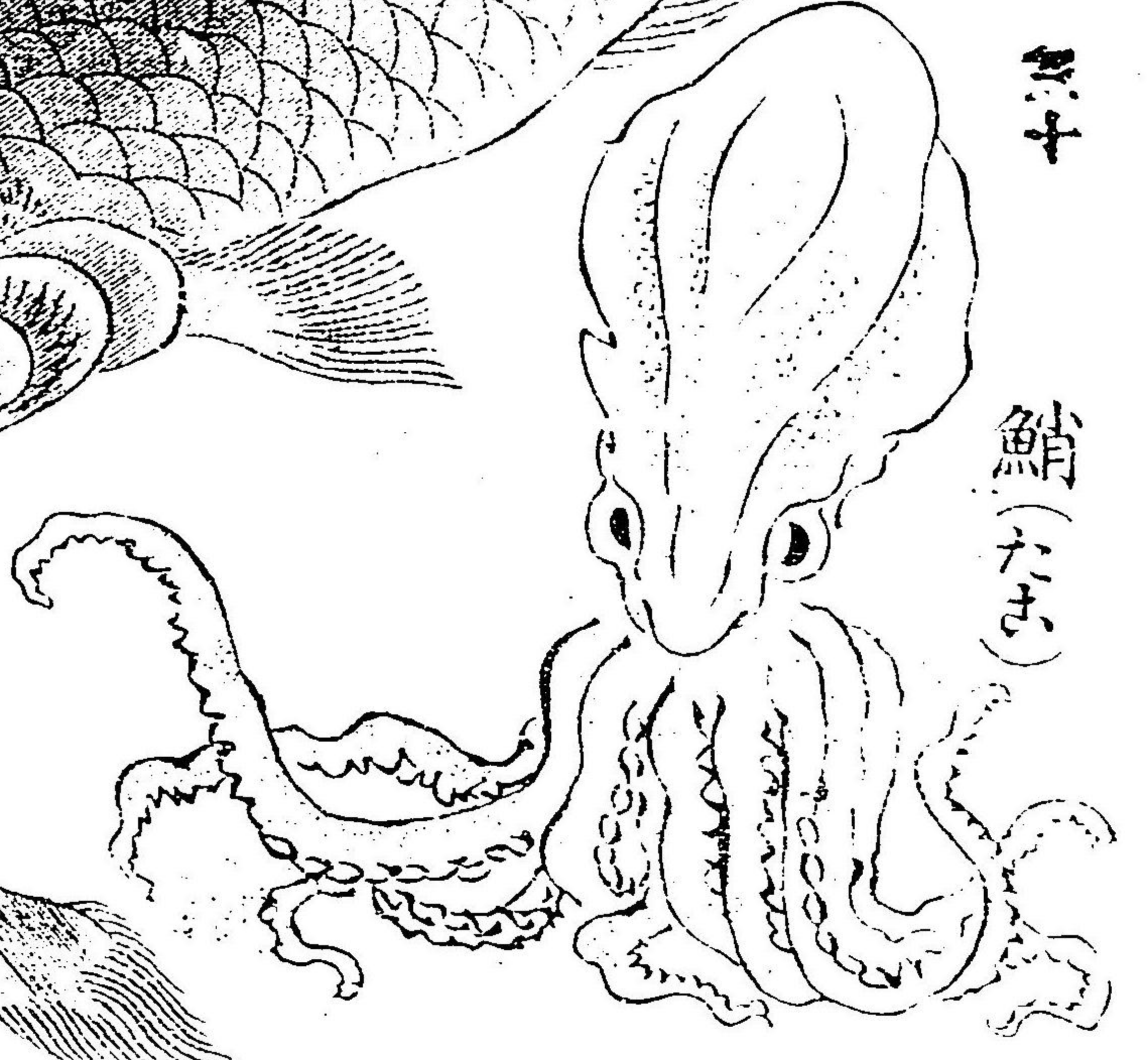


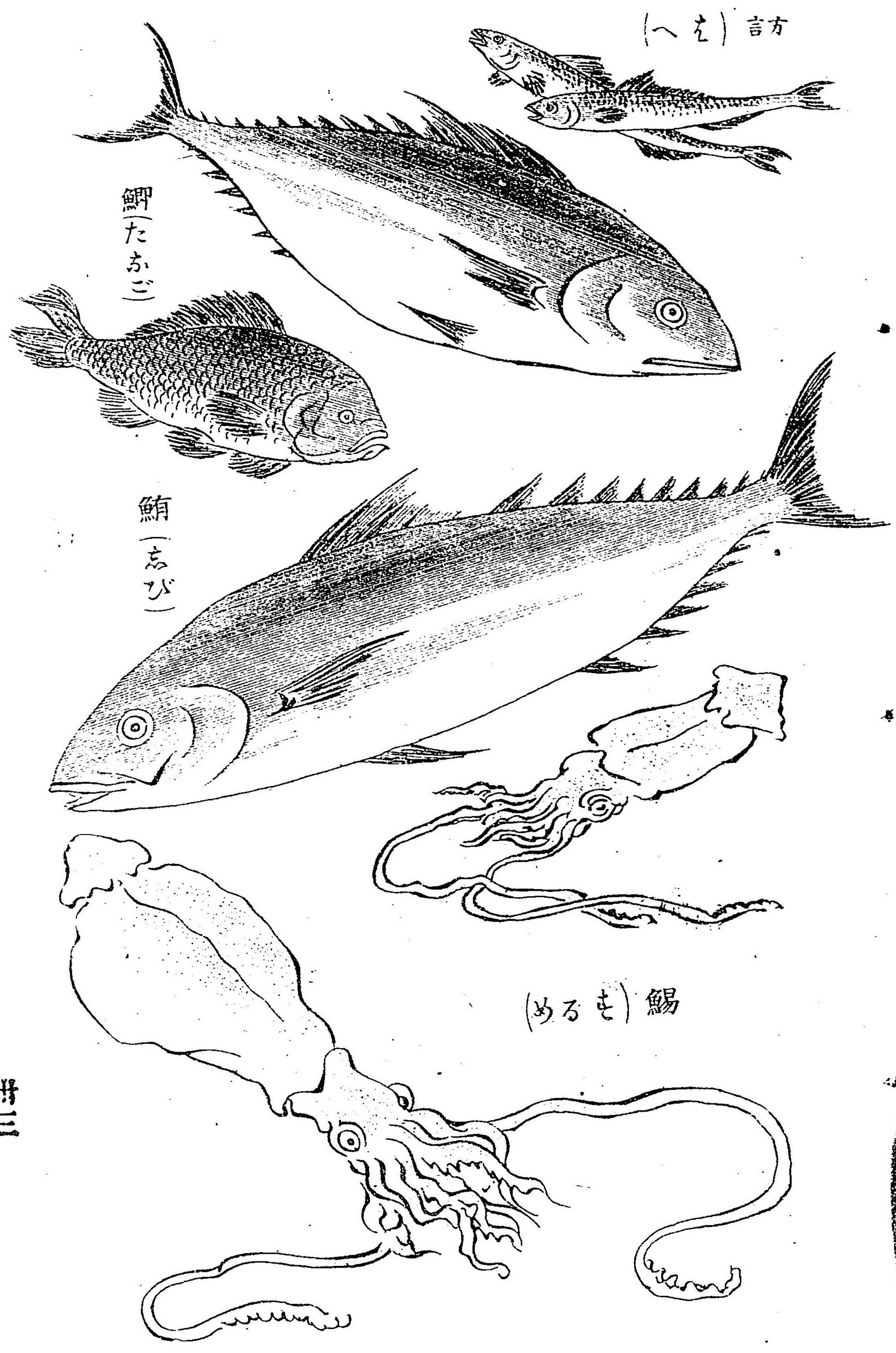
鯉 (こひ)



三十一

鮎 (たま)



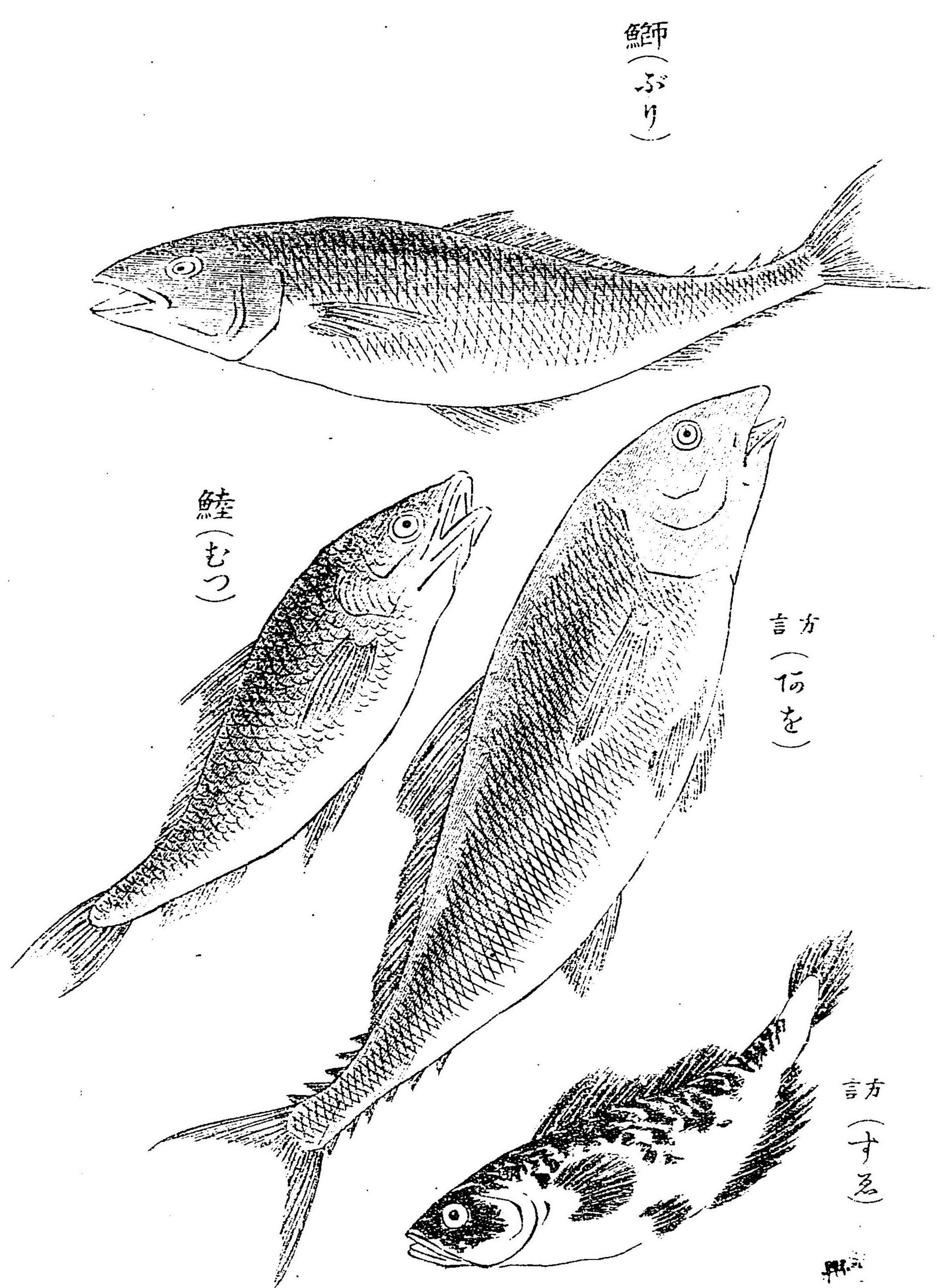


方言(へを)

鯛(たかご)

鯛(たかご)

鰐(めると)



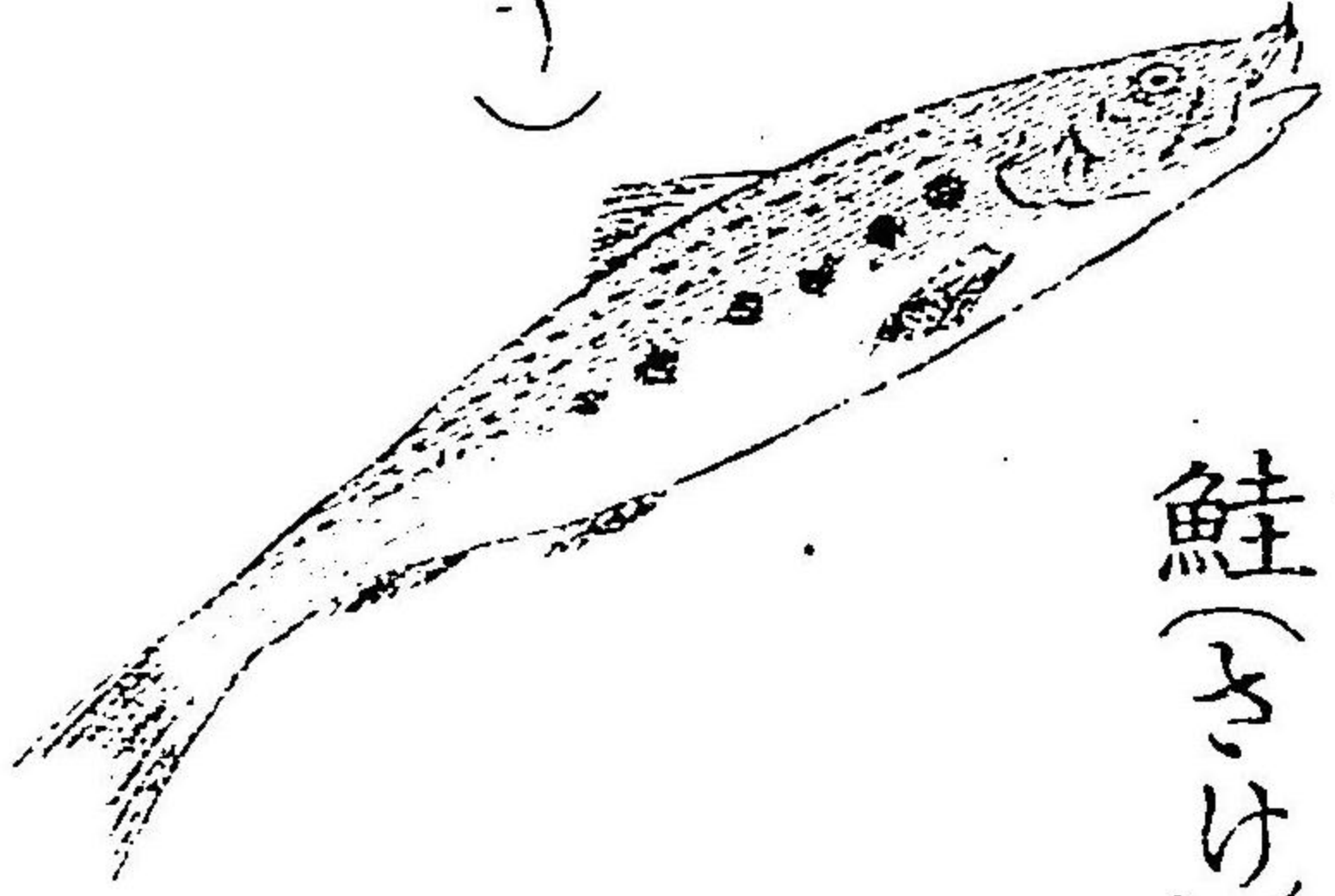
鯛(ぶり)

鮭(むつ)

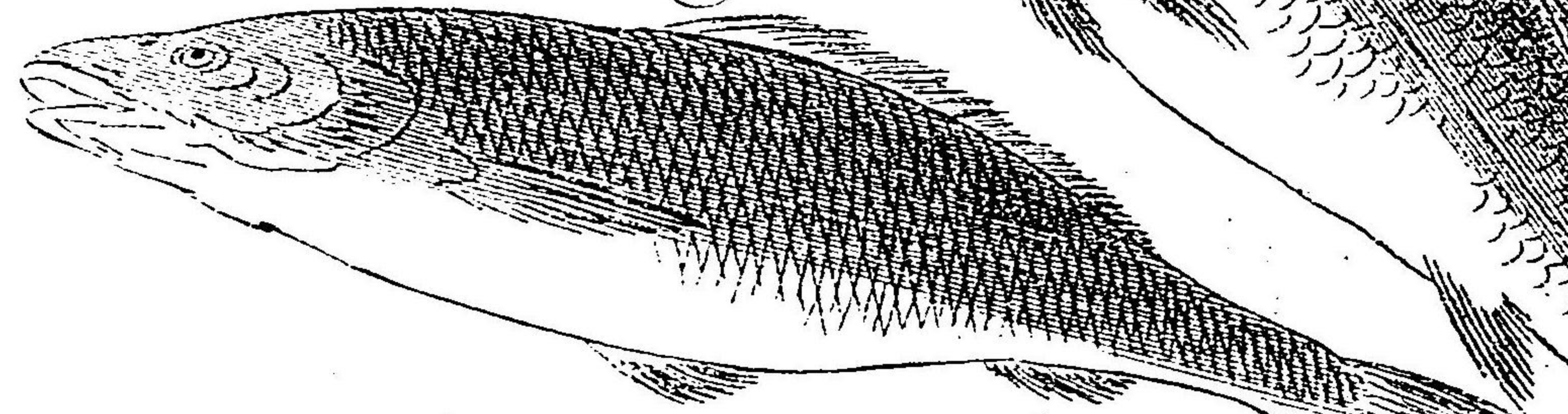
方言(何を)

方言(すゑ)

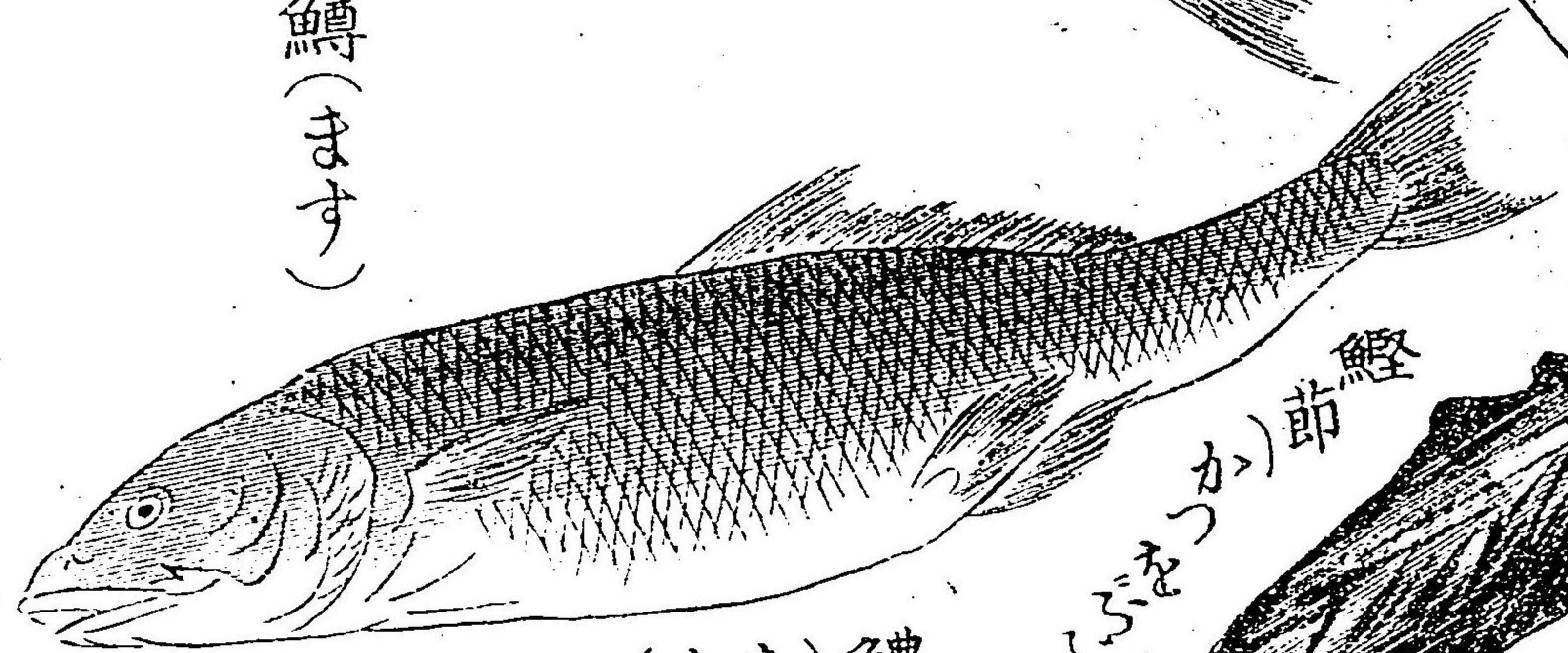
鰯(いわし)



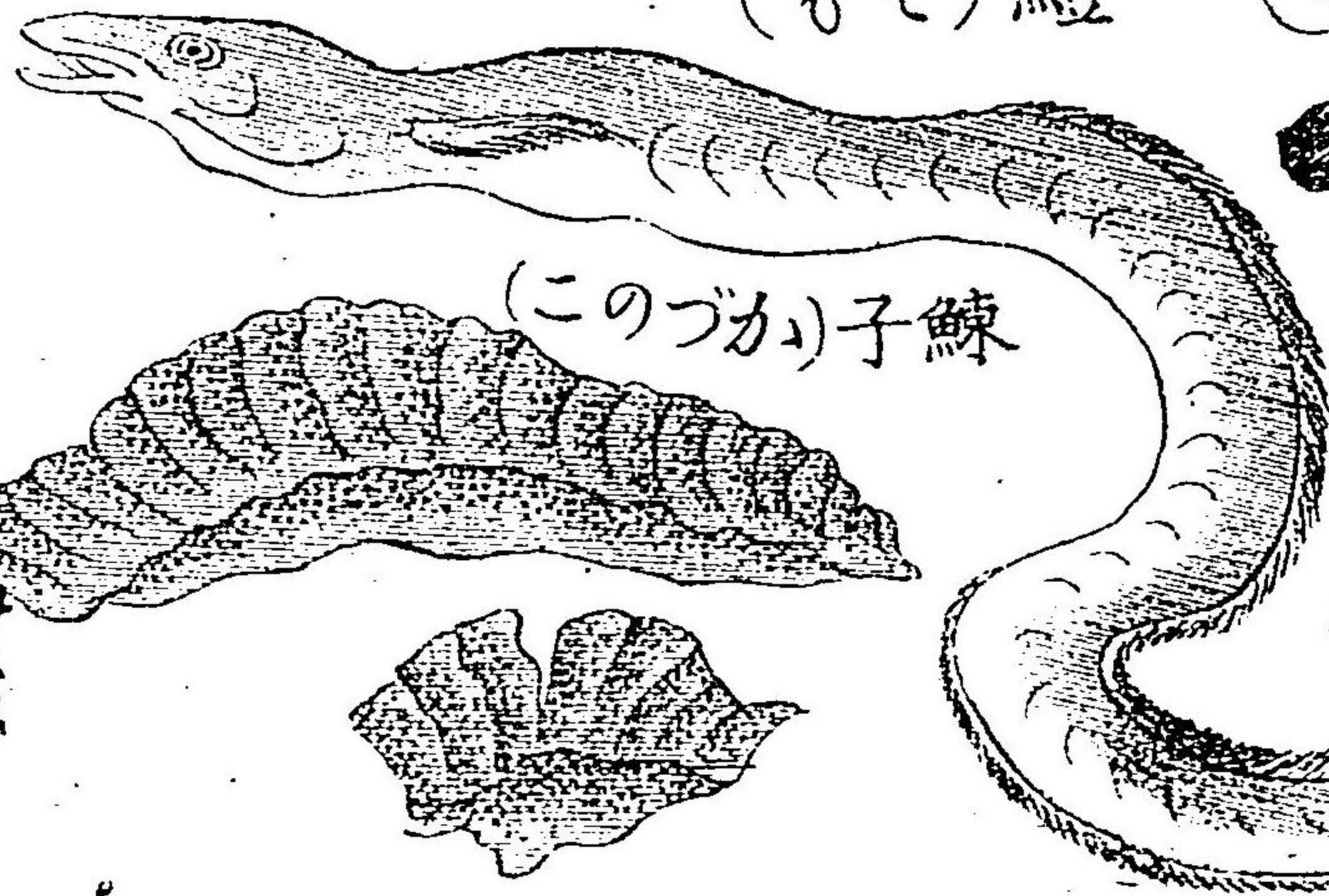
鮭(さけ)



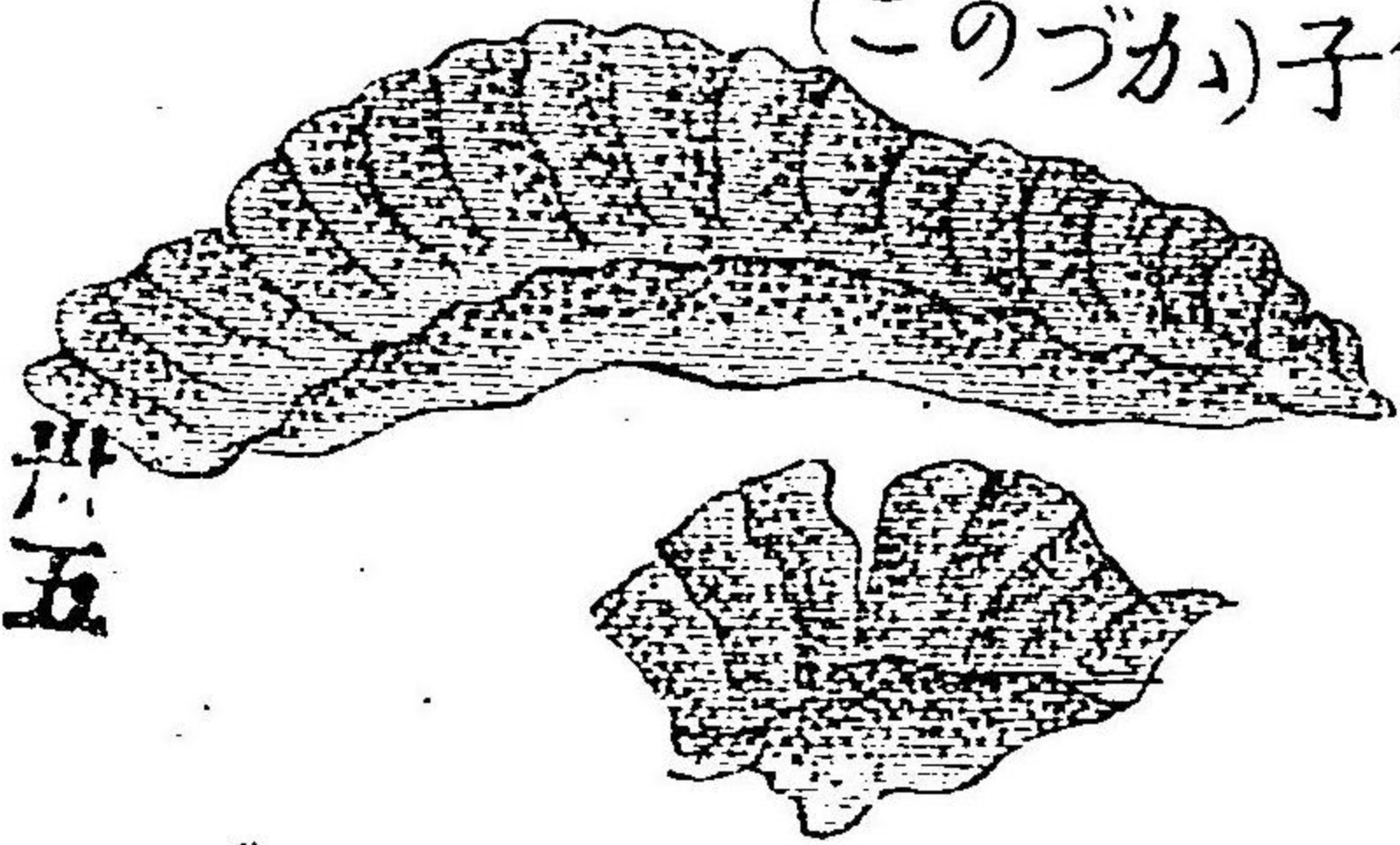
鱒(ます)



(もえ)鱧

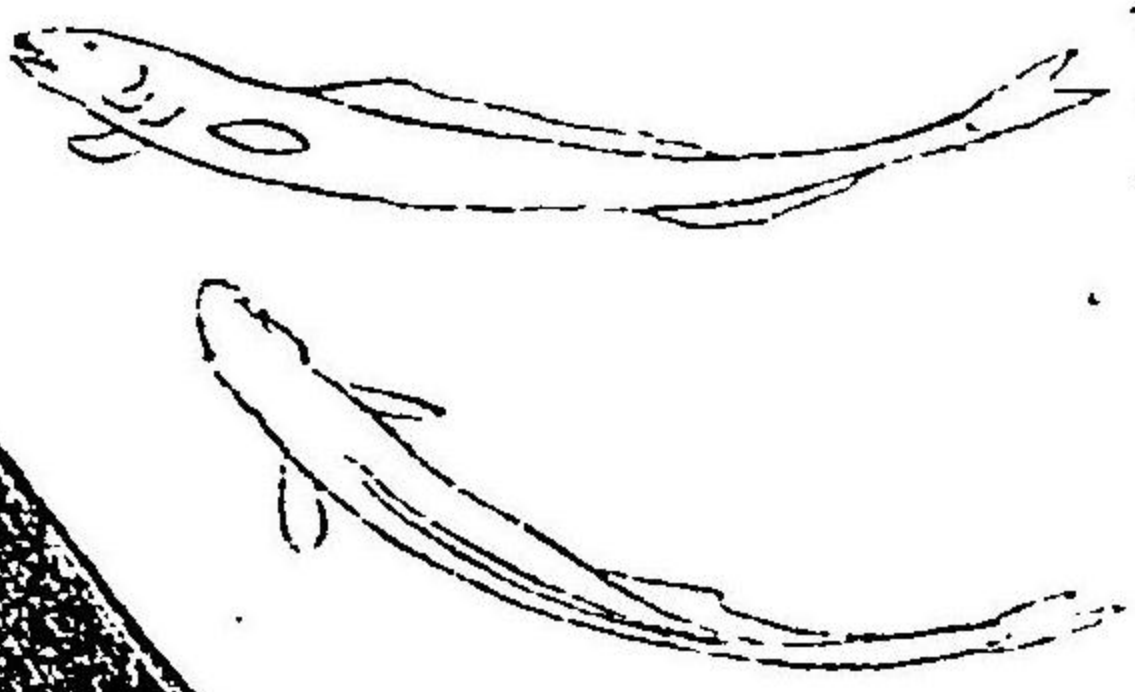


(このづか)子鯰



廿五

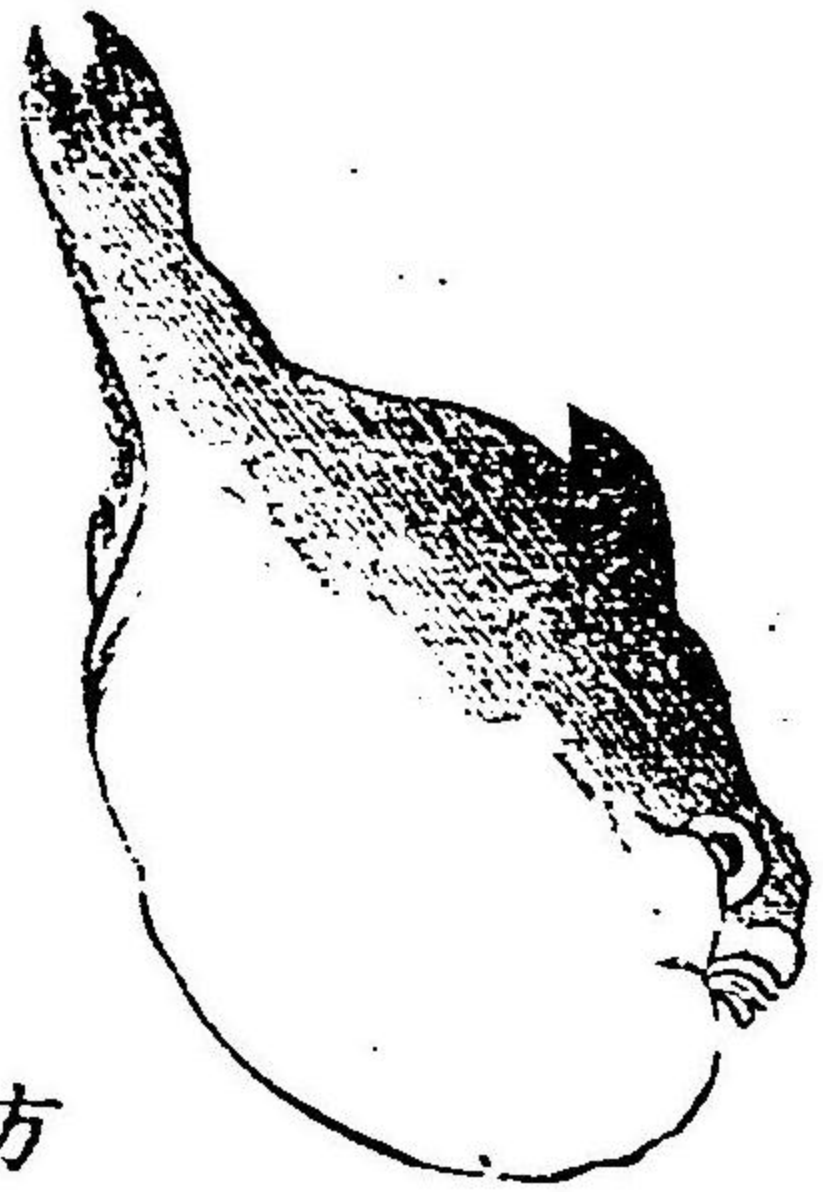
白魚(しろうを)



(ふまつか)節鰓



鮪節(まびぶ)

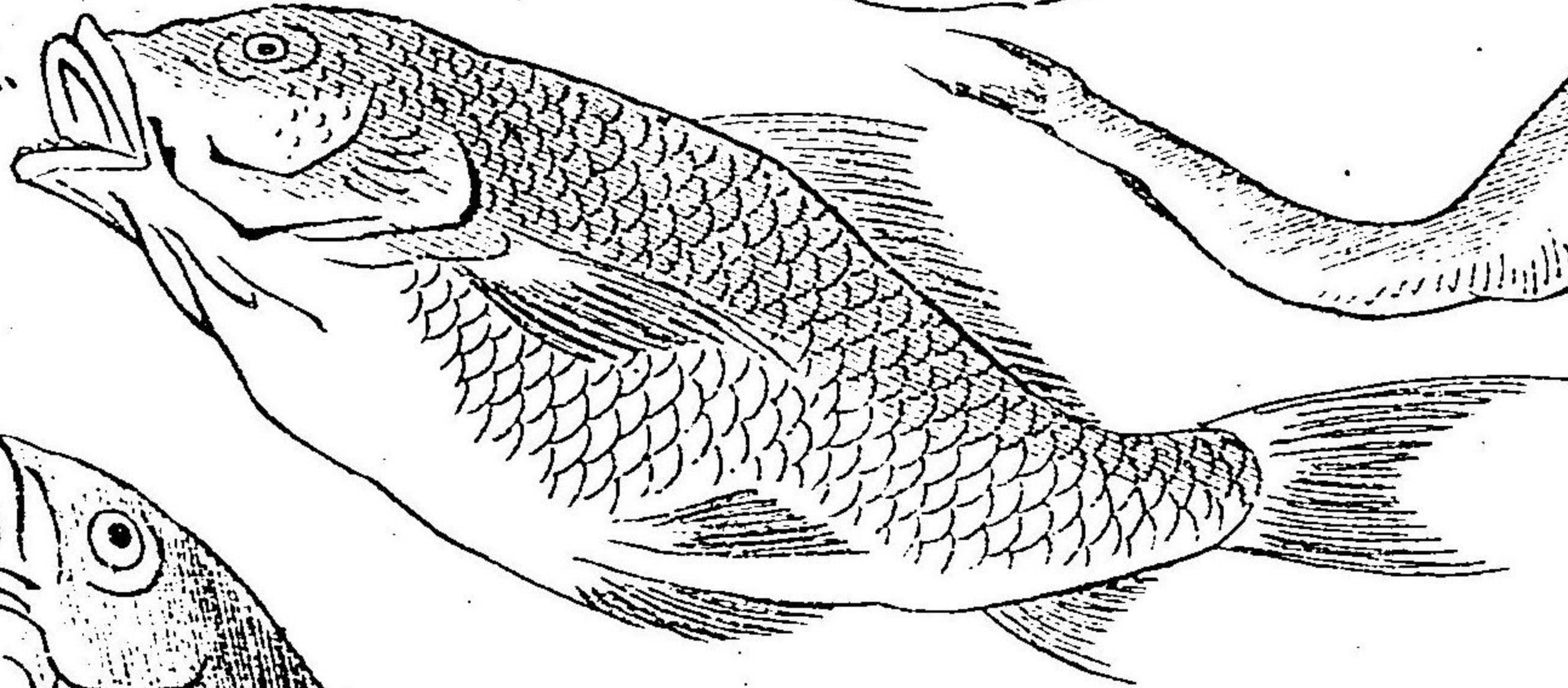


河豚(ふぐ)

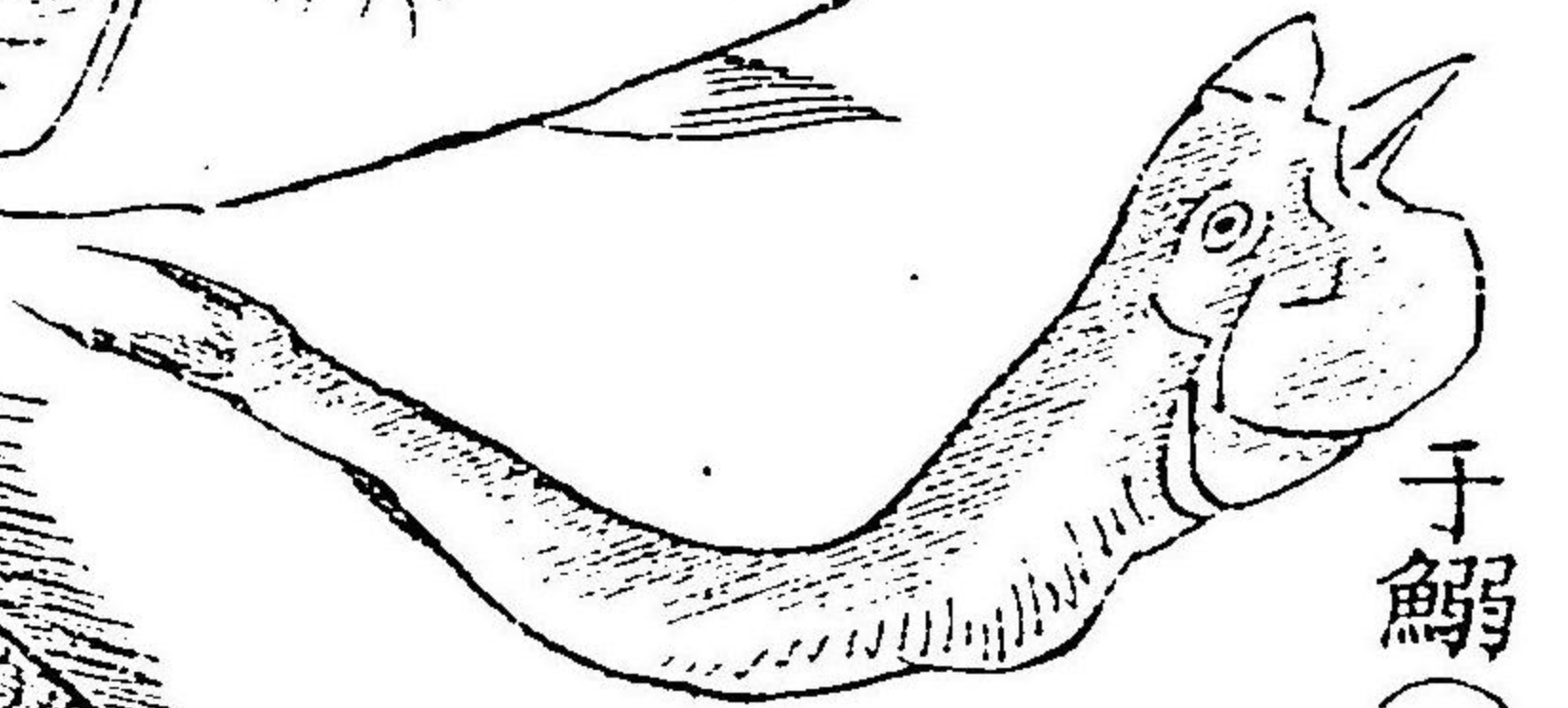
鯛(どひ)



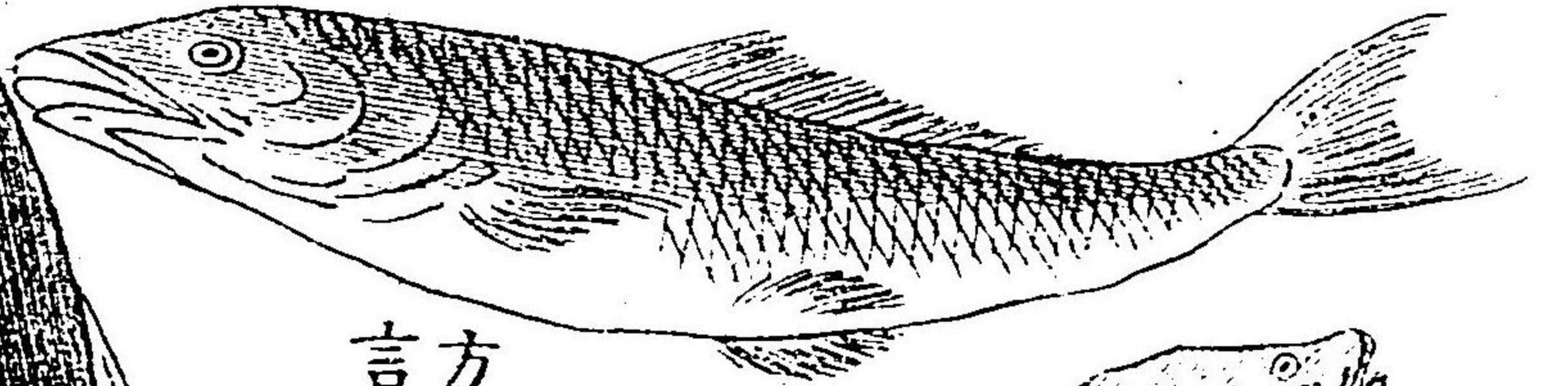
言方(めはげ)



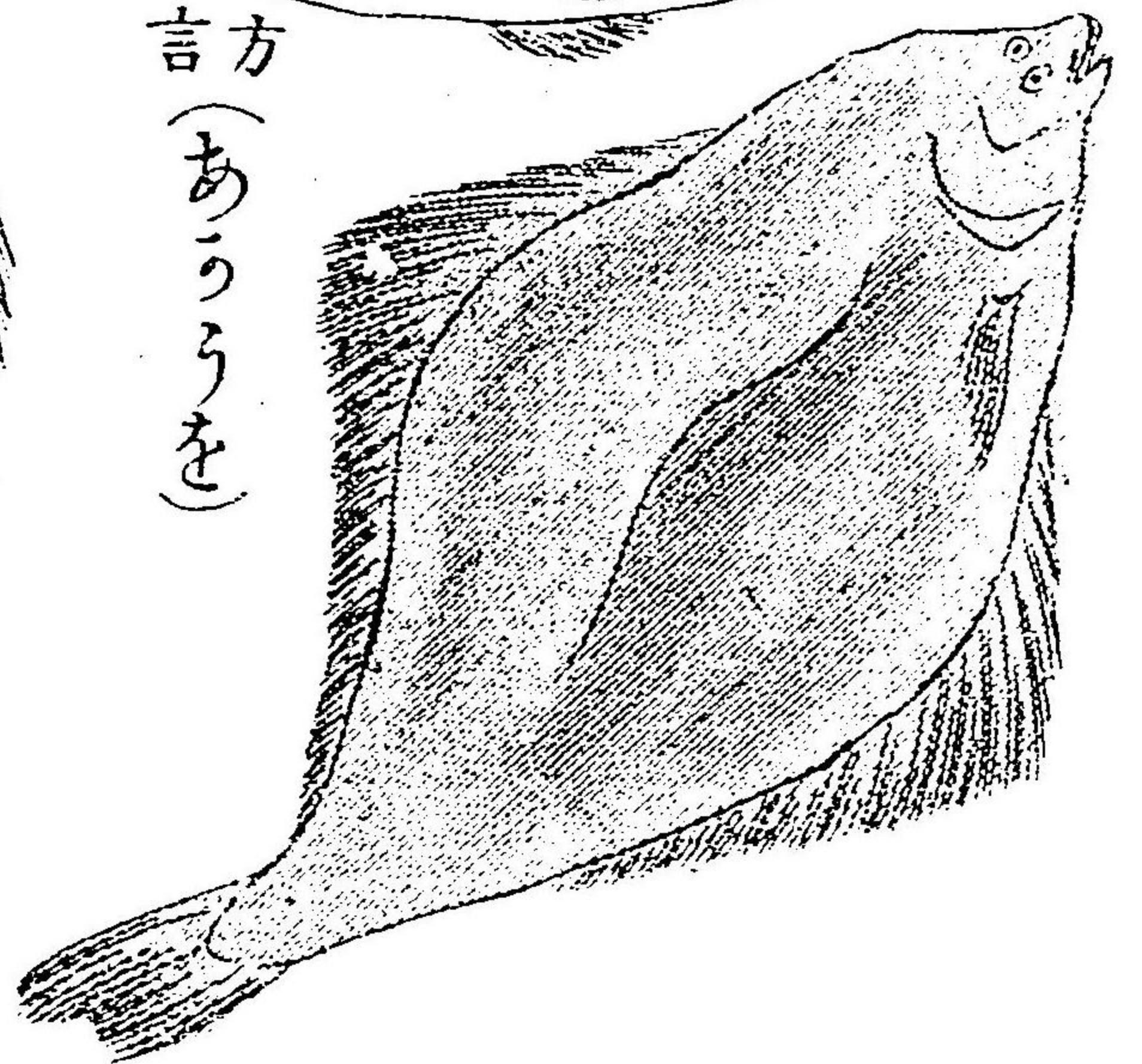
干鯛(なまはげ)



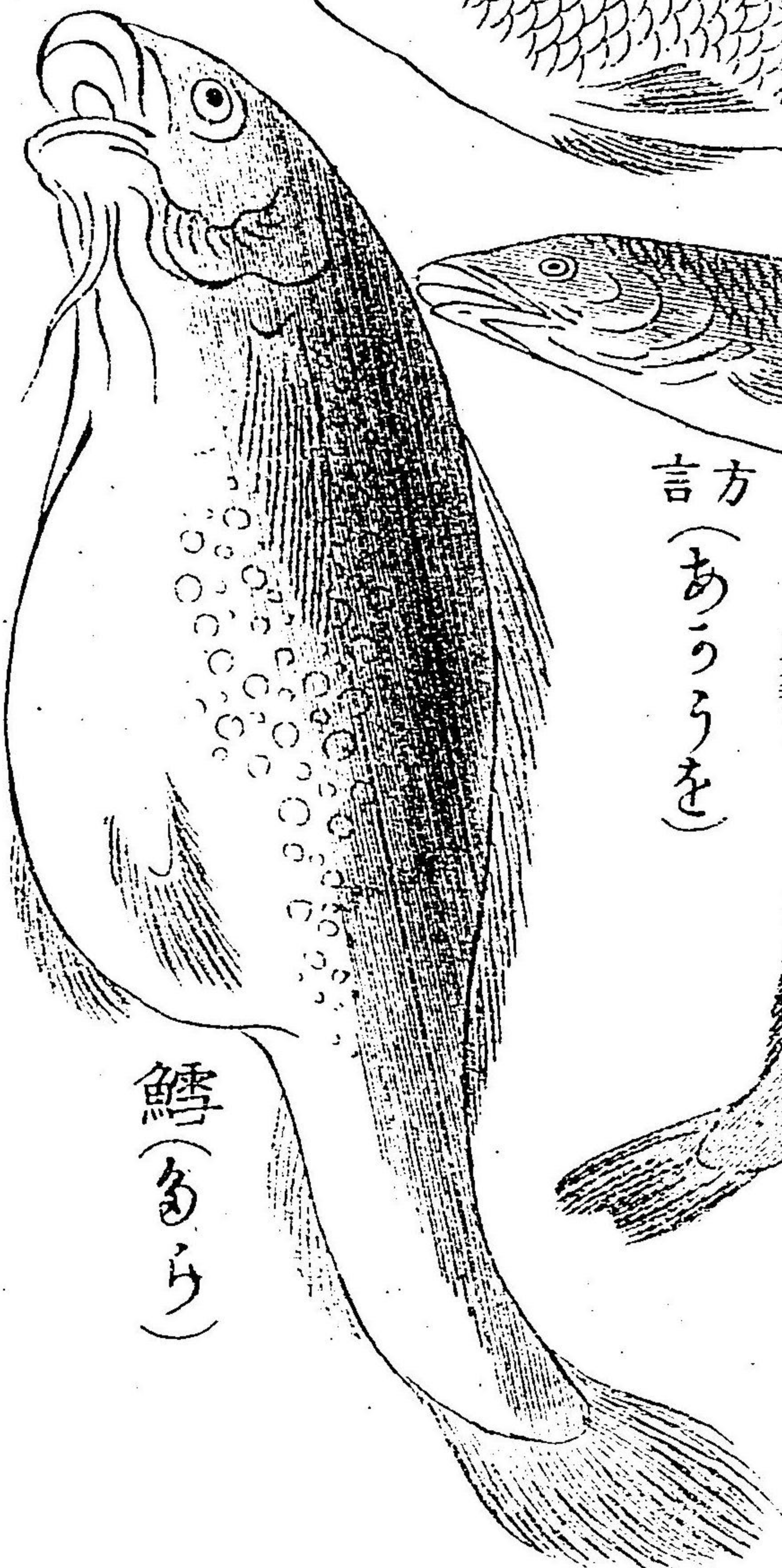
言方(あろうを)



鰈(かれひ)



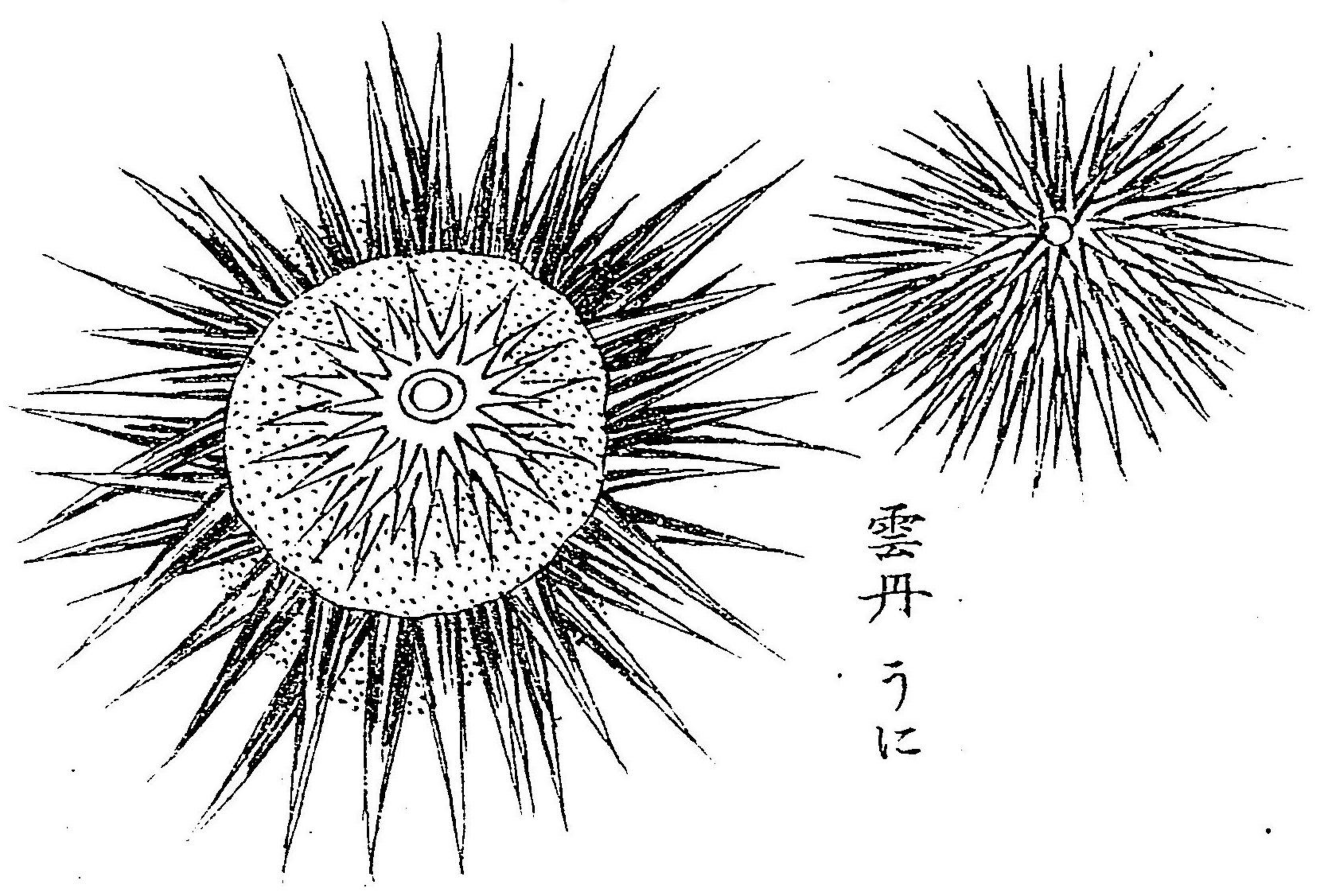
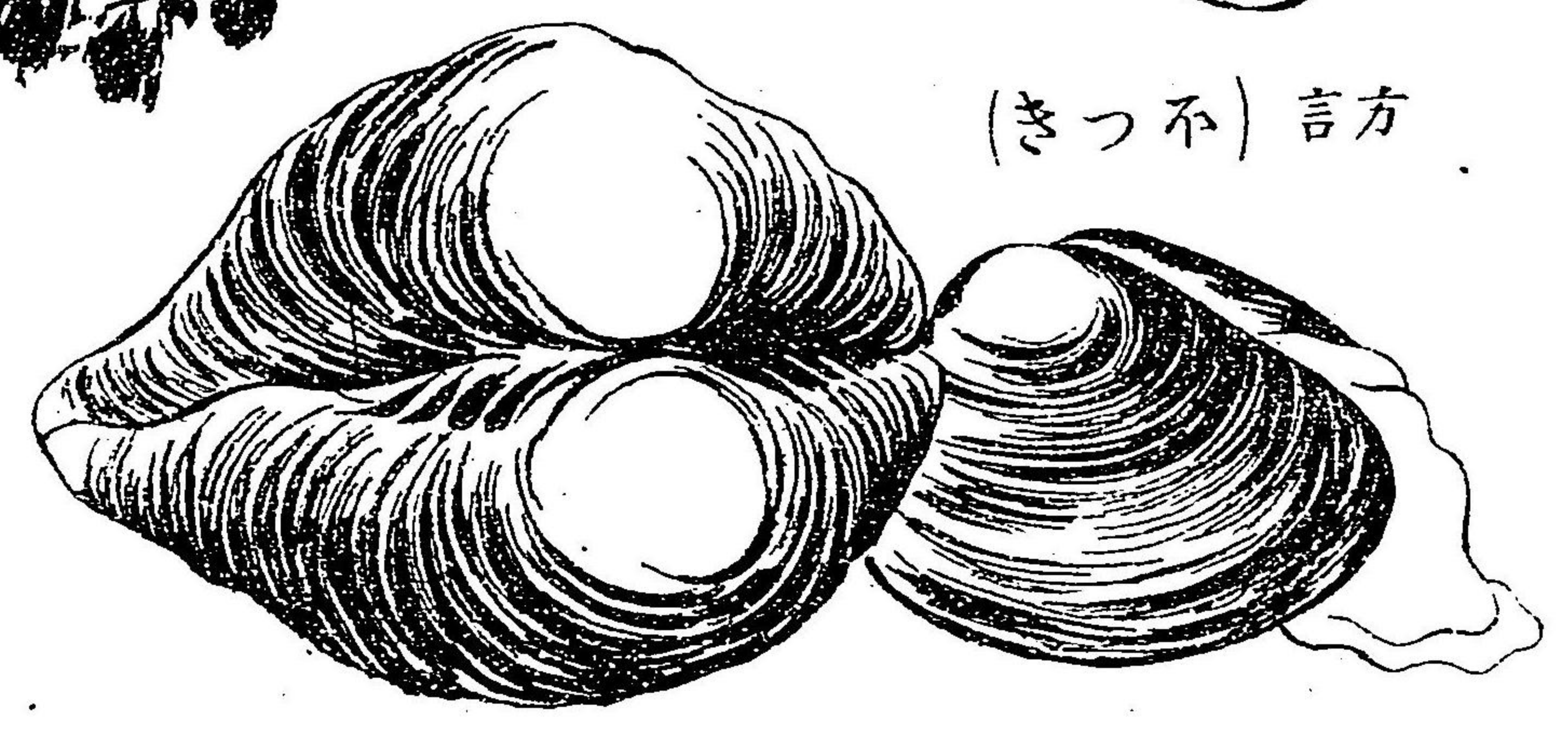
鱈(むら)



東海婦人(志うり)

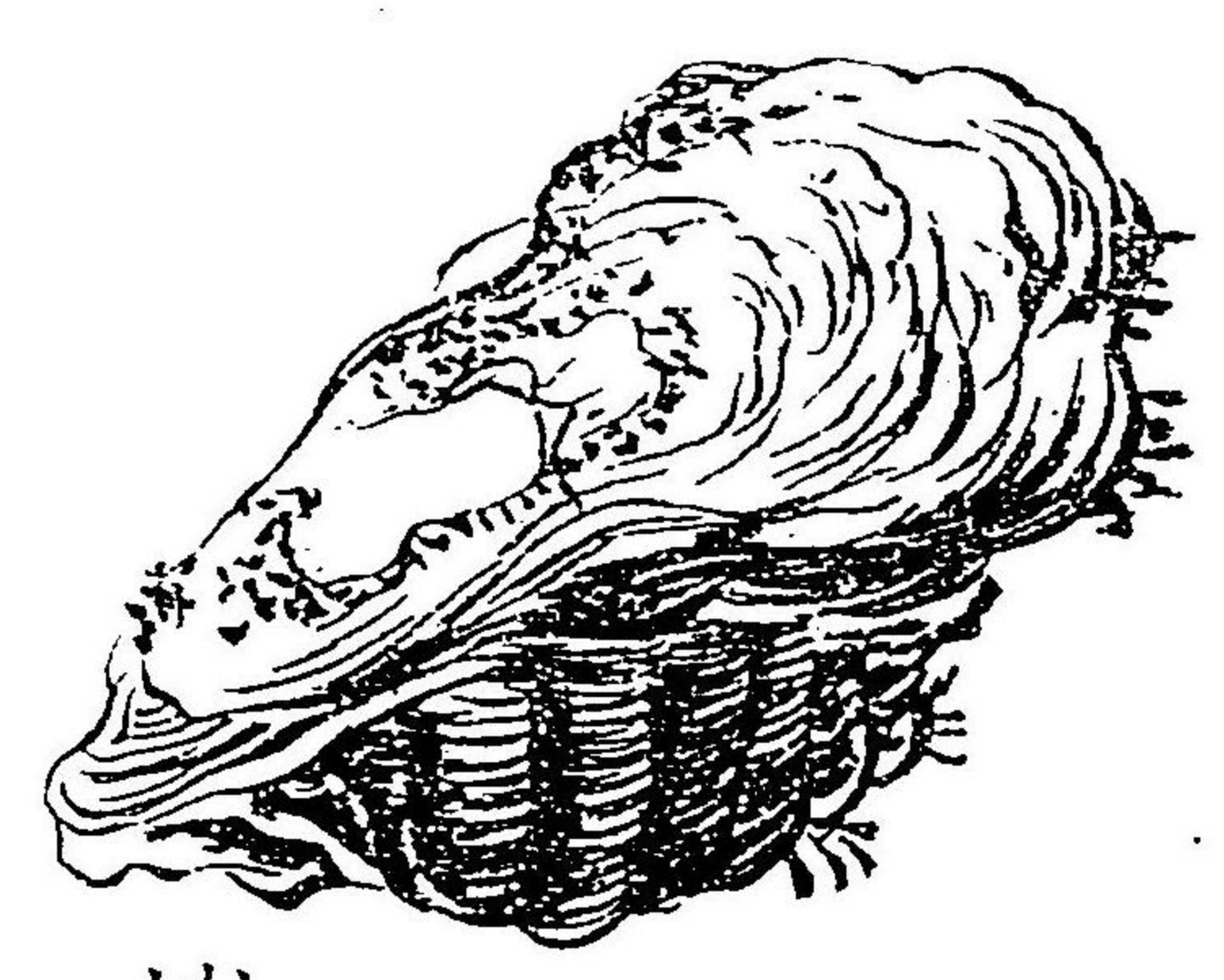


(きつ不)言方



雲丹うに

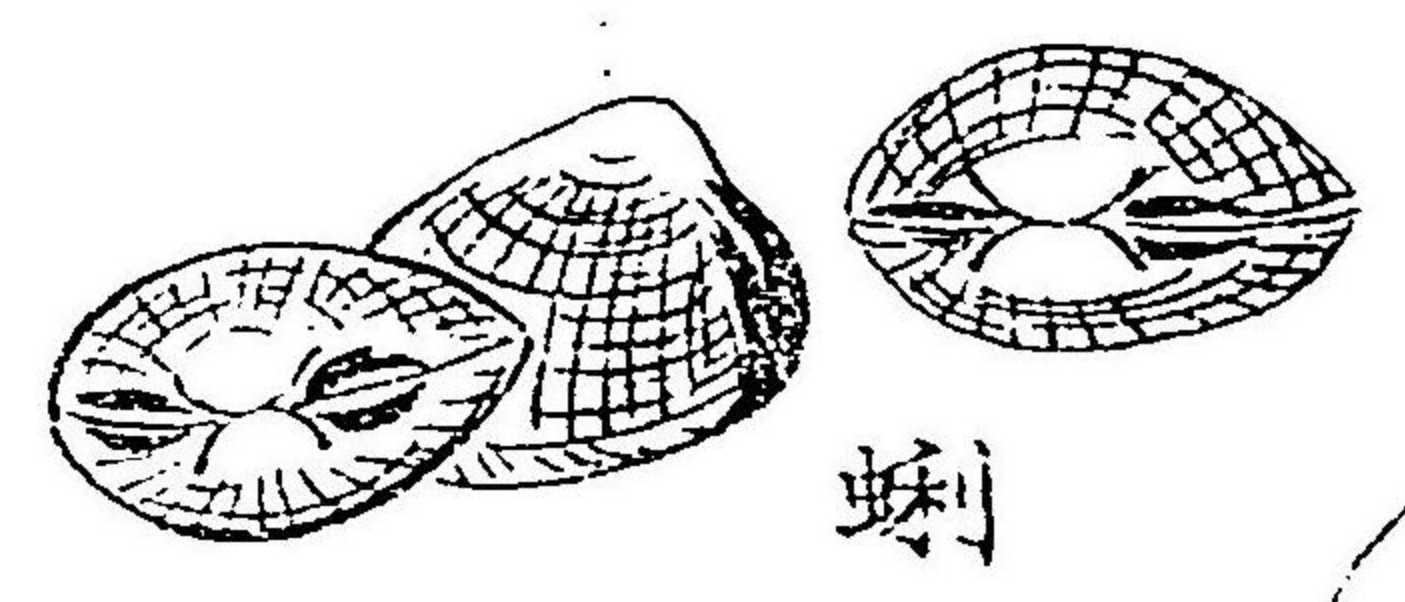
鮑(何とび)



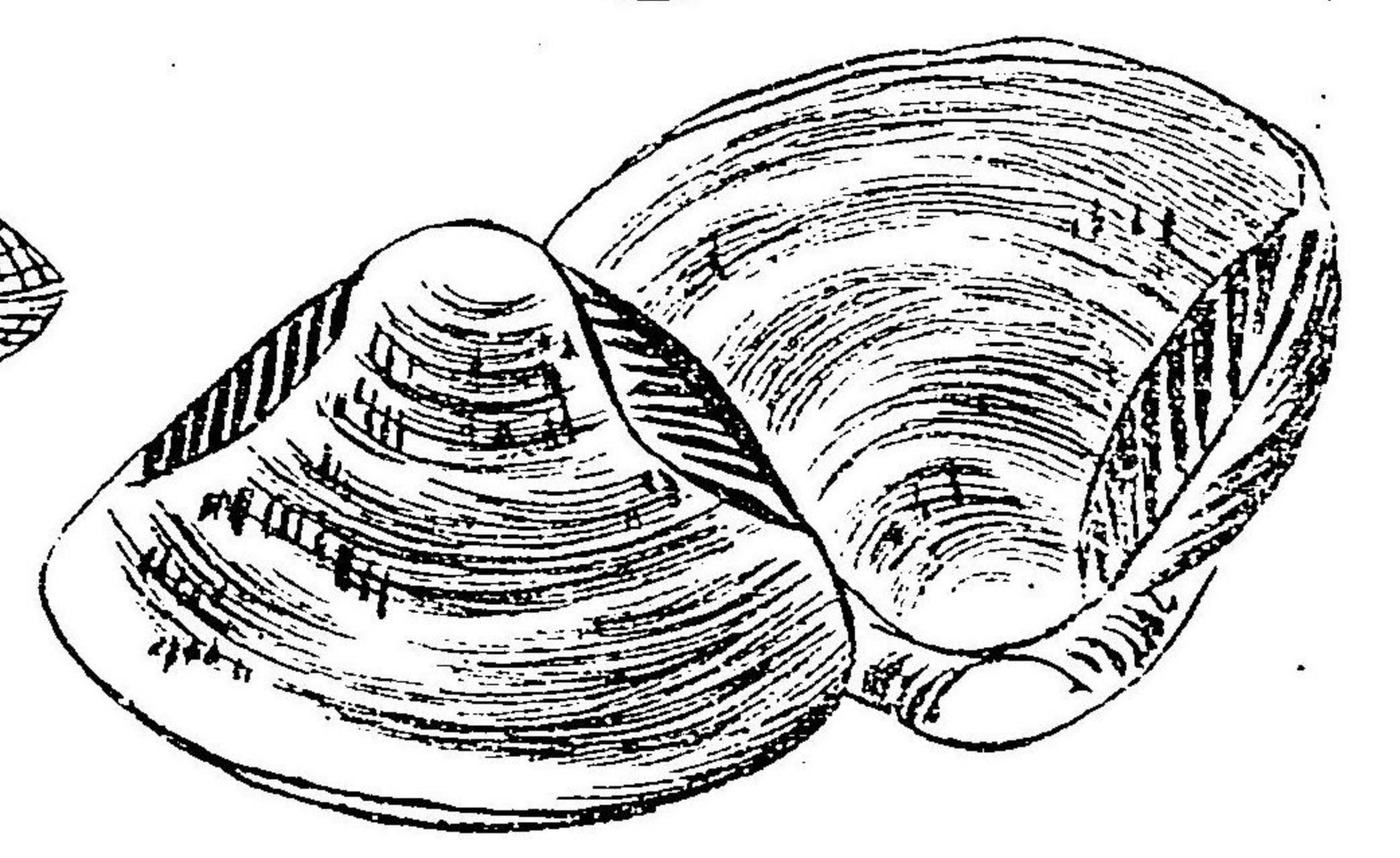
蛸(かき)



蛤(たまぐり)



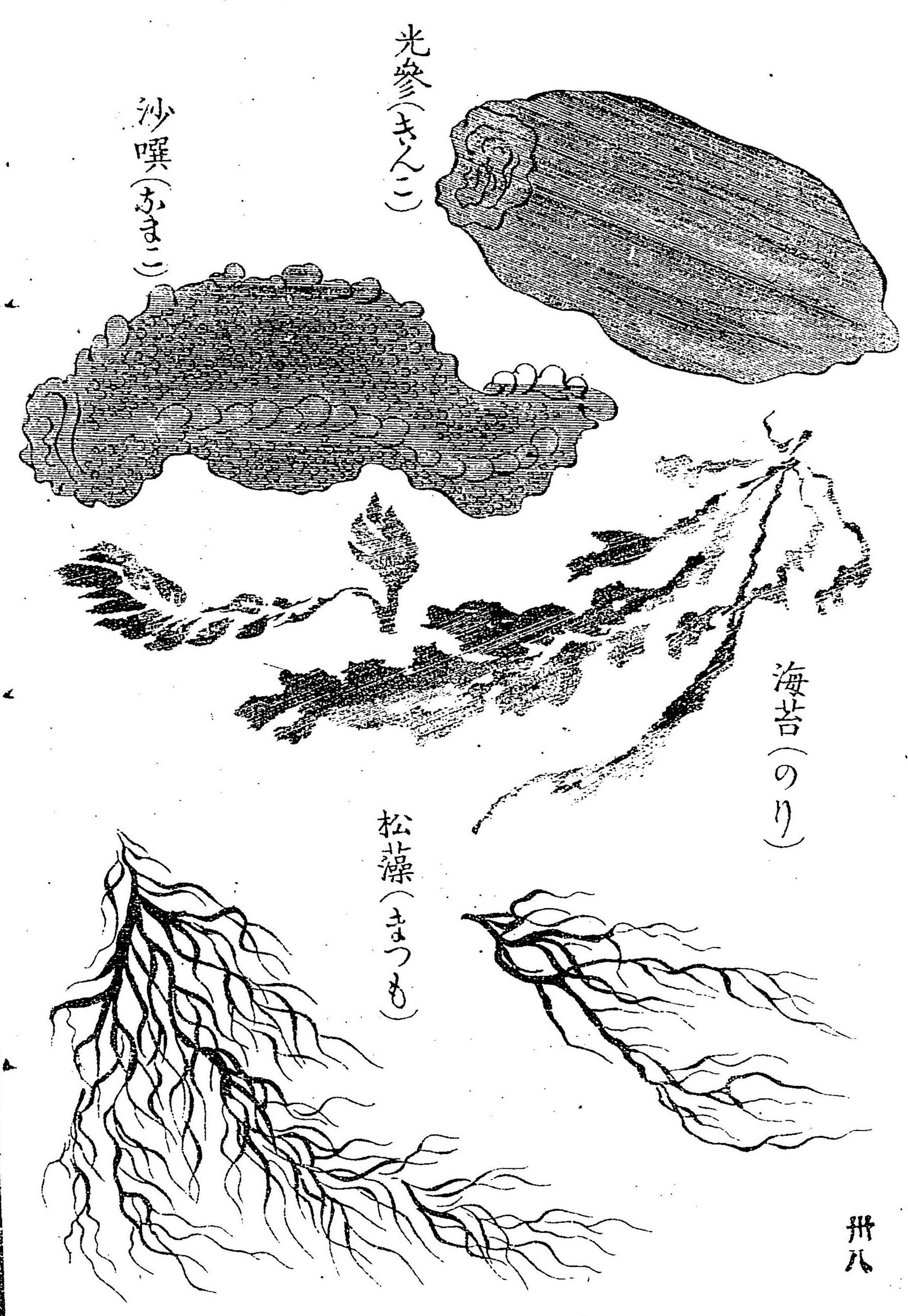
蛸(たまぐり)





若和布(わかぶ)

鹿角菜(ひどき)



光参(きんこ)

沙嚙(あまこ)

海苔(のり)

松茸(まつも)



漁具圖解

○浮操網うきくわみ一名沖操網おきくわみ又筥はこ (第壹號)

おもふおもふ浮操沖操筥うきくわみおきくわみはこ一物の異名なり尤も沖操は地引ぢひきに對したる名なれば正しかるべし然れども當管内あつちの海邊過半うらふちの浮操網うきくわみとよぶがゆゑに爰こゝに浮操網うきくわみと標せり

此こゝの麻糸あしともて製りたる囊網ふくろくわみにて其口の左右兩脇わきに方言一脇ひとわき又袖網そでくわみとも垣かきと云ものあり又其端はしに繩網なわくわみを附つけて海中うみ凡半里おほなほより十二三里ふたばの水底みづそこ十尋とせにおろし船ふねには一艘六七人又またもあり要するに網くわみと手操りてくわみこれを引揚ひきあるあり囊網ふくろくわみは囊口ふくろぐちよりふくる底そこまで凡深おほなほ一丈六尺いちじゆくわい潤うるさ横よこたて一丈一尺いちじゆなり然して上側うへがわ上側うへがわといふに對して囊底ふくろそこのふくる口外ぐちへ長さながさこと貳尺ふたじゆ壹寸左右いちすんの一脇ひとわきに連結つなぎし又囊底ふくろそこを與網よといひて最初壹寸八分目いちすんぱんぶを數七拾造り即ち壹丈貳尺いちじゆふたじゆ六寸と上下うへへ五尺ごじゆつ、網くわみを組織くみだつる爲折返かへすがゆるゑに貳尺五寸とれるの割合わりあひなりといふこれを胴尻たうじりとよるれども囊網ふくろくわみの形狀かたち飄ひらに似たれば寸尺すんじゆを計はかるしむものあり蓋けだし囊網ふくろくわみを造るつくるは與網よを一寸八分目いちすんぱんぶにして幅はば五丈四尺長ながさ壹丈貳尺六寸又方言には二番ふたばんといふもの幅四丈三尺一寸長ながさ壹丈壹尺五寸三番さんばんといふもの幅三丈六尺長ながさ五尺五寸八分四番よんばんといふもの幅貳丈八尺八寸長ながさ三尺五寸方言口元くちもと囊ふくろの口ぐちとなるをもてありといふもの幅貳丈六尺長ながさ四尺となし又上側うへがわれ

奥網壹寸七分目幅三丈四尺と貳尺造りて目數と貳拾五減して即ち幅二丈九尺七寸五分と貳尺五寸造り網目と縮め壹寸三分にして即ち幅貳丈貳尺七寸五分となし五寸二分造り目數と十五減し貳尺五寸造りてかくの如くすること六回すなはち貳丈三尺五寸二分に作りたるものを合せ是に方言「さ」といふもの網目一寸六分にして數九十と作り次に網目を左右よりおの／＼一つ宛減し網目四つに至りて止め囊網の左右兩脇に入れもちて全く形となすものなり又一脇は貳寸目にして網幅壹丈六尺長さ壹丈壹尺となし繩網は一尺八寸目にして幅壹丈二尺六寸長さ貳丈五尺貳寸造り左右の一脇へ接続しむ笠木を方言「網羽」といふ網羽は桐にて造り長さ八寸五分幅貳寸五分厚さ四分のもの貳枚を囊の口元につけ是を方言「ごまいあば」といふ長さ七寸五分幅二寸三分厚み三分のもの左右おの／＼三枚と長さ七寸五分幅二寸厚み三分のもの七枚とつけ鍾方言「やうた」といふ鉛にて重量凡拾文目に造りたるもの囊口へ七つ土焼れもの左右の一脇へ各七つ石にてつくれるもの重量凡二百四五十目のものと繩網へおの／＼九つとつけたるなり又繩網の兩端には長さ十五尋の繩網の左右へおの／＼七房づゝむすびつらね尤も全体の成形により漁者平常の試験あるをもて加減することありといへども大旨右にしるすと準定とす

又一種小形のものあり其形第一號三四圖のことくおして囊網の深さ即ち囊口よりふくる底まで壹丈三尺又は壹丈五尺とし囊の尾端は三尺にして囊の口と締めたるがごとし脇網は網丈一丈三尺より一丈五尺まで長さ一丈三尺又は一丈五尺麻糸ともて製りたるものにて網目と五寸の間お拾節となし又脇網よつくるに網丈壹丈壹尺又は壹丈貳尺にして長さ五丈の繩網ともちてすゝて大竹竿と灣中適宜の場所に立て箕或は笠又ハ蕙の類とつけて網の引網と連結せしめ圖の如空樽と浮標とし網の兩端左右の引網へ繩の結びたるものをつく此の間夜に左右弛張なく引しめむ爲にて手に觸れたる時相鬮となすがゆるなりされば此網は當管下宮城郡代が崎濱近傍即ち松島灣と稱ふ海にて使用し鰈及び鯽等ととるものなり

○大網 網 鮪 (第二號)

總て蕙繩ともて造りたるものおて網の周圍大なるは六百間 漁者平常用ふる所の一餘り又小なるものも三百五六十間とす

網の囊ハ箕の如き形狀にして其周圍百二十七間としさおして第貳號三圖の(イ)と(ろ)との間と二十四間又(イ)と魚見槽との間と四十間(ろ)と沖の目との間と四十三間とし方言「沖の目」と魚見槽との間と二十間とす又魚見槽と沖の目との間と四十三間とし方言「馬神」と

よぶものあり蓋し浮標の大あると錘の重量とによりてなるべし又縮入囊網に入るを見て囊口と引しむるところ方言これを「引立」といふ則魚見櫓と沖の目との間に装置引繩とつけたるものなど此網目に數種の別あり網端其一と機と唱へ葉繩とて尋常の木綿機をふるがごとく製る其二及び機脇網と二寸目につくり其三を六寸目其四を一尺目其五其六七八九及び引立網を一尺五寸目に脇引立網と一尺目に製りもちて囊網全部百二十七間となす垣網の沖の目の傍らにつくるもの羽袖又は小崎と呼び長さ四十間とし又方言「大圍」即ち魚見櫓の傍につけたるものと一番口以下方言と稱へ長さ二十間とし二番口と二十五間とし三番口と三十間四番口と三十間五番口と二十八間五番口より沖元目までの間と三十間となしさて沖元目と方言「前圍」即ち前垣網との間を六間隔て、方言「沖の口」といふ所より三拾間あたりに連結しむ但し前圍は長さ三百五十間と適度とせ

圍網の目は大圍と四尺前圍と五尺となし網幅即ち網丈と拾貳間又は拾四間となしもちて魚の道を遮る用み充て魚の迷惑して囊網に入るより外みちならしむ蓋し此網の方接の往昔の軍法の八陣によりてこれと新創ものなりとみへども其年代凡百年ばかり以前及び確説を詳にせず

周圍は四尺又は五尺回り長さ五尺内外の浮木とつたこれと押へ浮標となし又風濤防御の爲ふ四方ふ貳拾五尋より三拾尋までの網に石又は砂俵と結びつけ氷底に沈めてこれと保持しむ其内最も大あるもの四つあり漁人これと四つ錨といふ左右大小の垣網即ち全網の前面に大なる口とわけおき其廣さ三拾八間とし又前圍と沖元目との間と中の口といふ平常に船一艘とつおきおき魚の網に入ると窺ひ守る所なりこれと中の口魚見といふ又魚見櫓の築造は松杉の内にて八本とかの一貳本づ、結合して四本となし其長さ凡貳拾尋これと抗と稱ふ其木の端お石苞とつけ海中に沈めて四つとあし水面に浮ぶところの木端凡四五尺と適度とす是と抗振りともふ此四本の抗と一所にあつめて堅く是と結びしりして結餘の抗の端ととみ又長貳丈より貳丈貳三尺の木と各四本むすびつた其上に櫓とあげ日中漁人これにあがり魚の網に入るとまもり見る但し冬網又は此魚見櫓と設けず只中の口と稱ふ魚見場までまもり見るなり

又一種小し異なるものあり則ち小崎と中の口との間より内は悉く底網と入れ右の間におきて網と引立るものにして前圍と二重又三重となすものなり

誌者曰此網は構造の大なる諸種の中比類なきものおして調査上なほいまゞ行届かざると

ころあらむ然れども組織の全体に至りては前記の如し希くは観者第二號各圖に就て觀察し
誌者が略解のたらざるごとがむることあり

○地引網（第三號）

全形浮操網に似て囊網の中程前後囊口とふに比ふれば大なるたがひなし囊網の深さ即ち囊
口よりふくろ底まで七丈五尺又八丈と普通とし囊口の厚さ経緯は六尺内外潤さよこたて
壹丈五尺とし囊口の周回と三丈五尺より三丈七尺に至ると相當とす又脇網袖網又垣網は壹
番と網丈七丈より長さ貳拾丈に造りて囊口左右につけ貳番と網丈六丈長さ四拾丈に造
り壹番につけ又網目は囊の尾端より五丈あして五寸づ、拾八節囊の首端二丈五尺と五寸
間拾六節脇網貳拾丈の所五寸間八節以上は麻糸とめてつくりたるのなりとしさて貳番の脇網に結びつくる繩
網ふところなりは網丈四丈五尺長さ五拾丈なり又引網は貳拾房或は三拾房長さ拾五尋よ
ると適宜につけ繋ぎ陸へ引上ると普通とす當管下牡鹿郡谷川濱おきさては網の損傷と恐
れ貳艘の船とめて尤も重量ある碇とあるさしめ船の上に轆轤と装置簡便にして置これと
引のしむしるるに從來二拾人餘の人力と要せしものなれと僅に五人とめて足れりといふ
但し網羽は桐にして長さ八寸五分幅三寸五分厚さ壹寸二分のものおのく壹尺貳寸と隔

て、重量は凡四拾五匁にておのく貳尺五寸とへだてつくと適度とししめて網羽の

細繩と網の糸網との間に五寸の間ごと八節又は四寸目の網と入るなり

又鮭の魚と捕るはこれと大同小異のものあり則ち囊網の網目と五寸の間拾六節脇網壹番と
網丈四丈長さ貳拾間貳番と網丈三丈長さ百二十間細網と網丈三丈長百二十五間網に
造りたるものにて網目は總て鬚網にくらぶれば少しく大なるものなり

又當管下本吉郡鹿折村近傍におきさて海鯽引網といふものその装置前にしるところと大同
小異にしてすこしく小形なり但灣端の一方へ浮樽とつけ目印となし漸次網とあろして海中
適宜の水面と周回らし前の浮橋のところに至り錨とあろし網と引揚るあり蓋し船壹艘網小
は四人乗網大なにして網とあげあろしするに差支なからしむ簡便と主とすればあり

○鮭引網（第四號）

此網は大引小引の二種ありて其構造おのづから差違あり大引網は囊網のあみめ總て壹寸五
分にして幅壹丈五尺長さ貳丈五尺これと上側といひ前幅壹尺五寸前幅より漸く左右の網目
もて目みつめ後幅四寸五分長さ貳丈五尺是と下側といふ又幅貳網貳尺五寸長さ貳丈五尺に
に至りてやむ後幅四寸五分長さ貳丈五尺是と下側といふ又幅貳網貳尺五寸長さ貳丈五尺に
造りたるものこれと脇側といふ是とつゞけ囊網となすゆゑに網口の潤さ周回七丈壹尺にし

て囊尾の内わたり其狭し最囊尾は細糸繩をもて假結びとなし魚を囊内より出すの用ふなす
又囊網の上下左右即ち脇網につゞあしむる所は貳寸目あして網丈けと三丈長さ三丈五尺よ
り四丈となしもちて脇網の目及び其網丈けとたがひならしむ

脇網の右側其一を網目三寸網丈け三丈長さ三拾間に造り網足長さ貳拾九間三尺の細糸繩あ
結ひつけもちて全長より三寸と縮めしむ其二三かのく長三拾間（網目及び網丈けは
皆同し）ともし網足と三尺長あらしむ其左側も右に同じといへども其三即ち三反目の網と
減し長さ三拾間右側より短あらしむ（但し左側と長く右側と短くして用ふるもあり要する
に地形と魚路のさまによりて装置するものなり）

網の糸と燃りたるものにて長さ三拾尋のもの五房網羽は桐よして長さ八寸幅三寸厚さ八分
松とて造る かのく壹尺を隔て「やかた」は土焼のものにて重量凡百目脇網壹反即ち三
拾間へ百拾個と結ひ付く尤囊口は網羽をかのく八寸隔て「やかた」を拾七個となしもちて
脇網と浮沈の權衡をおなぞあらしむ然れども網の全体につき漁人経験の上視認をもて適
宜増減することありといふ

又小引網は囊網の目すべて貳寸にして幅貳丈四尺上下長さ貳丈とし囊の左右につくるもの

は幅貳丈長さ貳丈となしもちて網囊の全部を結構す脇網はあみめ四寸にして網丈け貳丈
貳尺長さ七十間に造り囊網の左右につゞあしめ又網目五寸にして網丈け貳丈又ハ壹丈七
八尺長さ四十間となし是を繼網と稱へ左脇網又右脇網にむとに連結ぬ網羽の桐にて長さ
壹尺三寸幅四寸又は五寸厚さ八分につくりかのく壹尺五寸へだて「やかた」は土焼又ハ石
を藁に包みたるものにて重量凡三十目に造りかのく壹尺三寸又は壹尺五寸隔て其囊網に
至りては網羽と透間なき程につくるをもて通例とすといへどもなほ網の全体につきて適宜
ふこれを増減するはまた大引網にひとし

○網操（練及筋網）（第五號）

網の形大方地引網に似て囊網の上面囊口より拾壹丈又ハ拾壹丈五尺の間網とつけず僅ハ壹
丈又は壹丈五尺の間にのみ附るがゆゑに箕練筋の類の暗黒所に近寄ざるをの如し囊網の長
さ貳拾五間網目十節五寸の間ハ十節あるをいふに造りさて脇網共一を方言「一番とて」といひ網丈け六丈
五尺長さ拾五間網目八節となし其二と「二番とて」といふ網丈け四丈長さ貳拾間其三と「三
番とて」といへり網丈け貳丈五尺長さ貳拾間一番貳番とも網目と六節と造り囊網に連結す
以上皆麻糸をもて又藁繩をもて網目六寸網丈け貳丈より五尺にいたるは二丈につくりたるも
は絲網につくりたるも

の長さ貳拾間に造りおの／＼壹個と脇網の左右兩端にひとびつけもてこの網の全体とあす
 網羽は長さ八寸幅四寸厚さ一寸五分にしておの／＼二尺又は三尺を隔てやかたは凡四拾目
 網羽に應じて適宜にこれをつけもちて網の全体につき實際に使用の加減をなすといふ但し
 此網は漁夫おの／＼四人乗貳艘をもて潮の満干と練網の向ふところと謀り兩方より網とあ
 るし其兩端に錨をおろし船と止め自然に網と操あぐるなり

○鱸追網 (第六號)

麻糸ともて製りたるものにて囊網は囊口より囊底まで即ち囊内の深さ五丈又左右の袖網(又垣網ともいふ)長さ拾五丈網丈けいふを貳丈五尺とし又囊口の厚さ縦貳丈貳尺五寸廣さ横貳丈五尺内外適宜にしかして囊網は方言これと「す」といふ其目三寸より貳寸八九分にいたる網羽笠木といふ桐にて造り長さ凡八寸「やのた」いふ錘をは石を藁にて包みたるものといふ有る三拾五匁より四拾目位と適宜に造るなり網の使用法は漁夫おの／＼三人乗組漁船貳艘にて網を巻き太き竹竿り一丈七尺位ともて左右互に水面と打鳴し鱸方言お何がいといふもの類を網の内へおひこみこれと漁る其形第六號貳圖の如し

○指網(鰈指網)(鱈指網) 浦指網川(第七號)

此網は捕らむとする魚の種類れよび其所によりて大小長短のたがひありといへども其法に至りては少しものはらざるが如し

鰈指網は網目四寸八分にして網丈五丈長さ貳拾三間と一反とし船一隻八拾反より百六拾反を連結もちて海中に装置し魚の水路と游泳と罹らしめてこれと捕るなり
 浮木即ち網羽は漆の木にして厚さ凡五分幅中八分長さ四寸五分のもの網羽と網羽との間おの／＼一尺とへだて、付ると相應とししめて網おの／＼一反の兩端へい少しく大なるものをつく

錘すなはち「やのた」の石にして重量凡百目内外のものにて錘と錘との間おの／＼七尺と隔て、つくと適度としさて網おの／＼一反の兩端へ少しく重きものと付るはなや網羽とつくる割合におなじ

鱈指網はおみ目五寸七分にして網丈八尺長さ拾五間と一反とし船一艘にて貳拾五反より五拾反と連結す網羽漆木は厚さ四分幅中八分長さ七寸五分にしておの／＼貳尺三寸五分と隔て、つけ一反の網へ「やのた」は重量凡三百目内外のもの網貳反の間へ五個とつく其兩端の如きはなや前にあるすにおなじ方言「竹林」と稱ふものは目印にて二重又は三重に巻と結び

つけ或ハ短冊の如き其下に浮木一個竹端に石錘一個とつけ竹端より麻糸繩と引て重量凡貳貫五六百目の石錘と結びつけもちて網と水中にも浮かず海底にも沈まざるの用となす其形第七號一圖のごとし又捕指網といふものも其装置前に同じ但し小形にして網目及び網丈け等總て細少なりとす

又川指網鰻鯉鮒其外川魚と捕るものといふものあり其形狀第七號四五圖にしるすが如し囊網は囊口と太く囊の尾と細くし即ち囊口の廣さハ縦横おのく貳丈にして囊尾の周回たてよこおのく四尺又は五尺長さ一丈九尺八寸に造り網目ハ囊首のあたと五寸の間五節囊尾の方と五寸の間十三節とす囊外の周回へ糸綱とれのく一尺隔て囊首より囊尾まで直線につけこれと力糸といふ垣網は網丈け二丈長さ八間網目五寸の間五節に造り囊口の左右に連続しもちて魚の水脈に随ひておよぎありくものと自然囊内へ入らしむるためなり但し水勢の網と壓流さむことと防ぐため囊口の左右内外へ堅牢竹とおのく貳本左右垣網の兩端へ一本づゝたて鉄環ともちてこれと押へ止めしむ又囊口の下底へ重量凡四十目位の石足(錘)五個又は七個とつけもちて囊網と川底との空虚ならしめ魚の囊の外へ遁るゝを防ぐものとす

○流し網 (第八號)

麻糸をもて造りたるものにて網目六寸一分網幅一丈五尺長さ十八間を一反としこれを十三反又は十五反と結びつけて壹具とす長さ八十尋又は七十尋の網をつけて船につなぎ潮に任せて網を流動せしめもて鰻鮒の類海中におよたれをふを捕る但し網羽は桐にて長さ八寸おのく貳尺と隔て、又適宜に伸縮してこれをつく又鮭流し網は網目五寸二分網丈八尺八寸四分長さ二十五間と一反とし二反をつけて一具となす網の兩端長さ三間又は五間の細網へ長さ凡七八寸廻り一尺ほどの桐の浮木とつけ水の動くは随ひて流れしむ其法前に記すにことならず但し網羽は長さ八寸幅七分厚さ五分一反の網へ四十四個「やのた」はもとより重量とするにあらすして網足の水面に浮かざる爲なれば其重量最輕し其網足の兩端あつくるものは圖あしるすが如し又鱒をとるものは網目二寸八分又は三寸五分にして其他は鮭流し網におなじ

○卷網 (鮪卷網) (第九號)

此網を分ちて二となす一と卷網といひ一と方言とぞう網といふ卷網は網丈け十丈にして一反の長さ二十五尋のもの左右各十反即ち百二十五丈となしすぞう網は長さ廿五丈あして網丈けは卷網あつゝける所を十丈囊底の左右を五丈としすぞう網の幅は前と二十丈後を十丈

とす其形箕のごとし

すどう網一張巻網二張を一具とてこれを使用に漁夫十八乗二艘十五人乗一艘右三艘の船を要す海中凡三四里深さ二十五尋以内の所に至り十人乗二艘の船にて左右より巻網とまき合せ其後十五人乗の船よりすどう網とひろし敷筒其上入るを見て方言「もろさ」といふ釣をもて船中に引揚るなり

すどう網をつくるには網目二寸五分ふして幅二丈五尺長さ二十丈のもの四反を奥網とし又左右へ長さ五丈のもの各二反を繼ぎ又其次へ三寸目にして幅三丈長さ五丈のもの八反其三へ五寸目にして幅五丈長さ二十丈のもの八反を結びつゞけて全くの形となす又これあつゞくるに方言へるといふ五寸目にして幅五丈長さ十丈のもの二反へ袖網といふ幅五丈長さ二十五尋のものあつゞ二反を左右につけもちて巻網に連接せし所の繼ぎを塞ぎ又魚の入りたる時すどう網の口を塞ぎあとする用に充つ

網羽（標）浮（標）桐の丸木を二つに割たるものにて幅五寸又は六寸となし網一反につき三十枚又は四十枚を適宜に加減してこれをつゞやかた「重量凡三百目内外にして一反に付凡廿五個位を適度となす但網の全体及びすどう網の結構せざる以前の概略は九號一貳圖のごとし

○居操網（鮭網）（第十號）

麻糸もてつくりたるものにて網目三寸二分網丈三丈とす此網を装置するには三丈の網丈を二重お折網の上のたを張り下の方を弛め其兩端細糸繩をもて長さ貳丈五尺又は一丈五尺の竹にゆひつけ網と竹との間おさて網の下のたへつくるものと脈系（脈系は竹より長といふこの脈系と竹とをわのく壹尺づゝにて左右兩手にもち小船かのく壹艘はれのく二人乗一人は船のつるゝに乗り左右お別れ水勢に隨ひて流れくだり鮭の水の上にのるをど工合と加減するものなり）に乗り左右お別れ水勢に隨ひて流れくだり鮭の水の上にのるをどるものなり但し脈系の名あるものは鮭の流れ下る時網に突あたるをしろがゆゑなるべしさて鮭のこの網につきあたるを合圖お網糸を張るときは網の上下即ち二重に折たる兩端は忽お張りて囊口を閉るが如きものなれば鮭の通るゝ道ならしむ又網をもて鱒とどらむとする時は網目を二寸三分又は二寸七分とす

但し鮭鱒の如きもの一回この網おかればとれざるものいとまれにて甚（甚）簡便なる良具なり蓋漁人の巧拙とすしかし一回お壹尾か二尾ならでとるに過ぎざるは遺憾なりとす

○張網（第十一號）

麻糸もて造りたるものにて囊口三角形の囊網なり網目總て五寸の間に二十五節にして幅二

尺のもの四個と合せ即ち八尺となるべきものどちうめ囊口の上部の一面と七尺左右の長さ
と八尺六寸につくり囊口の下部の細りたる所より囊底まで五尺六寸となす囊網の口もどへ
網目七分にして幅れのく七分の縁網を連続しもちて第十一號一二圖示す所周回六寸長
さ一丈七尺の杉竿へ麻糸繩とめて結び付け鯛及び方言(めろど)の類をとる但し網をもて魚
と糞ふがどどくにつらふなり

○水網 (第十二號)

緝糸をもて造りたるものにて網目二寸又は三寸網丈一尺三寸又は一尺八寸長さのく
五尋を一反とし一具は六反三十尋又は十反五十尋に造り網羽は杉又扁柏をもて長さ一寸六
分又は一寸八分厚さ幅も凡三分となしおのく六寸間に結びつけ網の網羽をつくる方へは木綿又
は麻糸繩と用ひ網足の方へは必ず木綿糸繩上に對しては二倍以上ととしをつけて錘を用ひず尤網をひる
と前におきて網足の本綿糸繩を水に浸しもちて錘を代用ふ
又此網の十分に弛めて装置魚(鯉鮒の類)の游泳せる時自然に引羅しめ別に糞ひ狭網をもて
これをとる

○投網 (第十三號)

皇國內漁業の地これ なまのあかるべし もあふ解釋に及ばずといへども今當管
下各所に用ふるものとあほよそにいひば網目一寸八分網丈一丈網足の周回と八間とす大
るものハ網丈一丈網足に附くる錘の方言(いや)といひ重量凡拾匁の鉛と小の百貳三拾個
より大の百四五十個と用ふさてこれと使ふ時網足と凡五六寸づゝ網の内部へ折返し適宜に
結つくこれと方言(たな)といふ手網の凡壹丈五尺より壹丈七尺までにして此網と投打形の
第十三號一二三圖に示すがごとし

○突籠 (圖略す)

籠丈一尺八寸上部の差渡し一尺五寸下部の差渡し二尺三寸と造りたる上下蓋なき籠にし
て沼内の所々に投網と打鯉鮒の狼狽遁ると見て水底凡二尺内外のところくくと突たて魚
の籠の内に這入れば上部より手と入れてこれをとるなり

○海老網 (第十四號)

細き麻糸をもて造りたる半月形の囊網囊口廣くおして網目二分 或は三分より四分五分 横竹
長さ八尺又半月形の竹の長さ一丈壹尺とし同じく長さ一丈一尺の添竹と上部の中央凡二尺
と隔て竹と結ひつけ竹端へ長さ凡二十間 又ハ八の引繩を結び水中適宜のところにて引網を

船地方にて合木の上に掲げ又沼の淺き所におきて兩手を使用ひすくて鰈ととる
又織網といふものもあれど其装置異なる所なきともて略けり
又雜魚ととるに用ふる手網も粗これお同じければいふけりなほ第十四號壹貳三圖とまじへ
見るべし

○四手網 (方言持網又の待網といふ) (第十五號)

壹丈貳尺又の二丈四方の麻糸網目の捕る所の魚類により大小ありといへども少きもの三
分大なるもの壹寸貳三分にして袖網の高さは三尺より三尺貳寸とと但使用廣きともちて
くわしくしるさず

○狹網 (第十六號)

麻糸もて造りたる小形の囊網にて網目壹寸壹分又の壹寸二分囊縁と自然に折まがりたる木
に結び付け杉の丈け五尺又の五尺五寸の柄とつ、けしめ鰈及び雜魚の水中におよぐと捕る
○海鵜魚繩 (第十七號)

麻糸繩と長さ四十間釣 眞鍮にして長さ 七十二本と壹籠とし漁夫壹人に付六籠の割合即ち
二寸五分なり 漁夫五人壹組なれば長さ千二百間四人壹組なれば九百六十間となし左右の兩端へ海底の深

淺さに應たたる糸繩と結びつけもちて目印となすべき竹の根おひすび糸端へ凡三百目又の
五百目の石錘とつけ竹に桐の浮木とつくるは指網の「竹林」といふものゝ如しさて釣
とつくる糸の長さいかに、壹尺二寸釣糸と釣糸との間を二尺二寸とす網羽の桐にして厚
さ六分幅六分長さ五寸お造り錘の付ところに方言「ぎばあば」といふもの釣糸三本と隔つる
ことおつくこれと方言「からあば」といふことばあば「の四拾間の間へ拾三個」からあば「の拾
二個とせり錘の重量凡貳拾目の石にして細糸もて壹尺又の一尺五分と隔て、「ぎばあば」
へ連結す但壹籠長さ四拾間つゝの糸繩と糸繩との間に付くるものと方言「間石」といひ重量
凡百目はどのものと用ふ

此海鵜繩の餌とつけずして魚のうきあそぶ時自然に引確ること甚妙なり

附 小繩

小繩の装置も亦前に同じ尤も壹具の長さ五十二間四尺釣少し小形にして貳百貳拾本とつけ
持て方言「根魚」及「どむこ」といふものと捕る但し浮木と付る工合の第十七號三圖にしるす
が如し

又鯛繩といふものゝ方言「はつゝ海老」と名つくるものを餌とし船壹艘にて凡貳拾五籠の大

略前にしる位と使用せ

又赤魚繩方言目抜といふものともとる蓋し目抜といふものともとるも前にしるす所と異なることなきふよりて其圖及び解説と省く又沼河等に装置鯨釣といふものも其方法前ふしるすに同ぢければ略けり

○蟹繩 (第十八號)

長さ百二十間にして重量凡三十匁より四十目の石と藁めて苞つひのく三間隔てよ結ひつけ
鍾となし餌クラギ(鰻の類)をとるころくにつけ水中に張り置き蟹の餌喰ひむとして繩に絶りつく
ととる

○鴉繩 (第十九號)

此繩の麻糸もてつくりたるものにて長さ三十尋かのく二尺隔に鴉の羽十枚と合せ羽尾二
英と左右へ(はろ)あのかのく二枚とつけ右兩端へ(風切)鴉の尾に眞似造りたるものとし
おのく二枚とつけたるものにてなち圖の如し
びつけもちて繩の左の端と漁夫壹人あて川の左の岸へ引張らしめ壹人の右の端と右の足
に引き左の手あ狭網もて鮎の右の岸へ逃げ寄る左の岸の漁夫と捕る
狭網の絹糸にて水淺黄色糸と極めて細くなし色と水淺黄にそる水中あ入れて網たるとしらしめざる爲也に染たる網目九分の囊網

あり囊口の周回九尺にして囊縁と竹の團扇形に曲げたるものにもひ付け竹の兩端と銅製
のものにて桐の柄につゞあしむるは第拾九號につきて見るべし

○鯉釣具 (第二十號)

羚羊の角又ハ牛の角もて第貳拾號貳圖に示すが如く造りたるものにて角の端の細き所に
釣とつけ河豚の皮と短冊形に切りあす拾枚と釣と角との根もとに結ひつけ角の根のふとさ
所にハ麻糸繩と貫し長さ凡四尺の釣糸とつけしめ竹竿長さ凡壹丈五尺又ハ壹丈貳三尺の
ものに結ひつけしかして生鰯の鼻の上より脊鱗へあけ釣と貫し水面より凡貳三尺の海中に
投げ入れ鯉のあつまりて餌と喰ひむと争ひて是に嚙付と合圖に引掲げてとる但し(鰯の生
たるものあければ死したるものをつけ竹に造りたる搔籠といふものもちて水と罨ひあけ
竿と上下して生たるが如くに装ひて使ふ又時宜により餌とつけずして釣ることもあり
又鱸とつる具もこれと大同小異にして鹿角に代るに鉛もて造り鱸の皮と短冊形に切り釣
にはして海中に投じ鱸の嚙みつくつと引掲げて捕る(但しこれとや、ことあるものあれと
も其装置に至りて同じきとて略す第貳拾號三四五圖と見よ)

○鰻釣具 (第廿一號)

圓形にし、長さ三寸中央周回と一寸五分とみし上部の白色にて光澤ある角下部の鉛（重量五）をもて造り鉛の下端圓形の周回へ眞鍮（又鉄をもて造）の鉤拾五本又の拾六本とつけ上部角の入端の所へ穴と穿ち長さ六尺三寸又は六尺五寸の釣糸と通し長さ凡五尺五寸の竹竿に結ひつけ第廿一號三四圖に示すが如く貳個と合せて竹竿の根本と麻糸繩にて連結し海中に投げいれさせて竹の端と右の手にもち竹端より凡壹尺三四寸の所と左の手に押へ二個と互に上げ下げす上下の工合は熟鯛の光澤ある白き角と見て食ものと思ひ噛みつく（此時釣に引練と要すといふ）と合圖に引掲げて捕る（但、又の鯛の皮と巻つけて角に代へ用ふるともあり即ち第廿一號五六圖の如し）又貳本の釣竿と左右の手にもち竹端へ麻糸繩と結つけ漁人の帯に結び置き鯛の釣に引掛りし時竿と投棄釣糸と手操揚げ之と捕るもあり則第廿一號貳圖に記せるが如し

○鰈釣具（第廿二號）
 長さ四尺三寸又の四尺五寸の竿（手に持ところ桐の柄と付たるもの）へ水底の淺深に應じ長さ貳丈より貳丈五尺までの細麻糸繩とつけ糸端に鉛（製の重量凡三匁四五分の錘とつけ錘と糸と接続せし間より糸をもて珠數形に造りすこし太き糸とつけそれそれに餌と繋ぎ貳本と左右兩手に持ち水中に投げいれ鰈の餌とくひむとしてこれに噛付くと合圖に船の上に引掲げて捕るあり）

但し此漁法と方言珠數釣といふ蓋し珠數形に造りたるものに餌とつけて釣るもゑならむ又釣ともて釣るものおれども普通雜魚と釣る法に異ならず也あ略す

○四掛（鮎釣）（第廿三號）

釣糸馬の尾の白き（竹端につくところ）毛と繋結びしものにして釣は碇形の鉄製なり糸の長さ壹丈五尺又は壹丈六尺にして釣と隔つること凡七八寸のところへ眞鍮の細き環とつけ置生鮎の鼻頭を貫通し壹丈五尺又は壹丈六尺の竹竿（釣糸の付ところより四尺五寸は細くしに）をひつけて水中になげいれ環につけたる生鮎をおよがしむればそれと見て川中の友鮎その尾につきあらそひて川上に泳ぎのぼると見て糸と引釣に掛けて捕る

但し餌とつけて釣りともたれを雜魚を釣るに同じければ略す

○鱧釣具（第廿四號）

秤量に類する形のものへ左右凡壹尺四五寸の糸をもて釣とひつけ又中央よりも凡一尺五六寸の糸に重量凡百二三拾匁の錘と下げ糸の中央より凡七八寸の細糸をひて釣をむとび中央の上部へは稍太き糸をもて手繩となし釣を鯛又は鯛の餌をつけたのくひとつを左右兩手に持ち船の上より海中お投げおるし鱧の餌につきたると手よおはゆるとき引掲げて捕る

○ 釣 (翻車魚捕獲器) (第廿五號)

鉄製長さ貳尺一寸五分又は一尺九寸五分のものへ根もとより五寸程のところに麻糸繩と結びつけ又長さ貳丈五尺位の糸繩ととりつけ杉の長さ一丈五尺の指柄箆め翻車魚の海上に飛び揚り泳泳を視認する時これと投げ突にして捕るなり

○ 猪 (圖略す)

鉄製にして鉄身の長さ凡短きは五寸五分より長きは八寸まで其突先の尖りたるもの拾壹本或は五寸又は七寸もありを揃え竹の長さ七尺より八尺まで水底の淺深にの柄とつけ鯉鮒鰻の水中に游泳と窺ひ見て突きてとる

○ 章魚捕具 (方言いしやりといふ) (第廿六號)

長さ一尺五寸位にして自然にすこしく曲りたる木と用ゐる又は方言そぞみといふもの臺木となし下面へ重量凡百三十目の石の錘とつけ同じ木を添て狭み細麻糸繩ととも程よくひつけさて貳本の細竹と長さ四寸位に切り弓形となし竹端に長さ凡一寸五分折曲りの釣とゆひつけ章魚の腸又は其他のものの中程み添つけ餌となして海底に沈め章魚のこれとくはむとすると時多肢ともて絶りつくどらねて此具の端にもひつけおきたる細麻糸繩(現今の糸)を引

陸の上又船の上に引揚ぐるなり但し糸繩の長さは海底の深淺よる又臺木を竹にて造りたるものあり其装置も又前に同(第廿六號各圖を見よ)又此他章魚ととるに瓶をもてとるあり其法瓶の中に餌を入れおき瓶のまはり細糸繩もておびつけ海底に沈め陸の上又船の上におきて糸繩と引揚げこれをとるものあれど其稀にして當管下おぼくは前の(いしやり)と用ゐるも今其圖を略す

○ 海鼠捕具 (方言小引といふ) (第廿七號)

此装置に二種の別あり則一つは海底岩石のおろき所を引くもの一つは海底に高低すくなき所を引くものこれなり海底岩石多きところを引くものは其装置上は藁繩網にて網目貳寸奥行貳尺一寸幅三尺四寸下の麻手網にして網目一寸七分奥行貳尺三寸上網の藁瓦となし海鼠ともれ出ざら幅一尺四寸に造り合せて藁網となすその藁口の縮り塞がらざる爲に梓又櫛のしむるなり類ともて幅二寸長さ三尺六寸厚さ五分鼠と藁網お入易あらしめむが爲なり海お造り臺木となしこれに四つの穴と鑿りて凡六寸の小柱とたておなじく四つの穴と穿ちたるもの杉にし臺木に同(但し平面厚)につけ第廿七號各圖以て小柱の内渡り五寸となし其中程に貳本さ薄さのわらちあしと來觀せよ卵の形にて豎横足をつけ一つの穴へ横木小柱の間へ二つの穴とあけたる重量凡二貫目入石の薄さものなり

と指し一つの穴へ太き麻糸網長さ三尺二寸貫通して貳をどほしもちて網と使用する時網と引張に横木の兩小柱の間にありて石のぬけ出でざるが爲の備とす

又麻糸網に結びつくる黄繩網は長さ貳十尋より貳十五尋何れも海底の浅深によるにして漁夫壹人にて貳具なれば貳人外に網と海底に沈め網と引て海鼠と網にすくひとるなり但し中央石をつくるものは岩石が突當りても左右自由になりて容易脱出するがゆゑなり又海底高低少きところを引くものは杉の丸木または八寸のものをもて半月形に造り兩端に重量凡一貫三百目程の石足のくひとつつけ囊網黄繩とてつは網目二寸おして囊底の口もとへ細麻糸網奥行五寸幅二尺五寸と入れ兩端より各七尺五寸網と引二本と合せて長さ凡二十尋の繩網につんゆひもちて網と引き海鼠を捕るさまは前にしるすにことあらずなほ第廿七號一二圖に就て見るへし

又皿貝といふものをとるも其装置前にしるものと大同小異にして網目は八分囊口の臺木と鐵製の薄きものと用ひ石足の重量凡一貫六百目として海底の土砂とひまならしめもちて皿貝と囊網より脱出でざらしむ又赤貝ととる具も前にしるす三種に類して囊のもとに鐵製の長さ五寸五分の尖りたる爪二十三本とつけ梓をもて造りしともちふるものありもて赤貝の海底の土砂中

に潜み居るものと搦すくひ自然に囊網に入らしむ其囊網三角形となすものは赤貝の砂泥のつきたるに囊網の中におきて洗ひさりさて後囊網より取出すなとすべてたよりよからしむるの爲なり但し囊網は總て麻糸をもて造り石の重量凡二貫目以上とす(第廿七號三四圖と合せ見よ)

又方言「ほづき」貝といふものをとる具も前にしるすところと大同小異なれば説明とくはへず尤も其装置の少しくはるところは第廿七號の五圖に就きて見れば了解しやすし

○鮑 捕 具 (方言「なさし」及び「かさ」といふ) (第廿八號)

鐵製長さ六寸五分柄の中お入る柄の付きたる根本より鐵の末の方漸次に細きものにて少しそりたるものとす柄は杉ともて造り第廿八號二圖の如く鏢鏢は岩礁に觸るゝも手のつけ其最も端の方に穴と穿ち麻糸繩と通しこれを肩より左の手の下へ引掛け水中に潜り岩礁の在るところに泳ぎつけ鮑腹のとりつきし所とみとめこの器をもていちち捕る

又方言「かさ」といふものを第廿八號四圖に示せるが如く鐵製にして長さ一寸八分(又の二す)のものに折曲げ海底の浅深により長さ一丈二尺より一丈五六尺にわたるの竹竿にゆひつけ水底にある鮑と見とめ又は探りてこれと引掛けとる(但し此器ともて章魚又石蜘蛛と

るもあり尤も石脚をとるときは二本と合せ二股となして用ふ又方言「つねね」といふものあり其形第廿八號三圖に示るすが如しいさ、これとことありとんへとも鮑をとるわけは大抵ちるさをもて略く

○石脚捕具 (方言ややのきといふ) (第廿九號)

俗に熊手といふもの、形に似て三股又は二股のものあり鐵製にして全身の長さ六寸五分又は七寸五分のもの、長さ一丈一丈と一丈二三尺に至るの竹竿をつ、け水底と探り石脚と引のけ竿と手操りあげてとるなり

○蠣採具 (方言蠣狭) (第三十號)

此具は熊手の如きもの二つと腹合せとなし下端より二尺隔たりたるところと結びつけ海底の岩礁あつきたる牡蠣と狭みとるなり(第三十號一二圖と見よ)

附牡蠣養殖法

舊曆四月頃以下皆舊曆 周回一尺位の松木他の木にと長凡五六尺に切り幾百となく海中の淺き所 潮の満干により木面の水の上 小投じかけば自然蠣種これにつくものあり元來牡蠣の種子と産むは四月下旬より八月頃までにて其形は泡沫の如く其色黒くして潮の面より五分乃

至一寸竹の下に漂ひ潮と共に流れきて豫て投じ置たる木につくものなり翌年四月頃に至れば大さ二寸又ハ三寸位に生育と木より離し採集めて深さ一丈五尺淺さも六尺位の海中へまきちらし二年目五六寸より七八寸三年目八九寸より一尺二寸位に生育蕃殖たるものと十一月下旬より四年目の三四月頃までにとるなり

○貝採具 (蜆又は蛸を採集するもの) (第卅一號)

團扇形の鐵の鑲に長さ三寸より四寸までの鐵爪十五本又は拾七本とつけ鐵の鑲のまはり尺又は一尺二寸と同じき籠をもひつけ長さ壹丈七尺五寸位の柄と鐵の鑲につ、けしめ籠底と上面の柄の肩にして海底を掻き回し蜆又ハ蛸の籠の内にいるものとそくひ揚ぐるなり則第卅一號一貳圖と見てしるべし

○昆布捕具 (附細布及び若加布採具) (第卅二號)

樽又は櫛の木とつ、け長さ三丈より四丈五尺 海底の深淺による となし其下の端より五寸と隔て、五寸又六寸の木と横に通し其より又五寸 又七寸と隔て、と隔て、五寸又六寸のト寸法 木を前の横木と對して十文字形に通し上端に横木をつけて手木をなし海中昆布のある所に突立てたびく、捻廻し昆布の採具に撈みつくと引揚げて採るなり(第三十二號一貳圖と

見よ)又細布ととる具は梓あつぎ又は橙だいだいを長さ一丈三尺又は一丈五尺となし下端より二寸又は二寸五分と隔て、横に三寸又は三寸五分の木と併し二尺四五寸の間繩をまき三本と合せて下端より凡四尺五寸の所を結びつけ上端を両手にもち海中細布のある所と探り廻し二本の木の端に撈めてとるは前にしるすが如し(第三十二號三圖を合せ見るべし)

又若昆布刈鎌は普通の草刈鎌にして長さ一丈二尺又は一丈五尺の竹竿をつけ海中岩礁につきたる所の若和布を刈とるなり

○鰻筒うなぎづつ (第卅三號)

細割竹と櫻繩とをもちて造りなしたるものにて長さ二尺二寸又は一尺五寸筒口さしわたり三寸三分又は三寸五分となしさて筒口の内へ方言「べろ」と稱ふ長さ一尺五分(又一尺一寸)筒口より内底へおひく細く造りたるものを入れもちて筒外の中央及び首尾の三が所と箆たがにて締めたるものおして鰻を捕らむとする前に蟻あま又は螺體其他の餌料と筒中へ入れ筒尾に繩と結びつけ水底に沈め程よき時刻と計りて繩を引揚ぐるあり

但し鰻筒鯨筒等其名ことなれども其装置すこしもかはりなし只其種類によりて筒に長短廣狭の別あるのみ

又た竹筒と稱ふものあり竹の周回り七寸位のもの長さ凡二尺三四寸或は五寸位のもの長さ二尺一二寸に切節と抜き二本を合せて其兩端と葉繩にて結びつけ一個となし長さ十間より十五間繩の兩端は竹とと水面お張り竹筒凡二十二個とおのく五尺又は六尺隔て結びつらぬ水底に沈めれき時を計りてこれと引揚げ狹網とともて鰻を捕る手加減の熟練せしものにあらざればよくせざるものなり

又鰻筒といふもの其装置こしらへばかりこれと異なり即ち第三十三號四圖に示せるか如く上面縦横は一尺にて中央のさしわたりは四寸七分下面は上面と對して凡一寸狭くして中央より長さ五寸程の割竹平たきと出し鰻の此筒口より入りやすららしむ筒丈けり六寸七分又は六寸に造り上面に横竹とつけ麻糸繩をもて結ひこれに手繩とつ、けむそび筒中に餌類螺と入れ水中に沈めおき時と計りて引揚げ筒の上の左の端の小蓋ふたと明け鰻ととるなり

○鰻搔うなぎかき (第卅四號)

鐵製にして全身長さ一尺一寸又は一尺二寸のもの圖に示すがごとく造り杉丸太長さ一丈五尺より一丈六尺の柄とつけたるものなりこれと使用するには漁夫船の上において水底藻草の中を搔き廻し鰻の刃先にある針の如きものに引かゝるととるなり

○海苔筥 (第卅五號)

筥は柴にして其長短は潮の淺深によりておなじからずといへども短きは四五尺長きは一丈位柴根を集め一握りにみたざるをひと束とし豫め其年の寒暖とあもひのかり潮跡と見認寒き年には短きものとおほくし暖なるとしは長きものとおほくし潮路と遮るが如くこしらへおく 秋の彼岸前後 年により彼岸前或は彼岸後五七日の間にするもあり

れのく二尺又は三尺隔て、水底を穿ち柴束一つと挿みおけは柴と立たる日より三十四日と経て枝の間に班點と生じ日とふるに随ひ黒色にして柔なる若和布の如きものとなりこれ則柴海苔と稱ふものなり又摘とるべき期節は舊曆の十月より翌年三月までなりしにして十一月より十二月中旬頃までは秋出来といひこれと摘とる間に生殖するものと春の彼岸までにつみとるこれと寒出来といふ此寒出来とつみとる期節の末に生ひ出るものと俗に彼岸海苔といふ三月中に摘とるなり其製法は 東京府下大森邊の如し ことなることをおければ請はず尤第三十五號各圖に其器具としめして了解に便ならしむ

○篠漬 (一名笹浸し) (第卅六號)

箭の葉のおほま竹又は枝葉のおもき檜栗の類と周回三尺もしくは四尺位につるね葉の太き細ともて結び竹又は掉と水中適宜のところにてこれおむとびつけ水中に投ぎおくなりかくの如くすれば暗黒なるともて海老其他の雜魚あつまり潜みおると引揚げて捕るあり

漁具圖解終

明治二十一年四月廿五日印刷
同 年 月 日出板

宮城縣農商課編撰

發行兼印刷者 山口德之助

宮城縣陸前國牡鹿郡石卷村
字裏町二百八十一番地

